



# 2023年度環境省LD-Tech水準表

Ver. 1.0

令和5年（2023年）12月



# 2023年度 環境省LD-Tech水準表 Ver. 1.0 (2023年12月)

- 本水準表の作成にあたっては、個社及び業界団体からの情報提供やカタログ等の公表資料を中心に情報を収集し、当該技術に専門的知見を有する有識者からの御意見を参考としながら、科学技術的・客観的観点から情報を整理しています。
- 本水準表は、令和5年（2023年）12月までに収集した情報をもとに作成したものであり、今後も情報収集を継続するとともに、ご意見をいただき更新・充実させていく予定です。
- なお、2022年度環境省LD-Tech水準表、2023年環境省LD-Tech水準表(案)からの変更箇所については、赤字で表示しております。

項目	主な記載内容
水準表クラスNo.	クラスごとにIDを付番。
区分	<p>以下のように、エネルギー源を示した「部門」軸と、エネルギー技術を原理・しくみの違いで整理した「技術」軸に区分。</p> <p>部門1：当該設備・機器等の導入可能性の高い部門 部門2：当該設備・機器等の利用可能性の高い用途、業種、プロセス、輸送手段 技術分類：設備・機器等のカテゴリ（基本的な原理・しくみの種別）</p> <p>※参照：環境省「日本の約束草案要綱（案）」、国立環境研究所「日本国温室効果ガスインベントリ報告書」、エネルギー戦略協議会「エネルギー技術体系」、日本エネルギー経済研究所「エネルギー・経済統計要覧」</p>
設備・機器等	設備・機器等（システム、設備・機器、部材等）の名称を記載。 2030年温室効果ガス46%削減（2013年比）、2050年カーボンニュートラルの達成という目標に向けて、環境省がCO2削減に重要と考える設備・機器等（カテゴリ）を、「CO2削減効果」及び「導入可能性」の観点で選定。
原理・しくみ	設備・機器等の原理・しくみ、またはCO2削減に資する原理・しくみの説明を記載。
クラス	認証の単位となるクラスを記載。購買の選択条件に応じて、条件（仕様、付加機能等）及び能力（加熱能力、発電出力等）で分類。
トップランナー制度規定	『トップランナー制度』において省エネ基準が導入されている設備・機器等を「■」として記載。
認証対象	2023年度環境省LD-Tech認証制度において、募集対象となる設備・機器等を「○」または「●」、募集対象外の設備・機器等を「-（ハイフン）」として記載。 なお、「●」は簡易申請の対象となり得るクラスを示す。簡易申請の対象については、実施要領等に記載。 また、「Oriented」が表示されているクラスは、LD-Tech Orientedとして分類。

項目		主な記載内容
LD-Tech水準		LD-Tech水準を記載。本水準は、指定された試験条件に基づき測定された結果を、指定の計算方法によって算出した値である。本水準は、2022年12月時点における値であり、かつ収集できた情報のうち最高性能の値を採用している。なお、「*（アスタリスク）」が付与されているクラスは、根拠資料として試験結果報告書の提出を受付可能であることを示す。
指標	測定単位	LD-Tech水準の単位、及びその名称を記載。
	評価方法のタイプ	以下のいずれかから、効率性能の評価方法のタイプを記載。 標準規格による評価：JIS等の国際・日本標準の規格、または省エネ法等の法律に準拠した試験条件及び計算方法によって評価する方法 標準条件による評価：規格化されていないが一部で標準条件として用いられている、または標準として業界と合意した試験条件及び計算方法によって評価する方法 シミュレーションによる評価：標準条件に基づき、実試験ではなくコンピュータ上で模擬試験を行うことによって評価する方法 具備機能による評価：一定レベル以上の機能を具備しているものを評価する方法
	計算方法	性能の計算方法について、準拠すべき規格または具体的な方法を記載。
	試験条件	性能を評価するための試験条件について、準拠すべき規格または具体的な条件を記載。
備考		特記事項等を記載。
記号の使用方法		本リスト中の「 - 」、「・」及び「 / 」は、下記を示す。 「 - 」：対象項目に該当する情報が存在しない、非対象。 「・」：AND条件。例) 空調機（ヒートポンプ・個別方式） → （ヒートポンプかつ個別方式の）空調機 「 / 」：OR条件。例) 空調/産業用プロセス → 空調または産業用プロセス

水準表 クラスNo.	区分			クラス			トップ ランナー 制度 規定	認証対象	LD-Tech 水準	指標									
	技術分類	設備・機器等	概要 原理・しくみ	条件	能力 (名称)	能力 (単位)				測定単位		計算方法			試験条件				
										単位	名称	評価方法の タイプ	準拠する 規格	規格の 名称	計算式	準拠する 規格	規格の 名称	説明	
S-001001	空調機 (ヒートポン プ・個別方 式)	ガスヒートポン	室外機内のコンプレッサの駆動をガスエン ジンで行うヒートポンプ方式の空調調和 機。	-	相当馬力数	7.5HP以下	-	● Oriented	1.19	-	COPp	標準規格に よる評価	-	-	$COPp = (Ccr + Chr) / 2$ $Ccr = \Phi$ $cr / (Gcr + Pcr / (3600 / 976$ $0))$ , $Chr = \Phi$ $hr / (Ghr + Phr / (3600 / 976$ $0))$ Ccr : 冷房成績係数 Chr : 暖房成績係数 $\Phi cr$ : 定格冷房標準能力(kW) $\Phi hr$ : 定格暖房標準能力 (kW) Gcr : 定格冷房標準 ガス消費量(kW) Ghr : 定 格暖房標準ガス消費量 (kW) Pcr : 定格冷房標準 消費電力(kW) Phr : 定格 暖房標準消費電力(kW) ※COPplは、小数点3桁目を 切捨て、小数点2桁目までを 表示する。	JRA4067: 2015または JISB8627 :2006	いずれもガス ヒートポン プ冷暖房機	JRA4067:2015または JISB8627:2006に準拠。 ただし、電源の周波数は、 50Hzとする。	
S-001002						7.5HP超 10HP以下	-	○ Oriented	1.22										
S-001003						10HP超 16HP以下	-	● Oriented	1.39										
S-001004						16HP超 25HP以下	-	○ Oriented	1.34										
S-001005						25HP超	-	○ Oriented	1.3										
S-001006				-	相当馬力数	7.5HP以下	-	- Oriented	-	-	期間成績係 数 (APFp)	標準規格に よる評価	JISB8627 :2015	ガスヒートポ ンプ冷暖房 機	JISB8627:2015に準拠	JISB8627 :2015	ガスヒートポ ンプ冷暖房 機	JISB8627:2015に準拠	
S-001007						7.5HP超 10HP以下	-	● Oriented	1.65										
S-001008						10HP超 16HP以下	-	● Oriented	2.1										
S-001009						16HP超 25HP以下	-	● Oriented	2.19										
S-001010						25HP超	-	● Oriented	2.12										

水準表 クラスNo.	区分			クラス			トップ ランナー 制度 規定	認証対象	LD-Tech 水準	指標									
	技術分類	設備・機器等	概要 原理・しくみ	条件	能力 (名称)	能力 (単位)				測定単位		計算方法			試験条件				
										単位	名称	評価方法の タイプ	準拠する 規格	規格の 名称	計算式	準拠する 規格	規格の 名称	説明	
S-001011	空調機 (ヒートポン プ・個別方 式)	ガスヒートポン	室外機内のコンプレッサの駆動をガスエ ンジンで行うヒートポンプ方式の空調調和 機。	寒冷地仕様	相当馬力数	7.5HP以下	-	● Oriented	1.19	-	COPp	標準規格に よる評価	-	-	$COPp = (Ccr + Chr) / 2$ $Ccr = \Phi$ $cr / (Gcr + Pcr / (3600 / 976$ $0))$ , $Chr = \Phi$ $hr / (Ghr + Phr / (3600 / 976$ $0))$ Ccr : 冷房成績係数 Chr : 暖房成績係数 $\Phi cr$ : 定格冷房標準能力(kW) $\Phi hr$ : 定格暖房標準能力 (kW) Gcr : 定格冷房標準 ガス消費量(kW) Ghr : 定 格暖房標準ガス消費量 (kW) Pcr : 定格冷房標準 消費電力(kW) Phr : 定格 暖房標準消費電力(kW) ※COPplは、小数点3桁目を 切捨て、小数点2桁目までを 表示する。	JRA4067: 2015または JISB8627 :2006	いずれもガス ヒートポン プ冷暖房機	JRA4067:2015または JISB8627:2006に準拠。た だし、電源の周波数は、 50Hzとする。	
S-001012						7.5HP超 10HP以下	-	● Oriented	1.28										
S-001013						10HP超 16HP以下	-	● Oriented	1.47										
S-001014						16HP超 25HP以下	-	● Oriented	1.38										
S-001015						25HP超	-	● Oriented	1.27										
S-001016						7.5HP以下	-	- Oriented	-	-	期間成績係 数 (APFp)	標準規格に よる評価	JISB8627 :2015	ガスヒートポ ンプ冷暖房 機	JISB8627:2015に準拠	JISB8627 :2015	ガスヒートポ ンプ冷暖房 機	JISB8627:2015に準拠	
S-001017						7.5HP超 10HP以下	-	● Oriented	1.65										
S-001018						10HP超 16HP以下	-	● Oriented	2.09										
S-001019						16HP超 25HP以下	-	● Oriented	2.19										
S-001020						25HP超	-	● Oriented	2.12										

水準表 クラスNo.	区分			クラス			トップ ランナー 制度 規定	認証対象	LD-Tech 水準	指標									
	技術分類	設備・機器等	概要 原理・しくみ	条件	能力 (名称)	能力 (単位)				測定単位		計算方法			試験条件				
										単位	名称	評価方法の タイプ	準拠する 規格	規格の 名称	計算式	準拠する 規格	規格の 名称	説明	
S-001021	空調機 (ヒートポン プ・個別方 式)	ガスヒートポン	室外機内のコンプレッサの駆動をガスエンジ ンで行うヒートポンプ方式の空調調和 機。	発電機付	相当馬力数	7.5HP以下	-	- Oriented	-	-	COPp	標準規格に よる評価	-	-	$COPp = (Ccr + Chr) / 2$ $Ccr = \Phi$ $cr / (Gcr + Pcr / (3600 / 976$ $0))$ , $Chr = \Phi$ $hr / (Ghr + Phr / (3600 / 976$ $0))$ Ccr : 冷房成績係数 Chr : 暖房成績係数 $\Phi cr$ : 定格冷房標準能力(kW) $\Phi hr$ : 定格暖房標準能力 (kW) Gcr : 定格冷房標準 ガス消費量(kW) Ghr : 定 格暖房標準ガス消費量 (kW) Pcr : 定格冷房標準 消費電力(kW) Phr : 定格 暖房標準消費電力(kW) ※COPplは、小数点3桁目を 切捨て、小数点2桁目までを 表示する。	JRA4067: 2015または JISB8627 :2006	いずれもガス ヒートポン プ冷暖房機	JRA4067:2015または JISB8627:2006に準拠。た だし、電源の周波数は、 50Hzとする。	
S-001022						7.5HP超 10HP以下	-	- Oriented	-	-									
S-001023						10HP超 16HP以下	-	○ Oriented	1.34	-									
S-001024						16HP超 25HP以下	-	● Oriented	1.38	-									
S-001025						25HP超	-	○ Oriented	1.27	-									
S-001026						7.5HP以下	-	- Oriented	-	-	期間成績係 数 (APFp)	標準規格に よる評価	JISB8627 :2015	ガスヒートポ ンプ冷暖房 機	JISB8627:2015に準拠	JISB8627 :2015	ガスヒートポ ンプ冷暖房 機	JISB8627:2015に準拠	
S-001027						7.5HP超 10HP以下	-	- Oriented	-	-									
S-001028						10HP超 16HP以下	-	● Oriented	2.09	-									
S-001029						16HP超 25HP以下	-	○ Oriented	1.97	-									
S-001030						25HP超	-	○ Oriented	1.91	-									

水準表 クラスNo.	区分		概要		クラス			トップ ランナー 制度 規定	認証対象	LD-Tech 水準	指標								
	技術分類	設備・機器等	原理・しくみ	条件	能力 (名称)	能力 (単位)	測定単位				計算方法			試験条件					
							単位				名称	評価方法の タイプ	準拠する 規格	規格の 名称	計算式	準拠する 規格	規格の 名称	説明	
S-002001	空調機 (ヒートポン プ・個別方 式)	パッケージエアコン (店舗・オフィス 用)	電動圧縮機を用いるヒートポンプ式の空 気調和機で、冷房能力が4～28kW程 度。主に店舗・オフィス向け。	-	冷房能力	-	■	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
S-003001		パッケージエアコン (設備用)	電動圧縮機を用いるヒートポンプ式の空 気調和機で、冷房能力が9～140kW 程度。主に工場向け。		冷房能力	28kW以下	■	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
S-003002					冷房能力	28kW超 45kW以下	-	●	4.2	-	通年エネ ルギー消費効 率 (APF)	標準規格に よる評価	JISB8616 :2015	パッケー ジエ アコンディ ショ ナ	JISB8616:2015に準拠	JISB8616 :2015	パッケー ジエ アコンディ ショ ナ	JISB8616:2015に準拠	
S-003003						45kW超 56kW以下	-	●	4.3	-									
S-003004						56kW超 80kW以下	-	●	4	-									
S-003005						80kW超 112kW以 下	-	○	3.7	-									
S-003006						112kW超 140kW以 下	-	●	3.8	-									
S-003007						140kW超	-	●	3.6	-									
S-003008					排熱利用型	冷房能力	9.8kW	-	○	6.1	-	成績係数 (COP)	標準規格に よる評価	JISB8615 -2	エアコン ディ ショ ナ第 2部：ダ クト 接続形 エ アコン ディ ショ ナ及び 空気 対空気 ヒート ポンプ -定 格性能 及び 運転 性能 試験 方法	JISB8615-2に準拠	JISB8615 -2	エアコン ディ ショ ナ第 2部：ダ クト 接続形 エ アコン ディ ショ ナ及び 空気 対空気 ヒート ポンプ -定 格性能 及び 運転 性能 試験 方法	JISB8615-2に準拠。ただ し、ユニット吸込温度について は55℃とする。
S-004001			パッケージエアコン (ビル用マルチ)	電動圧縮機を用いるヒートポンプ式の空 気調和機で、冷房能力が14～120kW 程度。主にビル向け。室内機ごとの個別 制御機能を持つ。	-	冷房能力	50.4kW以 下	■	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
S-004006						50.4kW超 56.0kW以 下	-	●	6.5	-	通年エネ ルギー消費効 率 (APF)	標準規格に よる評価	JISB8616 :2015	パッケー ジエ アコンディ ショ ナ	JISB8616:2015に準拠	JISB8616 :2015	パッケー ジエ アコンディ ショ ナ	JISB8616:2015に準拠	

水準表 クラスNo.	区分		概要		クラス			トップ ランナー 制度 規定	認証対象	LD-Tech 水準	指標							
	技術分類	設備・機器等	原理・しくみ	条件	能力 (名称)	能力 (単位)	測定単位				計算方法			試験条件				
							単位				名称	評価方法の タイプ	準拠する 規格	規格の 名称	計算式	準拠する 規格	規格の 名称	説明
S-004002	空調機 (ヒートポン プ・個別方 式)	パッケージエアコン (ビル用マルチ)	電動圧縮機を用いるヒートポンプ式の空 気調和機で、冷房能力が14~120kW 程度。主にビル向け。室内機ごとの個別 制御機能を持つ。	-	冷房能力	56.0kW超 69.0kW以 下	-	●	6.7	-	通年エネル ギ-消費効 率 (APF)	標準規格に よる評価	JISB8616 :2015	パッケージ エアコンディ ション	JISB8616:2015に準拠	JISB8616 :2015	パッケージ エアコンディ ション	JISB8616:2015に準拠
S-004003						69.0kW超 80.0kW以 下	-	●	6.6									
S-004004						80.0kW超 90.0kW以 下	-	●	6.7									
S-004005						90.0kW超	-	●	6.7									
S-005001	空調機 (ヒートポン プ・個別方 式)	氷蓄熱式パッケ ージエアコン	パッケージエアコンの室外ユニットと室内ユ ニットの間に氷蓄熱槽を持っており、夜間 の冷房を使っていない時間帯に、氷蓄熱 槽の熱交換器で氷を作り、昼間の冷房 運転時には、室外ユニットを通った冷媒を 氷蓄熱槽の熱交換器でさらに冷やしてか ら室内機に送ることによって利用する。 2050年に向けた再生可能エネルギー発 電の最大活用に資することが期待され る。	-	蓄熱利用冷 房能力	14.0kW以 下	-	●	3.64	-	日量蓄熱利 用冷房効率	標準規格に よる評価	JRA4053: 2007	氷蓄熱式 パッケ-ジ ェエアコン ディショ ン	JRA4053:2007に準拠	JRA4053: 2007	氷蓄熱式 パッケ-ジ ェエアコン ディショ ン	JRA4053:2007に準拠
S-005002						14.0kW超 16.0kW以 下	-	-	-	-								
S-005003						16.0kW超 22.4kW以 下	-	-	-	-								
S-005004						22.4kW超 28.0kW以 下	-	-	-	-								
S-005005						28.0kW超 45.0kW以 下	-	-	-	-								
S-005006						45.0kW超 56.0kW以 下	-	-	-	-								
S-005007						56.0kW超 80.0kW以 下	-	-	-	-								



水準表 クラスNo.	区 分			要 要			ク ラ ス			指 標								
	技術分類	設備・機器等	原理・しくみ	条件	能力 (名称)	能力 (単位)	ト ップ ラン ナー 制 度 規 定	認 証 対 象	LD-Tech 水 準	測 定 単 位			計 算 方 法			試 験 条 件		
										単 位	名 称	評 価 方 法 の タ イ プ	準 拠 する 規 格	規 格 の 名 称	計 算 式	準 拠 する 規 格	規 格 の 名 称	説 明
S-005008	空調機 (ヒートポン プ・個別方 式)	氷蓄熱式パッ ケージエ アコン	パッケージエアコンの室外ユニットと室内ユ ニットの間に氷蓄熱槽を持っており、夜間 の冷房を使っていない時間帯に、氷蓄熱 槽の熱交換器で水を作り、昼間の冷房 運転時には、室外ユニットを通った冷媒を 氷蓄熱槽の熱交換器でさらに冷やしてか ら室内機に送ることによって利用する。 2050年に向けた再生可能エネルギー発 電の最大活用に資することが期待され る。	-	蓄熱利用冷 房能力	80.0kW超 112.0kW 以下	-	-	-	-	日量蓄熱利 用冷房効率	標準規格に よる評価	JRA4053: 2007	氷蓄熱式 パッケージ エアコンディ ション	JRA4053:2007に準拠	JRA4053: 2007	氷蓄熱式 パッケージ エアコンディ ション	JRA4053:2007に準拠
S-005009				-		112.0kW 超	-	●	2.6	-								
S-008001	熱源・空調 機（ヒートポ ンプ・中央方 式）	フロン類等冷媒ター ボ冷凍機	蒸発器、圧縮機、凝集器、弁からなる。 蒸発器内の冷媒を蒸発させ蒸発器内の パイプの中の循環水を冷やし、冷水として 取り出して使用する機器。蒸発した冷媒 は圧縮機で昇圧され、凝縮器内の冷却 水で凝縮され液体に戻る。HFC冷媒また はHFO冷媒を使用している。	-	冷却能力	200RT未 満	-	●	6.7	*	期 間 成 績 係 数 (IPLV)	標準規格に よる評価	JISB8621 :2011	遠心冷凍機	JISB8621:2011に準拠	JISB8621 :2011	遠心冷凍機	JISB8621:2011に準拠
S-008002				-		200RT以 上250RT 未満	-	●	9.2	*								
S-008003				-		250RT以 上300RT 未満	-	●	9.4	*								
S-008004				-		300RT以 上350RT 未満	-	○	9.41	*								
S-008005				-		350RT以 上400RT 未満	-	●	9.4	*								
S-008006				-		400RT以 上500RT 未満	-	○	9.63	*								
S-008007				-		500RT以 上600RT 未満	-	●	9.6	*								
S-008008				-		600RT以 上700RT 未満	-	●	9.3	*								

水準表 クラスNo.	区分			クラス			トップ ランナー 制度 規定	認証対象	LD-Tech 水準	指標												
	技術分類	設備・機器等	概要 原理・しくみ	条件	能力 (名称)	能力 (単位)				測定単位		計算方法			試験条件							
										単位	名称	評価方法の タイプ	準拠する 規格	規格の 名称	計算式	準拠する 規格	規格の 名称	説明				
S-008009	熱源・空調 機（ヒートボ ンプ・中央方 式）	フロン類等冷媒ター ボ冷凍機	蒸発器、圧縮機、凝集器、弁からなる。 蒸発器内の冷媒を蒸発させ蒸発器内の パイプの中の循環水を冷やし、冷水として 取り出して使用する機器。蒸発した冷媒 は圧縮機で昇圧され、凝縮器内の冷却 水で凝縮され液体に戻る。HFC冷媒また はHFO冷媒を使用している。	-	冷却能力	700RT以 上1000RT 未満	-	●	9.9	*	-	期間成績係 数 (IPLV)	標準規格に よる評価	JISB8621 :2011	遠心冷凍機	JISB8621:2011に準拠	JISB8621 :2011	遠心冷凍機	JISB8621:2011に準拠			
S-008010				-	1000RT以 上1500RT 未満	-	●	9.6	*	-												
S-008011				-	1500RT以 上	-	●	9.29	*	-												
S-008012				-	200RT未 満	-	●	6.17	*	-	成績係数 (COP)	標準規格に よる評価	JISB8621 :2011	遠心冷凍機	JISB8621:2011に準拠	JISB8621 :2011	遠心冷凍機	JISB8621:2011に準拠				
S-008013				-	200RT以 上250RT 未満	-	●	6.34	*	-												
S-008014				-	250RT以 上300RT 未満	-	○	6.4	*	-												
S-008015				-	300RT以 上350RT 未満	-	○	6.4	*	-												
S-008016				-	350RT以 上400RT 未満	-	○	6.29	*	-												
S-008017				-	400RT以 上500RT 未満	-	●	6.6	*	-												
S-008018				-	500RT以 上600RT 未満	-	●	6.5	*	-												
S-008019				-	600RT以 上700RT 未満	-	○	6.36	*	-												
S-008020				-	700RT以 上1000RT 未満	-	○	6.45	*	-												

水準表 クラスNo.	区分		概要		クラス			トップ ランナー 制度 規定	認証対象	LD-Tech 水準	指標								
	技術分類	設備・機器等	原理・しくみ	条件	能力 (名称)	能力 (単位)	測定単位				計算方法			試験条件					
							単位				名称	評価方法の タイプ	準拠する 規格	規格の 名称	計算式	準拠する 規格	規格の 名称	説明	
S-008021	熱源・空調 機（ヒートボ ンプ・中央方 式）	フロン類等冷媒ター ボ冷凍機	蒸発器、圧縮機、凝集器、弁からなる。 蒸発器内の冷媒を蒸発させ蒸発器内の パイプの中の循環水を冷やし、冷水として 取り出して使用する機器。蒸発した冷媒 は圧縮機で昇圧され、凝縮器内の冷却 水で凝縮され液体に戻る。HFC冷媒また はHFO冷媒を使用している。	-	冷却能力	1000RT以 上1500RT 未満	-	○	6.61	*	-	成績係数 (COP)	標準規格に よる評価	JISB8621 :2011	遠心冷凍機	JISB8621:2011に準拠	JISB8621 :2011	遠心冷凍機	JISB8621:2011に準拠
S-008022				-	1500RT以 上	-	○	6.66	*	-									
S-009001	自然冷媒ターボ冷 凍機	蒸発器、圧縮機、凝集器、弁からなる。 蒸発器内の冷媒を蒸発させ蒸発器内の パイプの中の循環水を冷やし、冷水として 取り出して使用する機器。蒸発した冷媒 は圧縮機で昇圧され、凝縮器内の冷却 水で凝縮され液体に戻る。従来はHFC 冷媒が使用されるケースが多いが、本設 備・機器等は自然冷媒である水が使用 されている。公共スペース、地下街、及び 医療機関での使用が期待されている。	-	冷却能力	200RT未 満	-	○	7.36	*	-	期間成績係 数 (IPLV)	標準規格に よる評価	JISB8621 :2011	遠心冷凍機	JISB8621:2011に準拠	JISB8621 :2011	遠心冷凍機	JISB8621:2011に準拠	
S-009002			-	300RT以 上400RT 未満	-	-	-	-											
S-010001	水冷ヒートポンプチ ラー	水を熱源としたヒートポンプ方式の水冷 式チリングユニット。	-	冷却能力	40.0kW以 下	-	○	4.48	-	-	成績係数 (COP)	標準規格に よる評価	JISB8613 :1994また は JRA4066: 2014	いずれも ウォータチリン グユニット	JISB8613:1994または JRA4066:2014に準拠	JISB8613 :1994また は JRA4066: 2014	いずれも ウォータチリン グユニット	JISB8613:1994または JRA4066:2014に準拠	
S-010002			-	40.0kW超 80.0kW以 下	-	○	4.28	-											
S-010003			-	80.0kW超 118.0kW 以下	-	○	5.41	-											
S-010015			-	118.0kW 超 150.0kW 以下	-	○	5.34	-											
S-010016			-	150.0kW 超 180.0kW 以下	-	●	5.15	-											

水準表 クラスNo.	区分		概要		クラス			トップ ランナー 制度 規定	認証対象	LD-Tech 水準	指標																											
	技術分類	設備・機器等	原理・しくみ	条件	能力 (名称)	能力 (単位)	測定単位				計算方法			試験条件																								
							単位				名称	評価方法の タイプ	準拠する 規格	規格の 名称	計算式	準拠する 規格	規格の 名称	説明																				
S-010005	熱源・空調 機（ヒートボ ンプ・中央方 式）	水冷ヒートポンプチ ラー	水を熱源としたヒートポンプ方式の水冷 式チリングユニット。	-	冷却能力	180.0kW 超 500.0kW 以下	-	○	5.57	-	成績係数 (COP)	標準規格に よる評価	JISB8613 :1994また は JRA4066: 2014	いずれも ウォータチリン グユニット	JISB8613:1994または JRA4066:2014に準拠	JISB8613 :1994また は JRA4066: 2014	いずれも ウォータチリン グユニット	JISB8613:1994または JRA4066:2014に準拠																				
S-010006				-		500.0kW 超 1000.0kW 以下	-	●	6	-																												
S-010007				-		1000.0kW 超 1500.0kW 以下	-	○	5.22	-																												
S-010008				ブライ仕様、ブライ ン入口温度 0℃、ブライ ン出口温度 -5℃	冷却能力	40.0kW以 下	-	○	2.37	-									成績係数 (COP)	標準規格に よる評価	JISB8613 :1994また は JRA4066: 2014	いずれも ウォータチリン グユニット	JISB8613:1994または JRA4066:2014に準拠	JISB8613 :1994また は JRA4066: 2014	いずれも ウォータチリン グユニット	JISB8613:1994または JRA4066:2014に準拠。た だし、ブライン入口温度につ いては0℃、ブライン出口温度に ついては-5℃とする。												
S-010009				-			40.0kW超 80.0kW以 下	-	○	2.9																	-											
S-010010				-			80.0kW超 118.0kW 以下	-	○	3.2																	-											
S-010011				-			118.0kW 超	-	○	3.21																	-											
S-010012				-			180.0kW 以下 180.0kW 超	-	●	3.63																	-											
S-010013				-			500.0kW 以下 500.0kW 超	-	○	2.72																	-											
S-010014				-			1000.0kW 以下 1000.0kW 超 1500.0kW 以下	-	-	-																	-											
S-011001				空冷ヒートポンプチ ラー			空気を熱源としたヒートポンプ方式の空 冷式チリングユニット。	-	冷却能力	19.0kW以 下																	-	●	5.2	-	期間成績係 数 (IPLV)	標準規格に よる評価	JRA4066: 2017	ウォータチリン グユニット	JRA4066:2017に準拠	JRA4066: 2017	ウォータチリン グユニット	JRA4066:2017に準拠
S-011002								-		19.0kW超 25.0kW以 下																	-	●	5.1	-								

水準表 クラスNo.	区分			クラス			トップ ランナー 制度 規定	認証対象	LD-Tech 水準	指標																
	技術分類	設備・機器等	原理・しくみ	条件	能力 (名称)	能力 (単位)				測定単位		計算方法			試験条件											
										単位	名称	評価方法の タイプ	準拠する 規格	規格の 名称	計算式	準拠する 規格	規格の 名称	説明								
S-011003	熱源・空調 機（ヒートボ ンプ・中央方 式）	空冷ヒートポンプチ ラー	空気を熱源としたヒートポンプ方式の空 冷式チリングユニット。	-	冷却能力	25.0kW超 37.5kW以 下	-	●	5.1	-	期間成績係 数 (IPLV)	標準規格に よる評価	JRA4066: 2017	ウォータチリン グユニット	JRA4066:2017に準拠	JRA4066: 2017	ウォータチリン グユニット	JRA4066:2017に準拠								
S-011004						37.5kW超 50.0kW以 下	-	●	5.2	-																
S-011005						50.0kW超 60.0kW以 下	-	-	-	-																
S-011006						60.0kW超 90.0kW以 下	-	●	6.4	-																
S-011007						90.0kW超 120.0kW 以下	-	●	6	-																
S-011008						120.0kW 超 160.0kW 以下	-	●	5.7	-																
S-011009						160.0kW 超 190.0kW 以下	-	●	5.3	-																
S-011010						190.0kW 超	-	●	5.2	-																
S-011011						60.0kW以 下	-	○	3.85	-									成績係数 (COP)	標準規格に よる評価	JISB8613 :2019また は JRA4066:	いずれも ウォータチリン グユニット	JISB8613:2019または JRA4066:2017に準拠	JISB8613 :2019また は JRA4066:	いずれも ウォータチリン グユニット	JISB8613:2019または JRA4066:2017に準拠
S-011012						60.0kW超 90.0kW以 下	-	●	4.07	-																
S-011013						90.0kW超 120.0kW 以下	-	○	4	-																
S-011014						120.0kW 超 160.0kW 以下	-	○	4	-																
S-011015						160.0kW 超	-	○	4.3	-																

水準表 クラスNo.	区分			概要			クラス			LD-Tech 水準	指標											
	技術分類	設備・機器等	原理・しくみ	条件	能力 (名称)	能力 (単位)	トップ ランナー 制度 規定	認証対象	測定単位		計算方法				試験条件							
									単位		名称	評価方法の タイプ	準拠する 規格	規格の 名称	計算式	準拠する 規格	規格の 名称	説明				
S-011016	熱源・空調 機（ヒートボ ンプ・中央方 式）	空冷ヒートポンプチ ラー	空気を熱源としたヒートポンプ方式の空 冷式チリングユニット。	出口温度 60℃	加熱能力	60.0kW以 下	-	-	-	-	成績係数 (COP)	標準条件に よる評価	JISB8613 :2019また は JRA4066:	いずれも ウォータチリン グユニット	JISB8613:2019または JRA4066:2017に準拠	JISB8613 :2019また は JRA4066:	いずれも ウォータチリン グユニット	JISB8613:2019または JRA4066:2017に準拠。た だし、出口温度は60℃とす る。				
S-011017						60.0kW超 90.0kW以 下	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
S-011018						90.0kW超 120.0kW 以下	-	○	2.76	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
S-011019						120.0kW 超 160.0kW 以下	-	○	2.59	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
S-011020						160.0kW 超	-	○	2.54	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
S-011021				ブライン仕 様、ブライ ン入口温度 0℃、ブライ ン出口温度 -5℃	冷却能力	60.0kW以 下	-	-	-	-	成績係数 (COP)	標準規格に よる評価	JISB8613 :2019また は JRA4066: 2017	いずれも ウォータチリン グユニット	JISB8613:2019または JRA4066:2017に準拠	JISB8613 :2019また は JRA4066: 2017	いずれも ウォータチリン グユニット	JISB8613:2019または JRA4066:2017に準拠。た だし、ブライン入口温度につ いては0℃、ブライン出口温度に ついては-5℃とする。				
S-011022				60.0kW超 90.0kW以 下	-	○	2.88	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
S-011023				90.0kW超 120.0kW 以下	-	○	2.68	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
S-011024				120.0kW 超 160.0kW 以下	-	○	2.64	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
S-011025				160.0kW 超	-	○	2.79	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
S-011026				60.0kW以 下	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		

水準表 クラスNo.	区分			概要			クラス			LD-Tech 水準	指標									
	技術分類	設備・機器等	原理・しくみ	条件	能力 (名称)	能力 (単位)	トップ ランナー 制度 規定	認証対象	測定単位		計算方法			試験条件						
									単位		名称	評価方法の タイプ	準拠する 規格	規格の 名称	計算式	準拠する 規格	規格の 名称	説明		
S-011027	熱源・空調 機（ヒートボ ンプ・中央方 式）	空冷ヒートポンプチ ラー	空気を熱源としたヒートポンプ方式の空 冷式チリングユニット。	ブライン仕 様、ブライ ン入口温度 0℃、ブライ ン出口温度 -5℃、散水 式	冷却能力	60.0kW超 90.0kW以 下	-	○	3.71	-	成績係数 (COP)	標準規格に よる評価	JISB8613 :2019また は JRA4066: 2017	いずれも ウォータチリン グユニット	JISB8613:2019または JRA4066:2017に準拠	JISB8613 :2019また は JRA4066: 2017	いずれも ウォータチリン グユニット	JISB8613:2019または JRA4066:2017に準拠		
S-011028						90.0kW超 120.0kW 以下	-	○	3.64	-										
S-011029						120.0kW 超 160.0kW 以下	-	-	-	-										
S-011030						160.0kW 超	-	-	-	-										
S-011031				寒冷地仕様	冷却能力	60.0kW以 下	-	-	-	-	成績係数 (COP)	標準規格に よる評価	JISB8613 :2019また は JRA4066: 2017	いずれも ウォータチリン グユニット	JISB8613:2019または JRA4066:2017に準拠	JISB8613 :2019また は JRA4066: 2017	いずれも ウォータチリン グユニット	JISB8613:2019または JRA4066:2017に準拠		
S-011032						60.0kW超 90.0kW以 下	-	-	-	-										
S-011033						90.0kW超 120.0kW 以下	-	-	-	-										
S-011034						120.0kW 超 160.0kW 以下	-	●	3.42	-										
S-011035						160.0kW 超	-	-	-	-										
S-011036						出口温度 60℃ 寒冷 地仕様	加熱能力	60.0kW以 下	-	-	-	-	成績係数 (COP)	標準条件に よる評価	JISB8613 :2019また は JRA4066: 2017	いずれも ウォータチリン グユニット	JISB8613:2019または JRA4066:2017に準拠	JISB8613 :2019また は JRA4066: 2017	いずれも ウォータチリン グユニット	JISB8613:2019または JRA4066:2017に準拠
S-011037					60.0kW超 90.0kW以 下	-	-	-	-											
S-011038					90.0kW超 120.0kW 以下	-	●	2.51	-											

水準表 クラスNo.	区分			クラス			トップ ランナー 制度 規定	認証対象	LD-Tech 水準	指標									
	技術分類	設備・機器等	原理・しくみ	条件	能力 (名称)	能力 (単位)				測定単位		計算方法			試験条件				
										単位	名称	評価方法の タイプ	準拠する 規格	規格の 名称	計算式	準拠する 規格	規格の 名称	説明	
S-011039	熱源・空調 機（ヒートボ ンプ・中央方 式）	空冷ヒートポンプチ ラー	空気を熱源としたヒートポンプ方式の空 冷式チリングユニット。	出口温度 60℃ 寒冷 地仕様	加熱能力	120.0kW超	-	●	2.58	-	成績係数 (COP)	標準条件に よる評価	JISB8613 :2019また は JRA4066: 2017	いずれも ウォータチリン グユニット	JISB8613:2019または JRA4066:2017に準拠	JISB8613 :2019また は JRA4066: 2017	いずれも ウォータチリン グユニット	JISB8613:2019または JRA4066:2017に準拠。た だし、出口温度は60℃とす る。	
S-011040						160.0kW 以下	-	○	2	-									
S-011041				寒冷地仕 様、散水式	冷却能力	60.0kW以 下	-	-	-	-	-	成績係数 (COP)	標準規格に よる評価	JISB8613 :2019また は JRA4066: 2017	いずれも ウォータチリン グユニット	JISB8613:2019または JRA4066:2017に準拠	JISB8613 :2019また は JRA4066: 2017	いずれも ウォータチリン グユニット	JISB8613:2019または JRA4066:2017に準拠
S-011042							60.0kW超 90.0kW以 下	-	-	-	-	-							
S-011043							90.0kW超 120.0kW 以下	-	-	-	-	-							
S-011044							120.0kW 超	-	○	4.12	-	-							
S-011126							160.0kW 以下	-	○	5.01	-	-							
S-011127				160.0kW 超	-	-	-	-	-										
S-011046				散水式	冷却能力	60.0kW以 下	-	-	-	-	-	期間成績係 数 (IPLV)	標準規格に よる評価	JISB8613 :2019また は JRA4066: 2017	いずれも ウォータチリン グユニット	JISB8613:2019または JRA4066:2017に準拠	JISB8613 :2019また は JRA4066: 2017	いずれも ウォータチリン グユニット	JISB8613:2019または JRA4066:2017に準拠
S-011047							60.0kW超 90.0kW以 下	-	●	6.6	-	-							
S-011048	90.0kW超 120.0kW 以下	-	●				6.8	-	-										
S-011049	120.0kW 超 160.0kW 以下	-	●				6.5	-	-										



水準表 クラスNo.	区分			概要			クラス			トップ ランナー 制度 規定	認証対象	LD-Tech 水準	指標													
	技術分類	設備・機器等	原理・しくみ	条件	能力 (名称)	能力 (単位)	測定単位		計算方法				試験条件													
							単位	名称	評価方法の タイプ				準拠する 規格	規格の 名称	計算式	準拠する 規格	規格の 名称	説明								
S-011128	熱源・空調 機（ヒートボ ンプ・中央方 式）	空冷ヒートポンプチ ラー	空気を熱源としたヒートポンプ方式の空 冷式チリングユニット。	散水式	冷却能力	160.0kW 超	-	●	6.1	-	期間成績係 数 (IPLV)	標準規格に よる評価	JISB8613 :2019また は JRA4066:	いずれも ウォータチリン グユニット	JISB8613:2019または JRA4066:2017に準拠	JISB8613 :2019また は JRA4066:	いずれも ウォータチリン グユニット	JISB8613:2019または JRA4066:2017に準拠								
S-011129						190.0kW 以下	-	●	6.1	-																
S-011051						190.0kW 超	-	○	4.86	-									成績係数 (COP)	標準規格に よる評価	JISB8613 :2019また は JRA4066: 2017	いずれも ウォータチリン グユニット	JISB8613:2019または JRA4066:2017に準拠	JISB8613 :2019また は JRA4066: 2017	いずれも ウォータチリン グユニット	JISB8613:2019または JRA4066:2017に準拠
S-011052						60.0kW以下	-	●	6.2	-																
S-011053						90.0kW以下	-	●	5.93	-																
S-011054						90.0kW超	-	●	5.38	-																
S-011130						120.0kW以下	-	○	4.62	-																
S-011131						120.0kW超	-	○	4.62	-																
S-011056						160.0kW以下	-	○	4.62	-																
S-011057	160.0kW超	-	○	7	-																					
S-011058	190.0kW以下	-	○	6.7	-																					

水準表 クラスNo.	区分			クラス			トップ ランナー 制度 規定	認証対象	LD-Tech 水準	指標																		
	技術分類	設備・機器等	概要 原理・しくみ	条件	能力 (名称)	能力 (単位)				測定単位		計算方法			試験条件													
										単位	名称	評価方法の タイプ	準拠する 規格	規格の 名称	計算式	準拠する 規格	規格の 名称	説明										
S-011059	熱源・空調 機（ヒートボ ンプ・中央方 式）	空冷ヒートポンプチ ラー	空気を熱源としたヒートポンプ方式の空 冷式チリングユニット。	散水式、冷 水出入口温 度差7℃	冷却能力	120.0kW 超	-	○	6.5	-	期間成績係 数 (IPLV)	標準規格に よる評価	JISB8613 :2019また は JRA4066:	いずれも ウォータチリン グユニット	JISB8613:2019または JRA4066:2017に準拠	JISB8613 :2019また は JRA4066:	いずれも ウォータチリン グユニット	JISB8613:2019または JRA4066:2017に準拠。た だし、冷水出入口温度差につ いては7℃とする。										
S-011060						160.0kW 以下 160.0kW 超	-	○	6.3	-																		
S-011061						冷却能力	60.0kW以 下	-	○	5.04									-	成績係数 (COP)	標準規格に よる評価	JISB8613 :2019また は JRA4066: 2017	JISB8613:2019または JRA4066:2017に準拠	JISB8613 :2019また は JRA4066: 2017	いずれも ウォータチリン グユニット	JISB8613:2019または JRA4066:2017に準拠。た だし、冷水出入口温度差につ いては7℃とする。		
S-011062						60.0kW超 90.0kW以 下	-	●	6.39	-																		
S-011063						90.0kW超 120.0kW 以下	-	●	6.07	-																		
S-011064						120.0kW 超 160.0kW 以下	-	●	5.59	-																		
S-011065						160.0kW 超	-	○	6.3	-																		
S-011066						冷水出入口 温度差7℃	冷却能力	60.0kW以 下	-	-									-	-	期間成績係 数 (IPLV)	標準規格に よる評価	JRA4066: 2017	ウォータチリン グユニット	JRA4066:2017に準拠	JRA4066: 2017	ウォータチリン グユニット	JRA4066:2014に準拠。た だし、冷水出入口温度差につ いては7℃とする。
S-011067						60.0kW超 90.0kW以 下	-	○	6	-																		
S-011068						90.0kW超 120.0kW 以下	-	●	6	-																		
S-011069	120.0kW 超 160.0kW 以下	-	●	5.7	-																							

水準表 クラスNo.	区分			概要			クラス			指標																				
	技術分類	設備・機器等	原理・しくみ	条件	能力 (名称)	能力 (単位)	トップ ランナー 制度 規定	認証対象	LD-Tech 水準	測定単位			計算方法			試験条件														
										単位	名称	評価方法の タイプ	準拠する 規格	規格の 名称	計算式	準拠する 規格	規格の 名称	説明												
S-011070	熱源・空調 機（ヒートボ ンプ・中央方 式）	空冷ヒートポンプチ ラー	空気を熱源としたヒートポンプ方式の空 冷式チリングユニット。	冷水出入口 温度差7℃	冷却能力	160.0kW 超	-	○	5.6	-	期間成績係 数 (IPLV)	標準規格に よる評価	JRA4066: 2017	ウォータチリン グユニット	JRA4066:2017に準拠	JRA4066: 2017	ウォータチリン グユニット	JRA4066:2014に準拠。た だし、冷水出入口温度差につ いては7℃とする。												
S-011071						60.0kW以 下	-	○	4	-	成績係数 (COP)	標準規格に よる評価	JISB8613 :2019また は JRA4066: 2017	いずれも ウォータチリン グユニット	JISB8613:2019または JRA4066:2017に準拠	JISB8613 :2019また は JRA4066: 2017	いずれも ウォータチリン グユニット	JISB8613:2019または JRA4066:2017に準拠。た だし、冷水出入口温度差につ いては7℃とする。												
S-011072						60.0kW超 90.0kW以 下	-	○	4.14	-																				
S-011073						90.0kW超 120.0kW 以下	-	○	3.86	-																				
S-011074						120.0kW 超 160.0kW 以下	-	●	3.7	-																				
S-011075						160.0kW 超	-	●	3.41	-																				
S-011076						冷房専用	冷却能力	19.0kW以 下	-	●	5.2	-	期間成績係 数 (IPLV)	標準規格に よる評価	JISB8613 :2019また は JRA4066: 2017	いずれも ウォータチリン グユニット	JISB8613:2019または JRA4066:2017に準拠	JISB8613 :2019また は JRA4066: 2017	いずれも ウォータチリン グユニット	JISB8613:2019または JRA4066:2017に準拠。										
S-011077	19.0kW超 25.0kW以 下	-	●	5.1	-																									
S-011078	25.0kW超 37.5kW以 下	-	●	5.1	-																									
S-011079	37.5kW超 50.0kW以 下	-	●	5.2	-																									
S-011080	50.0kW超 60.0kW以 下	-	-	-	-																									

水準表 クラスNo.	区分			クラス			トップ ランナー 制度 規定	認証対象	LD-Tech 水準	指標									
	技術分類	設備・機器等	概要 原理・しくみ	条件	能力 (名称)	能力 (単位)				測定単位		計算方法			試験条件				
										単位	名称	評価方法の タイプ	準拠する 規格	規格の 名称	計算式	準拠する 規格	規格の 名称	説明	
S-011081	熱源・空調 機（ヒートボ ンプ・中央方 式）	空冷ヒートポンプチ ラー	空気を熱源としたヒートポンプ方式の空 冷式チリングユニット。	冷房専用	冷却能力	60.0kW超 90.0kW以下	-	●	6.1	-	期間成績係 数 (IPLV)	標準規格に よる評価	JISB8613 :2019また は JRA4066:	いずれも ウォータチリン グユニット	JISB8613:2019または JRA4066:2017に準拠	JISB8613 :2019また は JRA4066:	いずれも ウォータチリン グユニット	JISB8613:2019または JRA4066:2017に準拠。	
S-011082						90.0kW超 120.0kW 以下	-	○	6	-									
S-011083						120.0kW 超 160.0kW 以下	-	●	5.6	-									
S-011084						160.0kW 超 190.0kW 以下	-	●	5.3	-									
S-011085						190.0kW 超	-	●	5.2	-									
S-011086						60.0kW以下	-	○	3.67	-	成績係数 (COP)	標準規格に よる評価	JISB8613 :2019また は JRA4066: 2017	いずれも ウォータチリン グユニット	JISB8613:2019または JRA4066:2017に準拠	JISB8613 :2019また は JRA4066: 2017	いずれも ウォータチリン グユニット	JISB8613:2019または JRA4066:2017に準拠。	
S-011087						60.0kW超 90.0kW以下	-	○	4.07	-									
S-011088						90.0kW超 120.0kW 以下	-	○	3.81	-									
S-011089						120.0kW 超 160.0kW 以下	-	○	4	-									
S-011090						160.0kW 超	-	○	5.3	-									
S-011091				冷房専用、 フライン 仕様、フライン 入口温度- 2℃、フライン 出口温度 -5℃	冷却能力	60.0kW以下	-	●	2.78	-	成績係数 (COP)	標準規格に よる評価	JISB8613 :2019また は JRA4066: 2017	いずれも ウォータチリン グユニット	JISB8613:2019または JRA4066:2017に準拠	JISB8613 :2019また は JRA4066: 2017	いずれも ウォータチリン グユニット	JISB8613:2019または JRA4066:2017に準拠。た だし、フライン入口温度につい ては-2℃、フライン出口温度 については-5℃とする。	

水準表 クラスNo.	区分			概要			クラス			LD-Tech 水準	指標															
	技術分類	設備・機器等	原理・しくみ	条件	能力 (名称)	能力 (単位)	トップ ランナー 制度 規定	認証対象	測定単位		計算方法			試験条件												
									単位		名称	評価方法の タイプ	準拠する 規格	規格の 名称	計算式	準拠する 規格	規格の 名称	説明								
S-011092	熱源・空調 機（ヒートボ ンプ・中央方 式）	空冷ヒートポンプチ ラー	空気を熱源としたヒートポンプ方式の空 冷式チリングユニット。	冷房専用、 ブライン仕 様、ブライン 入口温度- 2℃、ブライ ン出口温度 -5℃	冷却能力	60.0kW超 90.0kW以下	-	○	2.78	-	成績係数 (COP)	標準規格に よる評価	JISB8613 :2019また は JRA4066: 2017	いずれも ウォータチリン グユニット	JISB8613:2019または JRA4066:2017に準拠	JISB8613 :2019また は JRA4066: 2017	いずれも ウォータチリン グユニット	JISB8613:2019または JRA4066:2017に準拠。た だし、ブライン入口温度につい ては-2℃、ブライン出口温度 については-5℃とする。								
S-011093						90.0kW超 120.0kW 以下	-	○	2.72	-																
S-011094						120.0kW 超 160.0kW 以下	-	-	-	-																
S-011095						160.0kW 超	-	-	-	-																
S-011096				冷房専用、 散水式	冷却能力	60.0kW以 下	-	-	-	-									期間成績係 数 (IPLV)	標準規格に よる評価	JISB8613 :2019また は JRA4066: 2017	いずれも ウォータチリン グユニット	JISB8613:2019または JRA4066:2017に準拠	JISB8613 :2019また は JRA4066: 2017	いずれも ウォータチリン グユニット	JISB8613:2019または JRA4066:2017に準拠。
S-011097				60.0kW超 90.0kW以 下	-	●	6.6	-																		
S-011098				90.0kW超 120.0kW 以下	-	●	6.8	-																		
S-011099				120.0kW 超 160.0kW 以下	-	●	6.5	-																		
S-011132	160.0kW 超 190.0kW 以下	-	●	6.1	-																					
S-011133	190.0kW 超	-	●	6.1	-																					

水準表 クラスNo.	区分			クラス			トップ ランナー 制度 規定	認証対象	LD-Tech 水準	指標								
	技術分類	設備・機器等	原理・しくみ	条件	能力 (名称)	能力 (単位)				測定単位		計算方法			試験条件			
										単位	名称	評価方法の タイプ	準拠する 規格	規格の 名称	計算式	準拠する 規格	規格の 名称	説明
S-011101	熱源・空調 機（ヒートボ ンプ・中央方 式）	空冷ヒートポンプチ ラー	空気を熱源としたヒートポンプ方式の空 冷式チリングユニット。	冷房専用、 散水式	冷却能力	60.0kW以 下	-	○	4.86	-	成績係数 (COP)	標準規格に よる評価	JISB8613 :2019また は JRA4066: 2017	いずれも ウォータチリン グユニット	JISB8613:2019または JRA4066:2017に準拠	JISB8613 :2019また は JRA4066: 2017	いずれも ウォータチリン グユニット	JISB8613:2019または JRA4066:2017に準拠。
S-011102						60.0kW超 90.0kW以 下	-	●	6.2	-								
S-011103						90.0kW超 120.0kW 以下	-	●	5.76	-								
S-011104						120.0kW 超 160.0kW 以下	-	●	5.23	-								
S-011134						160.0kW 超 190.0kW 以下	-	○	4.68	-								
S-011135						190.0kW 超	-	○	4.68	-								
S-011106				冷房専用、 冷水出入口 温度差7℃	冷却能力	60.0kW以 下	-	-	-	-	期間成績係 数 (IPLV)	標準規格に よる評価	JISB8613 :2019また は JRA4066: 2017	いずれも ウォータチリン グユニット	JISB8613:2019または JRA4066:2017に準拠	JISB8613 :2019また は JRA4066: 2017	いずれも ウォータチリン グユニット	JISB8613:2019または JRA4066:2017に準拠。た だし、冷水出入口温度差につ いては7℃とする。
S-011107						60.0kW超 90.0kW以 下	-	○	6	-								
S-011108						90.0kW超 120.0kW 以下	-	●	6	-								
S-011109						120.0kW 超 160.0kW 以下	-	○	5.7	-								
S-011110						160.0kW 超	-	○	5.6	-								

水準表 クラスNo.	区分			概要			クラス			LD-Tech 水準	指標							
	技術分類	設備・機器等	原理・しくみ	条件	能力 (名称)	能力 (単位)	トップ ランナー 制度 規定	認証対象	測定単位		計算方法			試験条件				
									単位		名称	評価方法の タイプ	準拠する 規格	規格の 名称	計算式	準拠する 規格	規格の 名称	説明
S-011111	熱源・空調 機（ヒートボ ンプ・中央方 式）	空冷ヒートポンプチ ラー	空気を熱源としたヒートポンプ方式の空 冷式チリングユニット。	冷房専用、 冷水出入口 温度差7℃	冷却能力	60.0kW以 下	-	○	4.01	-	成績係数 (COP)	標準規格に よる評価	JISB8613 :2019また は JRA4066: 2017	いずれも ウォータチリン グユニット	JISB8613:2019または JRA4066:2017に準拠	JISB8613 :2019また は JRA4066: 2017	いずれも ウォータチリン グユニット	JISB8613:2019または JRA4066:2017に準拠。た だし、冷水出入口温度差につ いては7℃とする。
S-011112						60.0kW超 90.0kW以 下	-	○	4.14	-								
S-011113						90.0kW超 120.0kW 以下	-	○	3.86	-								
S-011114						120.0kW 超 160.0kW 以下	-	●	3.7	-								
S-011115						160.0kW 超	-	○	3.61	-								
S-011116				冷房専用、 冷水出入口 温度差 7℃、散水 式	冷却能力	60.0kW以 下	-	-	-	-	期間成績係 数 (IPLV)	標準規格に よる評価	JISB8613 :2019また は JRA4066: 2017	いずれも ウォータチリン グユニット	JISB8613:2019または JRA4066:2017に準拠	JISB8613 :2019また は JRA4066: 2017	いずれも ウォータチリン グユニット	JISB8613:2019または JRA4066:2017に準拠。た だし、冷水出入口温度差につ いては7℃とする。
S-011117						60.0kW超 90.0kW以 下	-	○	7	-								
S-011118						90.0kW超 120.0kW 以下	-	○	6.7	-								
S-011119						120.0kW 超 160.0kW 以下	-	○	6.5	-								
S-011120						160.0kW 超	-	○	6.3	-								

水準表 クラスNo.	概要			クラス			トップ ランナー 制度 規定	認証対象	LD-Tech 水準	指標												
	区分 技術分類	設備・機器等	原理・しくみ	条件	能力 (名称)	能力 (単位)				測定単位		計算方法			試験条件							
										単位	名称	評価方法の タイプ	準拠する 規格	規格の 名称	計算式	準拠する 規格	規格の 名称	説明				
S-011121	熱源・空調機（ヒートポンプ・中央方式）	空冷ヒートポンプチラー	空気を熱源としたヒートポンプ方式の空冷式チリングユニット。	冷房専用、冷水出入口温度差7℃、散水式	冷却能力	60.0kW以下	-	○	5.04	-	成績係数（COP）	標準規格による評価	JISB8613:2019またはJRA4066:2017	いずれもウォータチリングユニット	JISB8613:2019またはJRA4066:2017に準拠	JISB8613:2019またはJRA4066:2017	いずれもウォータチリングユニット	JISB8613:2019またはJRA4066:2017に準拠。ただし、冷水出入口温度差については7℃とする。				
S-011122						60.0kW超 90.0kW以下	-	●	6.39	-												
S-011123						90.0kW超 120.0kW以下	-	●	5.9	-												
S-011124						120.0kW超 160.0kW以下	-	●	5.44	-												
S-011125						160.0kW超	-	○	6.3	-												
S-260001	熱源・空調機（ヒートポンプ・中央方式）	デシカント空調システム	デシカント（除湿剤）を利用して空気中から水蒸気を吸脱着することで、空気の調湿を行う機器。なお、デシカントは外調機あるいは空調機のいずれかに組み込まれる。固体のデシカント（吸着剤）を用いたものを乾式デシカント空調システム、液体のデシカント（吸収溶液）を用いたシステムを湿式デシカントとして区別する。乾式湿式いずれも、従来の圧縮式サイクルによる冷却除湿を行う必要がなく、圧縮式ヒートポンプの空調機器と組み合わせることで、空調システム全体としての大幅な省エネルギーの実現が期待される。	固体（乾式）、顕熱交換機あり、再生熱源：電気ヒートポンプ	最大処理風量	4,000m3/h以下	-	●	8.5	*	kg/h/kW	除湿冷房消費電力あたり除湿量	標準条件による評価	JISB8638:2020	ヒートポンプデシカント方式による調湿外気処理機	Qdehum/P Qdehum：定格除湿量 [kg/h]、P：定格除湿冷房消費電力 [kW]	JISB8638:2020	ヒートポンプデシカント方式による調湿外気処理機	JISB8638:2020に準拠			
S-260002						4,000m3/h超 6,000m3/h以下	-	●	9.9	*												
S-260003						6,000m3/h超 7,500m3/h以下	-	●	9.5	*												
S-260004						7,500m3/h超 9,000m3/h以下	-	●	10.3	*												



水準表 クラスNo.	区分			概要			クラス			トップ ランナー 制度 規定	認証対象	LD-Tech 水準	指標									
	技術分類	設備・機器等	原理・しくみ	条件	能力 (名称)	能力 (単位)	測定単位		計算方法				試験条件									
							単位	名称	評価方法の タイプ				準拠する 規格	規格の 名称	計算式	準拠する 規格	規格の 名称	説明				
S-260005	熱源・空調 機（ヒートボ ンプ・中央方 式）	デシカント空調シ ステム	デシカント（除湿剤）を利用して空気中 から水蒸気を吸脱着することで、空気の 調湿を行う機器。なお、デシカントは外調 機あるいは空調機のいずれかに組み込ま れる。固体のデシカント（吸着剤）を用 いたものを乾式デシカント空調システム、 液体のデシカント（吸収溶液）を用いた システムを湿式デシカントとして区別す る。乾式湿式いずれも、従来の圧縮式サ イクルによる冷却除湿を行う必要がなく、 圧縮式ヒートポンプの空調機器と組み合 わせることで、空調システム全体として 大幅な省エネルギーの実現が期待され る。	固体（乾 式）、顕熱 交換機あ り、再生熱 源：電気 ヒートポン プ	最大処理風 量	9,000m3/ h超 10,500m 3/h以下	-	●	10	*	kg/h/kW	除湿冷房消 費電力あた り除湿量	標準条件に よる評価	JISB8638 :2020	ヒートポン プ デシカント方 式による調 湿外気処理 機	Qdehum/P Qdehum：定格除湿量 [kg/h]、P：定格除湿 冷房消費電力 [kW]	JISB8638 :2020	ヒートポン プ デシカント方 式による調 湿外気処理 機	JISB8638:2020に準拠			
S-260006				10,500m 3/h超	-	●	9.3	*														
S-260007				固体（乾 式）、顕熱 交換機あ り、未利用 熱・再エネ 熱利用	最大処理風 量	3,500m3/ h以下	-	●	26.2	*	kg/h/kW	除湿冷房消 費電力あた り除湿量	標準条件に よる評価	JISB8638 :2020	ヒートポン プ デシカント方 式による調 湿外気処理 機	Qdehum/P Qdehum：定格除湿量 [kg/h]、P：定格除湿 冷房消費電力 [kW]	JISB8638 :2020	ヒートポン プ デシカント方 式による調 湿外気処理 機	JISB8638 :2020	ヒートポン プ デシカント方 式による調 湿外気処理 機	JISB8638:2020に準拠。た だし、排熱はデシカントロータの 再生に利用	
S-260008				3,500m3/ h超 6,000m3/ h以下	-	●	30.2	*														
S-260009				6,000m3/ h超 7,500m3/ h以下	-	●	25.8	*														
S-260010				7,500m3/ h超 9,000m3/ h以下	-	●	29.3	*														
S-260011				9,000m3/ h超 12,000m 3/h以下	-	●	24	*														
S-260012				12,000m 3/h超	-	●	32.4	*														
S-260013				固体（乾 式）、全熱 交換機あ り、再生熱 源：電気 ヒートポン プ	最大処理風 量	4,000m3/ h以下	-	●	11.7	*	kg/h/kW	除湿冷房消 費電力あた り除湿量	標準条件に よる評価	JISB8638 :2020	ヒートポン プ デシカント方 式による調 湿外気処理 機	Qdehum/P Qdehum：定格除湿量 [kg/h]、P：定格除湿 冷房消費電力 [kW]	JISB8638 :2020	ヒートポン プ デシカント方 式による調 湿外気処理 機	JISB8638 :2020	ヒートポン プ デシカント方 式による調 湿外気処理 機	JISB8638:2020に準拠	

水準表 クラスNo.	区分			概要			クラス			トップ ランナー 制度 規定	認証対象	LD-Tech 水準	指標									
	技術分類	設備・機器等	原理・しくみ	条件	能力 (名称)	能力 (単位)	測定単位		計算方法				試験条件									
							単位	名称	評価方法の タイプ				準拠する 規格	規格の 名称	計算式	準拠する 規格	規格の 名称	説明				
S-260014	熱源・空調 機（ヒートボ ンプ・中央方 式）	デシカント空調シ ステム	デシカント（除湿剤）を利用して空気中 から水蒸気を吸脱着することで、空気の 調湿を行う機器。なお、デシカントは外調 機あるいは空調機のいずれかに組み込ま れる。固体のデシカント（吸着剤）を用 いたものを乾式デシカント空調システム、 液体のデシカント（吸収溶液）を用いた システムを湿式デシカントとして区別す る。乾式湿式いずれも、従来の圧縮式サ イクルによる冷却除湿を行う必要がなく、 圧縮式ヒートポンプの空調機器と組み合 わせることで、空調システム全体としての 大幅な省エネルギーの実現が期待され る。	固体（乾 式）、全熱 交換機あ り、再生熱 源：電気 ヒートポン プ	最大処理風 量	4,000m3/ h超 6,000m3/ h以下	-	●	12.9	*	kg/h/kW	除湿冷房消 費電力あた り除湿量	標準条件に よる評価	JISB8638 :2020	ヒートポン プ デシカント方 式による調 湿外気処理 機	Qdehum/P Qdehum：定格除湿量 [kg/h]、P：定格除湿 冷房消費電力 [kW]	JISB8638 :2020	ヒートポン プ デシカント方 式による調 湿外気処理 機	JISB8638:2020に準拠			
S-260015					6,000m3/ h超 8,000m3/ h以下	-	●	12.5	*	kg/h/kW												
S-260016					8,000m3/ h超 10,000m 3/h以下	-	●	11.7	*	kg/h/kW												
S-260017					10,000m 3/h超	-	●	11.5	*	kg/h/kW												
S-260018					10,000m 3/h超	-	●															
S-260019	熱源・空調 機（ヒートボ ンプ・中央方 式）	デシカント空調シ ステム	デシカント（除湿剤）を利用して空気中 から水蒸気を吸脱着することで、空気の 調湿を行う機器。なお、デシカントは外調 機あるいは空調機のいずれかに組み込ま れる。固体のデシカント（吸着剤）を用 いたものを乾式デシカント空調システム、 液体のデシカント（吸収溶液）を用いた システムを湿式デシカントとして区別す る。乾式湿式いずれも、従来の圧縮式サ イクルによる冷却除湿を行う必要がなく、 圧縮式ヒートポンプの空調機器と組み合 わせることで、空調システム全体としての 大幅な省エネルギーの実現が期待され る。	固体（乾 式）、全熱 交換機あ り、再生熱 源：未利用 熱・再エネ 熱利用	最大処理風 量	500m3/h 以下	-	○	12.7	*	kg/h/kW	除湿冷房消 費電力あた り除湿量	標準条件に よる評価	JISB8638 :2020	ヒートポン プ デシカント方 式による調 湿外気処理 機	Qdehum/P Qdehum：定格除湿量 [kg/h]、P：定格除湿 冷房消費電力 [kW]	JISB8638 :2020	ヒートポン プ デシカント方 式による調 湿外気処理 機	JISB8638:2020に準拠。た だし、排熱あるいは太陽熱は デシカントロータの再生に利用			
S-260020					250m3/h 超500m3 以下	-	●	5.16	*	kg/h/kW												
S-260021					500m3/h 超 1,000m3 以下	-	●	4.46	*	kg/h/kW												

水準表 クラスNo.	区分		概要		クラス			トップ ランナー 制度 規定	認証対象	LD-Tech 水準	指標											
	技術分類	設備・機器等	原理・しくみ	条件	能力 (名称)	能力 (単位)	測定単位				計算方法			試験条件								
							単位				名称	評価方法の タイプ	準拠する 規格	規格の 名称	計算式	準拠する 規格	規格の 名称	説明				
S-260022	熱源・空調 機（ヒートボ ンプ・中央方 式）	デシカント空調シ ステム	デシカント（除湿剤）を利用して空気中 から水蒸気を吸脱着することで、空気の 調湿を行う機器。なお、デシカントは外調 機あるいは空調機のいずれかに組み込ま れる。固体のデシカント（吸着剤）を用 いたものを乾式デシカント空調システム、 液体のデシカント（吸収溶液）を用いた システムを湿式デシカントとして区別す る。乾式湿式いずれも、従来の圧縮式サ イクルによる冷却除湿を行う必要がなく、 圧縮式ヒートポンプの空調機器と組み合 わせることで、空調システム全体としての 大幅な省エネルギーの実現が期待され る。	固体（乾 式）、熱交 換器一体型	最大処理風 量	1,000m3/ h超 1,500m3 以下	-	●	5.15	*	kg/h/kW	除湿冷房消 費電力あた り除湿量	標準条件に よる評価	JISB8638 :2020	ヒートポンプ デシカント方 式による調 湿外気処理 機	Qdehum/P Qdehum：定格除湿量 [kg/h]、P：定格除湿 冷房消費電力 [kW]	JISB8638 :2020	ヒートポンプ デシカント方 式による調 湿外気処理 機	JISB8638:2020に準拠			
S-260023								1,500m3/ h超	-	●	5.15	*										
S-260024							液体（湿 式）、再生 熱源：水冷 式ヒートポン プ、ガス温水 器	最大処理風 量	1,500m3/ h以下	-	●	5	*	kg/h/kW	除湿冷房消 費電力あた り除湿量	標準条件に よる評価	JISB8638 :2020	ヒートポンプ デシカント方 式による調 湿外気処理 機	Qdehum/P Qdehum：定格除湿量 [kg/h]、P：定格除湿 冷房消費電力 [kW]	JISB8638 :2020	ヒートポンプ デシカント方 式による調 湿外気処理 機	JISB8638:2020に準拠
S-260025									1,500m3/ h超 3,000m3/ h以下	-	●	4.5	*									
S-260026									3,000m3/ h超 6,000m3/ h以下	-	●	4.6	*									
S-260027									6,000m3/ h以下 6,000m3/ h超	-	●	4.6	*									
S-260028							液体（湿 式）、再生 熱源：未利 用熱・再工 ネ熱利用	最大処理風 量	300m3/h 以下	-	-	-		kg/h/kW	除湿冷房消 費電力あた り除湿量	標準条件に よる評価	JISB8638 :2020	ヒートポンプ デシカント方 式による調 湿外気処理 機	Qdehum/P Qdehum：定格除湿量 [kg/h]、P：定格除湿 冷房消費電力 [kW]	JISB8638 :2020	ヒートポンプ デシカント方 式による調 湿外気処理 機	JISB8638:2020に準拠。た だし、排熱はデシカントロータの 再生に利用
S-260029									300m3/h 超 1,500m3/ h以下	-	-	-										
S-260030						1,500m3/ h超 3,000m3/ h以下	-	-	-													

水準表 クラスNo.	区分			概要			クラス			トップ ランナー 制度 規定	認証対象	LD-Tech 水準	指標								
	技術分類	設備・機器等	原理・しくみ	条件	能力 (名称)	能力 (単位)	測定単位		計算方法				試験条件								
							単位	名称	評価方法の タイプ				準拠する 規格	規格の 名称	計算式	準拠する 規格	規格の 名称	説明			
S-260031	熱源・空調 機（ヒートボ ンプ・中央方 式）	デシカント空調シ ステム	デシカント（除湿剤）を利用して空気中 から水蒸気を吸脱着することで、空気 の調湿を行う機器。なお、デシカントは外調 機あるいは空調機のいずれかに組み込ま れる。固体のデシカント（吸着剤）を用 いたものを乾式デシカント空調システム、 液体のデシカント（吸収溶液）を用いた システムを湿式デシカントとして区別す る。乾式湿式いずれも、従来の圧縮式サ イクルによる冷却除湿を行う必要がなく、 圧縮式ヒートポンプの空調機器と組み合 わせることで、空調システム全体としての 大幅な省エネルギーの実現が期待され る。	液体（湿 式）、再生 熱源：未利 用熱・再工 ネ熱利用	最大処理風 量	3,000m3/ h超 6,000m3/ h以下	-	-	-	kg/h/kW	除湿冷房消 費電力あた り除湿量	標準条件に よる評価	JISB8638 :2020	ヒートポンプ デシカント方 式による調 湿外気処理 機	Qdehum/P Qdehum：定格除湿量 [kg/h]、P：定格除湿 冷房消費電力 [kW]	JISB8638 :2020	ヒートポンプ デシカント方 式による調 湿外気処理 機	JISB8638:2020に準拠。た だし、排熱はデシカントロータの 再生に利用			
S-260032				6,000m3/ h超	-	-	-														
S-260033				固体（乾 式）、デシカ ント1ロータ のみ、電気 ヒートポンプ と未利用熱 （重複）利 用	最大処理風 量	4,000m3/ h以下	-	○	10.4	*	kg/h/kW	除湿冷房消 費電力あた り除湿量	標準条件に よる評価	JISB8638 :2020	ヒートポンプ デシカント方 式による調 湿外気処理 機	Qdehum/P Qdehum：定格除湿量 [kg/h]、P：定格除湿 冷房消費電力 [kW]	JISB8638 :2020	ヒートポンプ デシカント方 式による調 湿外気処理 機	ヒートポンプデシカント方式、 未利用熱・再工ネ熱利用の場 合、排熱はデシカントロータの 再生に利用		
S-260034				4,000m3/ h超 6,000m3/ h以下	-	○	12.1	*													
S-260035				6,000m3/ h超 7,500m3/ h以下	-	○	11.6	*													
S-260036				7,500m3/ h超 9,000m3/ h以下	-	○	12.8	*													
S-260037				9,000m3/ h超 10,500m 3/h以下	-	○	12.3	*													
S-260038				10,500m 3/h超	-	○	11.6	*													

水準表 クラスNo.	区分			クラス			トップ ランナー 制度 規定	認証対象	LD-Tech 水準	指標								
	技術分類	設備・機器等	概要 原理・しくみ	条件	能力 (名称)	能力 (単位)				測定単位		計算方法			試験条件			
										単位	名称	評価方法の タイプ	準拠する 規格	規格の 名称	計算式	準拠する 規格	規格の 名称	説明
S-260039	熱源・空調機 (ヒートポンプ・中央方式)	デシカント空調システム	デシカント(除湿剤)を利用して空気中から水蒸気を吸脱着することで、空気の調湿を行う機器。なお、デシカントは外調機あるいは空調機のいずれかに組み込まれる。固体のデシカント(吸着剤)を用いたものを乾式デシカント空調システム、液体のデシカント(吸収溶液)を用いたシステムを湿式デシカントとして区別する。乾式湿式いずれも、従来の圧縮式サイクルによる冷却除湿を行う必要がなく、圧縮式ヒートポンプの空調機器と組み合わせることで、空調システム全体としての大幅な省エネルギーの実現が期待される。	固体(乾式)、デシカント1ロータのみ、未利用熱・再エネ熱利用	最大処理風量	3,500m <sup>3</sup> /h以下	-	○	39.3	kg/h/kW	除湿冷房消費電力あたり除湿量	標準条件による評価	JISB8638:2020	ヒートポンプデシカント方式による調湿外気処理機	Qdehum/P Qdehum: 定格除湿量 [kg/h]、P: 定格除湿冷房消費電力 [kW]	JISB8638:2020	ヒートポンプデシカント方式による調湿外気処理機	ヒートポンプデシカント方式、未利用熱・再エネ熱利用の場合、排熱はデシカントロータの再生に利用
S-260040						3,500m <sup>3</sup> /h超 6,000m <sup>3</sup> /h以下	-	○	52.1	*								
S-260041						6,000m <sup>3</sup> /h超 7,500m <sup>3</sup> /h以下	-	○	41.9	*								
S-260042						7,500m <sup>3</sup> /h超 9,000m <sup>3</sup> /h以下	-	○	50.1	*								
S-260043						9,000m <sup>3</sup> /h超 12,000m <sup>3</sup> /h以下	-	○	39.1	*								
S-260044						12,000m <sup>3</sup> /h超	-	○	59.2	*								
S-013001	熱源・空調機 (ヒートポンプ・中央方式)・熱源補機	氷蓄熱ユニット	中央方式の空調機における熱源機とは別に氷蓄熱槽を持っており、夜間の冷房を使っていない時間帯に、氷蓄熱槽の熱交換器で氷を作り、昼間の冷房運転時には、室外ユニットを通った冷媒を氷蓄熱槽の熱交換器でさらに冷やしてから室内機に送ることによって利用する。2050年に向けた再生可能エネルギー発電の最大活用に資することが期待される。	-	定格日量冷却能力	1000kW h以下	-	-	-	-	日量成績係数	標準規格による評価	JRA4044:2005	氷蓄熱ユニット	JRA4044:2005に準拠	JRA4044:2005	氷蓄熱ユニット	JRA4044:2005に準拠
S-013002						1000kW h超 2000kWh以下	-	-	-	-								

水準表 クラスNo.	区分		概要		クラス			トップ ランナー 制度 規定	認証対象	LD-Tech 水準	指標								
	技術分類	設備・機器等	原理・しくみ	条件	能力 (名称)	能力 (単位)	測定単位				計算方法			試験条件					
							単位				名称	評価方法の タイプ	準拠する 規格	規格の 名称	計算式	準拠する 規格	規格の 名称	説明	
S-013003	熱源・空調機（ヒートポンプ・中央方式）・熱源補機	氷蓄熱ユニット	中央方式の空調機における熱源機とは別に氷蓄熱槽を持っており、夜間の冷房を使っていない時間帯に、氷蓄熱槽の熱交換器で氷を作り、昼間の冷房運転時には、室外ユニットを通った冷媒を氷蓄熱槽の熱交換器でさらに冷やしてから室内機に送ることによって利用する。2050年に向けた再生可能エネルギー発電の最大活用に資することが期待される。	-	定格日量冷却能力	2000kWh超 3000kWh以下	-	-	-	-	-	日量成績係数	標準規格による評価	JRA4044:2005	氷蓄熱ユニット	JRA4044:2005に準拠	JRA4044:2005	氷蓄熱ユニット	JRA4044:2005に準拠
S-013004						3000kWh超 4000kWh以下	-	-	-	-	-								
S-013005						4000kWh超 5000kWh以下	-	-	-	-	-								
S-013006						5000kWh超	-	-	-	-	-								
S-015001	熱源・空調機（気化式・中央方式）	間接気化式冷却器	間接気化式冷却器は、隔壁で仕切られたDRY流路とWET流路を多数積層した構造からなる。WET側の隔壁面は水を浸した湿潤壁である。ここでDRY流路に高温空気をWET流路には低温空気又は常温空気を流すことで、WET流路で気化熱現象を生じさせ、隔壁の温度が低下するため隣り合うDRY流路を流れる空気の熱が隔壁に伝達し絶対湿度の移行がなく冷却される。この冷却に用いるエネルギーは搬送動力と気化蒸発に使用する水のため、省エネ性が高く、CO2排出量を削減できる機器である。既に食品工場・生産工場・ショッピングセンターを中心に導入が進んでおり、今後データセンター向けに更なる普及が期待される。	-	冷房能力	14.0kW以下	-	●	34.4	*	-	成績係数(COP)	シミュレーションによる評価	JRA4066:2014	ウォータチリンユニット	JRA4066:2014に準拠	JRA4066:2014及びJISB8615-2: 2015	ウォータチリンユニット及びエアコン-第2：ダクト接続形式エアコン-デシヨナと空気対空気ヒートポンプ定格性能及び運転性能試験	JRA4066:2014及びJISB8615-2: 2015に準拠
S-015002						14.0kW超 16.0kW以下	-	●	34.5	*	-								
S-015003						16.0kW超 22.4kW以下	-	●	34.8	*	-								
S-015004						22.4kW超 28.0kW以下	-	●	34.9	*	-								
S-015005						28.0kW超 33.5kW以下	-	●	34.9	*	-								

水準表 クラスNo.	区 分			概 要			クラス			トップ ランナー 制度 規定	認 証 対 象	LD-Tech 水準	指 標						
	技術分類	設備・機器等	原理・しくみ	条件	能力 (名称)	能力 (単位)	測定単位		計 算 方 法				試 験 条 件						
							単位	名称	評価方法の タイプ				準拠する 規格	規格の 名称	計算式	準拠する 規格	規格の 名称	説明	
S-015006	熱源・空調機 (気化式・中央方式)	間接気化式冷却器	間接気化式冷却器は、隔壁で仕切られたDRY流路とWET流路を多数積層した構造からなる。WET側の隔壁面は水を浸した湿潤壁である。ここでDRY流路に高温空気をWET流路には低温空気又は常温空気を流すことで、WET流路で気化熱現象を生じさせ、隔壁の温度が低下するため隣り合うDRY流路を流れる空気の熱が隔壁に伝達し絶対湿度の移行がなく冷却される。この冷却に用いるエネルギーは搬送動力と気化蒸発に使用する水のための、省エネ性が高く、CO2排出量を削減できる機器である。既に食品工場・生産工場・ショッピングセンターを中心に導入が進んでおり、今後データセンター向けに更なる普及が期待される。	-	冷房能力	33.5kW超 40.0kW以下	-	●	35	*	-	成績係数 (COP)	シミュレーションによる評価	JRA4066: 2014	ウォータチリン グユニット	JRA4066:2014に準拠	JRA4066: 2014及び JISB8615 -2: 2015	ウォータチリン グユニット及 びエアコン デシヨナ-第 2: ダクト接 続形エアコン デシヨナと 空気対空気 ヒートポンプ 定格性能及 び運転性能 試験	JRA4066:2014及び JISB8615-2: 2015に準拠
S-015007						40.0kW超 60.0kW以下	-	●	35.2	*									
S-015008						60.0kW超 80.0kW以下	-	●	35	*									
S-015009						80.0kW超 100.0kW以下	-	●	35.1	*									
S-015010						100.0kW超 120.0kW以下	-	●	35.2	*									
S-015011						120.0kW超 140.0kW以下	-	●	35.1	*									
S-015012						140.0kW超 160.0kW以下	-	●	35.1	*									
S-015013						160.0kW超 200.0kW以下	-	●	35.1	*									
S-015014						200.0kW超 240.0kW以下	-	●	35.1	*									
S-015015						240.0kW超 280.0kW以下	-	●	35.1	*									

水準表 クラスNo.	区分		概要		クラス			トップ ランナー 制度 規定	認証対象	LD-Tech 水準	指標								
	技術分類	設備・機器等	原理・しくみ	条件	能力 (名称)	能力 (単位)	測定単位				計算方法			試験条件					
							単位				名称	評価方法の タイプ	準拠する 規格	規格の 名称	計算式	準拠する 規格	規格の 名称	説明	
S-015016	熱源・空調機 (気化式・中央方式)	間接気化式冷却器	間接気化式冷却器は、隔壁で仕切られたDRY流路とWET流路を多数積層した構造からなる。WET側の隔壁面は水を浸した湿潤壁である。ここでDRY流路に高温空気をWET流路には低温空気又は常温空気を流すことで、WET流路で気化熱現象を生じさせ、隔壁の温度が低下するため隣り合うDRY流路を流れる空気の熱が隔壁に伝達し絶対湿度の移行がなく冷却される。この冷却に用いるエネルギーは搬送動力と気化蒸発に使用する水のための、省エネ性が高く、CO2排出量を削減できる機器である。既に食品工場・生産工場・ショッピングセンターを中心に導入が進んでおり、今後データセンター向けに更なる普及が期待される。	分流型	冷却能力	14.0kW以下	-	●	11.1	*	-	成績係数 (COP)	標準条件による評価	JRA4066: 2014および JIS B 8615-2	ウォータチリングユニットおよびエアコン デション	標準条件による評価	JRA4066: 2014および JIS B 8615-2	ウォータチリングユニットおよびエアコン デション	日本冷凍空調工業会、又は日本規格協会の指定の規格によって試験および効率の計算を行う。ただし、本設備は水熱源としながらもヒートポンプがないため、一部抜粋での試験条件とし、新たな試験項目は追加する。【空気条件】JIS B 8615-2 P8 表2-冷房能力試験条件より、気候の温かな地域に対する温度条件 (T1) の場合とする【試験条件】COP算出 = 冷却能力 ÷ 定格消費電力とする 冷却能力 = DRY側空気の質量流出と出入口比エンタルピー差の積
S-015017						14.0kW超 16.0kW以下	-	●	11	*									
S-015018						16.0kW超 22.4kW以下	-	●	11	*									
S-015019						22.4kW超 28.0kW以下	-	●	11.1	*									
S-015020						28.0kW超 33.5kW以下	-	●	11	*									
S-015021						33.5kW超 40.0kW以下	-	●	11	*									
S-015022						40.0kW超 60.0kW以下	-	●	11	*									
S-015023						60.0kW超 80.0kW以下	-	●	11	*									
S-015024						80.0kW超 100.0kW以下	-	●	11	*									
S-015025						100.0kW超 120.0kW以下	-	●	11	*									



水準表 クラスNo.	区分 技術分類	概要		クラス			トップ ランナー 制度 規定	認証対象	LD-Tech 水準	指標										
		設備・機器等	原理・しくみ	条件	能力 (名称)	能力 (単位)				測定単位		計算方法			試験条件					
										単位	名称	評価方法の タイプ	準拠する 規格	規格の 名称	計算式	準拠する 規格	規格の 名称	説明		
S-015026	熱源・空調機（気化式・中央方式）	間接気化式冷却器	間接気化式冷却器は、隔壁で仕切られたDRY流路とWET流路を多数積層した構造からなる。WET側の隔壁面は水を浸した湿潤壁である。ここでDRY流路に高温空気をWET流路には低温空気又は常温空気を流すことで、WET流路で気化熱現象を生じさせ、隔壁の温度が低下するため隣り合うDRY流路を流れる空気の熱が隔壁に伝達し絶対湿度の移行がなく冷却される。この冷却に用いるエネルギーは搬送動力と気化蒸発に使用する水のための、省エネ性が高く、CO2排出量を削減できる機器である。既に食品工場・生産工場・ショッピングセンターを中心に導入が進んでおり、今後データセンター向けに更なる普及が期待される。	分流型	冷却能力	120.0kW超 140.0kW以下	-	●	11	*	-	成績係数(COP)	標準条件による評価	JRA4066:2014およびJIS B 8615-2	ウォータチリングユニットおよびエアコンディショナ	標準条件による評価	JRA4066:2014およびJIS B 8615-2	ウォータチリングユニットおよびエアコンディショナ	日本冷凍空調工業会、又は日本規格協会の指定の規格によって試験および効率の計算を行う。ただし、本設備は水熱源としながらもヒートポンプがないため、一部抜粋での試験条件とし、新たな試験項目は追加する。【空気条件】JIS B 8615-2 P8 表2-冷房能力試験条件より、気候の温和な地域に対する温度条件(T1)の場合とする【試験条件】COP算出=冷却能力÷定格消費電力とする 冷却能力=DRY側空気の質量流出と出入口比	
S-015027						140.0kW超 160.0kW以下	-	●	11	*										
S-015028						160.0kW超 200.0kW以下	-	●	11	*										
S-016001	熱源・空調機（吸収式・中央方式）	吸収冷温水機（二重効用）	吸収力の高い液体に冷媒を吸収させることにより生じる低圧を利用して水を気化させ、気化熱から生じる低温を得る冷凍機であり、高温、低温再生器を有するもの。	節電型（冷却水量原単位0.7m3/h、RT以下）、冷水入口温度15℃、冷水出口温度7℃	冷房能力	80RT以下	-	○ Oriented	1.48	*	-	成績係数(COP)	標準規格による評価	JISB8622:2009またはJISB8622:2016	吸収式冷凍機	JISB8622:2009またはJISB8622:2016に準拠	JISB8622:2009またはJISB8622:2016	吸収式冷凍機	JISB8622:2009またはJISB8622:2016に準拠	
S-016002						80RT超 1000RT以下	-	● Oriented	1.48	*	-									
S-016003						1000RT超	-	● Oriented	1.41	*	-									
S-016004						80RT以下	-	○ Oriented	1.48	-										
S-016005						80RT超 1000RT以下	-	● Oriented	1.48	-										

水準表 クラスNo.	区分 技術分類	概要		クラス			トップ ランナー 制度 規定	認証対象	LD-Tech 水準	指標									
		設備・機器等	原理・しくみ	条件	能力 (名称)	能力 (単位)				測定単位		計算方法			試験条件				
										単位	名称	評価方法の タイプ	準拠する 規格	規格の 名称	計算式	準拠する 規格	規格の 名称	説明	
S-016006	熱源・空調 機（吸収 式・中央方 式）	吸収冷温水機 （二重効用）	吸収力の高い液体に冷媒を吸収させる ことにより生じる低圧を利用して水を気化 させ、気化熱から生じる低温を得る冷凍 機であり、高温、低温再生器を有するも の。	冷水入口温 度12℃、冷 水出口温度 7℃	冷房能力	1000RT超	-	○ Oriented	1.51	-	成績係数 (COP)	標準規格に よる評価	JISB8622 :2009また は JISB8622 :2016	吸収式冷凍 機	JISB8622:2009または JISB8622:2016に準拠	JISB8622 :2009また は JISB8622 :2016	吸収式冷凍 機	JISB8622:2009または JISB8622:2016に準拠	
S-017001		吸収冷温水機 （三重効用）/廃 熱投入型吸収冷 温水機（三重効 用）	吸収力の高い液体に冷媒を吸収させる ことにより生じる低圧を利用して水を気化 させ、気化熱から生じる低温を得る冷凍 機であり、高温、中温、低温再生器を有 するもの。	冷水入口温 度12℃、冷 水出口温度 7℃	-	-	-	● Oriented	1.74	-	成績係数 (COP)	標準規格に よる評価	JISB8622 :2009また は JISB8622 :2016	吸収式冷凍 機	JISB8622:2009または JISB8622:2016に準拠	JISB8622 :2009また は JISB8622 :2016	吸収式冷凍 機	JISB8622:2009または JISB8622:2016に準拠	
S-018001		一重二重併用形 吸収冷温水機	吸収力の高い液体に冷媒を吸収させる ことにより生じる低圧を利用して水を気化 させ、気化熱から生じる低温を得る冷凍 機であり、排熱を熱源として利用し、燃 料削減率が20%以上のもの。	節電型（冷 却水量原単 位 0.7m3/h、 RT以下）、 冷水入口温 度15℃、冷 水出口温度 7℃	冷房能力	80RT以下	-	○ Oriented	1.47	-	成績係数 (COP)	標準規格に よる評価	JISB8622 :2009また は JISB8622 :2016	吸収式冷凍 機	JISB8622:2009または JISB8622:2016に準拠	JISB8622 :2009また は JISB8622 :2016	吸収式冷凍 機	JISB8622:2009または JISB8622:2016に準拠	
S-018002						80RT超 1000RT以 下	-	● Oriented	1.47	-									
S-018003						1000RT超	-	- Oriented	-	-									
S-018004		一重二重併用形 吸収冷温水機	吸収力の高い液体に冷媒を吸収させる ことにより生じる低圧を利用して水を気化 させ、気化熱から生じる低温を得る冷凍 機であり、排熱を熱源として利用し、燃 料削減率が20%以上のもの。	冷水入口温 度12℃、冷 水出口温度 7℃	冷房能力	80RT以下	-	○ Oriented	1.47	-	成績係数 (COP)	標準規格に よる評価	JISB8622 :2009また は JISB8622 :2016	吸収式冷凍 機	JISB8622:2009または JISB8622:2016に準拠	JISB8622 :2009また は JISB8622 :2016	吸収式冷凍 機	JISB8622:2009または JISB8622:2016に準拠	
S-018005						80RT超 1000RT以 下	-	● Oriented	1.47	-									
S-018006						1000RT超	-	- Oriented	-	-									

水準表 クラスNo.	区分		概要		クラス			トップ ランナー 制度 規定	認証対象	LD-Tech 水準	指標								
	技術分類	設備・機器等	原理・しくみ	条件	能力 (名称)	能力 (単位)	測定単位				計算方法			試験条件					
							単位				名称	評価方法の タイプ	準拠する 規格	規格の 名称	計算式	準拠する 規格	規格の 名称	説明	
S-022001	熱源・空調 機（吸収 式・中央方 式）	木質ペレット直焚き 吸収冷温水機 （二重効用）	吸収力の高い液体に冷媒を吸収させる ことにより生じる低圧を利用して水を気化 させ、気化熱から生じる低温を得る冷凍 機であり、高温、低温再生器を有するも の内の、加熱源の燃料に木質ペレットを 使用するもの。中央方式を採用する業 務施設の冷暖房に使用される。	-	冷房能力	80RT以下	-	○	1.04	-	成績係数 (COP)	標準規格に よる評価	JIS B 8622 : 2009	吸収冷凍機	JIS B 8622 : 2009に準 拠、ただし、成績係数は冷凍 能力を加熱源消費熱量で除 したものとし、消費電力は除外 することとする。	JIS B 8622 : 2009	吸収冷凍機	JIS B 8622 : 2009に準拠	
S-022002				80RT超 1000RT以下		-	-	-		-									
S-022003				1000RT超		-	-	-		-									
S-023001	パッシブ地中熱利 用システム		熱交換パイプ、制御盤、ポンプ、ファンか らなる。地下水又は温水をスパイラル状 に通水できるパイプを地下2mに埋設し 送風をすることで、空気と地中熱・水の熱 と熱交換を行い温風、冷風を送風する 機器。一般的には通風部のみあるクール チューブやアースチューブなどと呼ばれる空 調機が存在する。こういったシステムと比 べて、水が持つ熱との熱交換が加わったこ とで、熱交換量が飛躍的に増え、大空 間の空調を行えるようになった。	-	冷房能力	6.4kW	-	-	-	-	成績係数 (COP)	シミュレーショ ンによる評価	-	-	COP=Φ/P、COP:成績係 数、Φ:定格能力[W]、P:定 格消費エネルギー[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあ たっては、入気温度、吹き出し 温度、給水温度、戻り水温度 については、以下の通り設定す ることを条件とする。入気温度 35℃、吹き出し温度27℃、 給水温度：15℃、戻り水温 度：15℃	
S-023002				8.2kW		-	-	-		-									
S-023003				10.9kW		-	○	15.57		*									-
S-023004				12.8kW		-	-	-		-									
S-023005				21.9kW		-	-	-		-									
S-023006				29.2kW		-	-	-		-									
S-023007				36.5kW		-	-	-		-									

水準表 クラスNo.	概要			クラス			トップ ランナー 制度 規定	認証対象	LD-Tech 水準	指標									
	区分 技術分類	設備・機器等	原理・しくみ	条件	能力 (名称)	能力 (単位)				測定単位		計算方法			試験条件				
										単位	名称	評価方法の タイプ	準拠する 規格	規格の 名称	計算式	準拠する 規格	規格の 名称	説明	
S-024001	熱源・空調機 (吸着式・中央方式)	吸着式冷凍機	吸着器内部に充填された吸着剤に冷媒を吸着させ、冷媒の蒸発を促し、その気化熱から冷凍効果を得る冷凍機。	熱源入口温度58℃	-	-	-	○	16.2	*	-	電力COP	標準条件による評価	-	-	COP=Φ/P、COP:成績係数、Φ:定格能力[W]、P:定格消費エネルギー-[W] 注:上記のCOPは電力COPである	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、冷水出口温度、冷却水入口温度、熱源入口温度をそれぞれ次のとおり設定することを条件とする。冷水出口温度:15℃、冷却水入口温度:27℃、熱源入口温度:58℃ 注:上記のCOPは電力COPである
S-024002				熱源入口温度:68℃	冷却能力	2.5kW以上25kW未満	-	○	25.7	*	-	電力COP	標準条件による評価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消費エネルギー-[W] 注:上記のCOPは電力COPである	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、冷水出口温度、冷却水入口温度、熱源入口温度をそれぞれ以下のとおり設定することを条件とする。冷水出口温度:15℃ 冷却水入口温度:27℃ 熱源入口温度:68℃ 注:上記のCOPは電力COPである
S-024003						25kW以上50kW未満	-	○	25	*	-								
S-024004						50kW以上	-	○	26.1	*	-								
S-025001	熱源(ヒートポンプ)	高温水ヒートポンプ(空気熱源・循環式)	空気を熱源とし、循環式の供給方式が可能なヒートポンプ方式で、水等の2次媒体を加熱する熱源・空調機。貯湯ユニットを含まないもの。	温水出口温度65℃以上70℃以下、乾球温度16℃、湿球温度12℃、温水出入口温度差5℃	-	-	-	○	3.09	*	-	成績係数(COP)	標準条件による評価	-	-	COP=Φ/P、COP:成績係数、Φ:定格能力[W]、P:定格消費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温度、乾球温度、湿球温度、温水出入口温度差を次のとおり設定することを条件とする。温水出口温度:65℃以上70℃以下、乾球温度:16℃、湿球温度:12℃、温水出入口温度差:5℃
S-025002				温水出口温度65℃以上70℃以下、乾球温度25℃、湿球温度21℃、温水出入口温度差10℃	-	-	-	○	3.63	*	-	成績係数(COP)	標準条件による評価	-	-	COP=Φ/P、COP:成績係数、Φ:定格能力[W]、P:定格消費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温度、乾球温度、湿球温度、温水出入口温度差を以下のとおり設定することを条件とする。温水出口温度:65℃以上70℃以下 乾球温度:25℃ 湿球温度:21℃ 温水出入口温度差:10℃

水準表 クラスNo.	区分			クラス			トップ ランナー 制度 規定	認証対象	LD-Tech 水準	指標									
	技術分類	設備・機器等	概要 原理・しくみ	条件	能力 (名称)	能力 (単位)				測定単位		計算方法			試験条件				
										単位	名称	評価方法の タイプ	準拠する 規格	規格の 名称	計算式	準拠する 規格	規格の 名称	説明	
S-025003	熱源（ヒートポンプ）	高温水ヒートポンプ（空気熱源・循環式）	空気を熱源とし、循環式の供給方式が可能なヒートポンプ方式で、水等の2次媒体を加熱する熱源・空調機。貯湯ユニットを含まないもの。	温水出口温度65℃以上70℃以下、乾球温度25℃、湿球温度21℃、温水出入口温度差5℃	-	-	-	●	3.3	*	-	成績係数(COP)	標準条件による評価	-	-	COP=Φ/P、COP:成績係数、Φ:定格能力[W]、P:定格消費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温度、乾球温度、湿球温度、温水出入口温度差を以下のとおり設定することを条件とする。温水出口温度：65℃以上70℃以下 乾球温度：25℃ 湿球温度：21℃ 温水出入口温度差：5℃
S-025004				温水出口温度60℃、乾球温度16℃、温水出入口温度差5℃	-	-	-	●	3.17	-	-	成績係数(COP)	標準条件による評価	-	-	COP=Φ/P、COP:成績係数、Φ:定格能力[W]、P:定格消費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温度、乾球温度、温水出入口温度差を以下のとおり設定することを条件とする。温水出口温度60℃、乾球温度16℃、温水出入口温度差5℃
S-026001		高温水ヒートポンプ（空気熱源・一過式）	空気を熱源とし、一過式の供給方式が可能なヒートポンプ方式で、水等の2次媒体を加熱する熱源・空調機。貯湯ユニットを含まないもの。	-	-	-	-	○	4.2	*	-	年間標準貯湯加熱エネルギー消費効率	標準規格による評価	JRA4060:2014	業務用ヒートポンプ給湯機	JRA4060:2014に準拠	JRA4060:2014	業務用ヒートポンプ給湯機	JRA4060:2014に準拠
S-027001		高温水ヒートポンプ（水熱源・循環式）	水を熱源とし、遠心式、または回転式圧縮機を使用して、循環式の供給方式が可能なヒートポンプ方式で、水等の2次媒体を加熱する熱源・空調機。貯湯ユニットを含まないもの。	温水出口温度65℃、熱源水入口温度17℃、熱源水出口温度7℃、温水出入口温度差10℃	加熱能力	270kW以下	-	●	3.4	*	-	成績係数(COP)	標準条件による評価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温度、熱源水入口温度、熱源水出口温度、温水出入口温度差を以下のとおり設定することを条件とする。温水出口温度：65℃ 熱源水入口温度：17℃ 熱源水出口温度：7℃ 温水出入口温度差：10℃
S-027002						270kW超 350kW以下	-	-	-	-	-								
S-027003						350kW超 540kW以下	-	○	3.32	*									

水準表 クラスNo.	区分		概要	クラス			トップ ランナー 制度 規定	認証対象	LD-Tech 水準	指標								
	技術分類	設備・機器等		条件	能力 (名称)	能力 (単位)				測定単位		計算方法			試験条件			
										単位	名称	評価方法の タイプ	準拠する 規格	規格の 名称	計算式	準拠する 規格	規格の 名称	説明
S-027004	熱源（ヒートポンプ）	高温水ヒートポンプ（水熱源・循環式）	水を熱源とし、遠心式、または回転式圧縮機を使用して、循環式の供給方式が可能なヒートポンプ方式で、水等の2次媒体を加熱する熱源・空調機。貯湯ユニットを含まないもの。	温水出口温度65℃、熱源水入口温度17℃、熱源水出口温度7℃、温水出入口温度差10℃	加熱能力	540kW超	-	-	-	-	成績係数(COP)	標準条件による評価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温度、熱源水入口温度、熱源水出口温度、温水出入口温度差を以下のとおり設定することを条件とする。温水出口温度：65℃ 熱源水入口温度：17℃ 熱源水出口温度：7℃ 温水出入口温度差：10℃
S-027005				温水出口温度65℃、熱源水入口温度17℃以上30℃以下、熱源水出口温度7℃以上20℃以下、温水出入口温度差10℃	加熱能力	270kW以下	-	●	4.3	*	成績係数(COP)	標準条件による評価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温度、熱源水入口温度、熱源水出口温度、温水出入口温度差を以下のとおり設定することを条件とする。温水出口温度：17℃以上30℃以下 熱源水出口温度：7℃以上20℃以下 温水出入口温度差：10℃
S-027006						270kW超 350kW以下	-	-	-	-								
S-027007						350kW超 540kW以下	-	●	4.4	*								
S-027008						540kW超	-	-	-	-								
S-027009				温水出口温度65℃、熱源水入口温度20℃、熱源水出口温度15℃以上17℃以下、温水出入口温度差5℃	加熱能力	270kW以下	-	●	3.6	*	成績係数(COP)	標準条件による評価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温度、熱源水入口温度、熱源水出口温度、温水出入口温度差を次のとおり設定することを条件とする。温水出口温度：65℃、熱源水入口温度：20℃、熱源水出口温度：15℃以上17℃以下、温水出入口温度差：5℃
S-027010						270kW超 350kW以下	-	-	-	-								

水準表 クラスNo.	区分			クラス			トップ ランナー 制度 規定	認証対象	LD-Tech 水準	指標																				
	技術分類	設備・機器等	原理・しくみ	条件	能力 (名称)	能力 (単位)				測定単位		計算方法			試験条件															
										単位	名称	評価方法の タイプ	準拠する 規格	規格の 名称	計算式	準拠する 規格	規格の 名称	説明												
S-027011	熱源（ヒートポンプ）	高温水ヒートポンプ（水熱源・循環式）	水を熱源とし、遠心式、または回転式圧縮機を使用して、循環式の供給方式が可能なヒートポンプ方式で、水等の2次媒体を加熱する熱源・空調機。貯湯ユニットを含まないもの。	温水出口温度65℃、熱源水入口温度20℃、熱源水出口温度15℃以上17℃以下、温水出入口温度差5℃	加熱能力	350kW超 540kW以下	-	●	3.7	*	-	成績係数(COP)	標準条件による評価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温度、熱源水入口温度、熱源水出口温度、温水出入口温度差を次のとおり設定することを条件とする。温水出口温度：65℃、熱源水入口温度：20℃、熱源水出口温度：15℃以上17℃以下、温水出入口温度差：5℃											
S-027012						540kW超	-	-												-	-	-	-	-						
S-027013	熱源（ヒートポンプ）	高温水ヒートポンプ（水熱源・循環式）	水を熱源とし、遠心式、または回転式圧縮機を使用して、循環式の供給方式が可能なヒートポンプ方式で、水等の2次媒体を加熱する熱源・空調機。貯湯ユニットを含まないもの。	温水出口温度65℃、熱源水入口温度30℃、熱源水出口温度25℃以上30℃以下、温水出入口温度差5℃	加熱能力	270kW以下	-	●	4.2	*	-	成績係数(COP)	標準条件による評価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温度、熱源水入口温度、熱源水出口温度、温水出入口温度差を以下のとおり設定することを条件とする。温水出口温度：65℃ 熱源水入口温度：30℃ 熱源水出口温度：25℃以上30℃以下 温水出入口温度差：5℃											
S-027014						270kW超 350kW以下	-	-												-	-	-								
S-027015						350kW超 540kW以下	-	-												-	-	-								
S-027016						540kW超	-	●												4.8	*	-	-	-	-	-	-	-	-	-
S-027017	温水出口温度65℃、熱源水入口温度38℃以上40℃以下、熱源水出口温度35℃、温水出入口温度差5℃	加熱能力	270kW以下	-	○	5.1	*	-	成績係数(COP)	標準条件による評価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温度、熱源水入口温度、熱源水出口温度、温水出入口温度差を以下のとおり設定することを条件とする。温水出口温度：65℃ 熱源水入口温度：38℃以上40℃以下 熱源水出口温度：35℃ 温水出入口温度差：5℃														

水準表 クラスNo.	区分			クラス			トップ ランナー 制度 規定	認証対象	LD-Tech 水準	指標											
	技術分類	設備・機器等	概要 原理・しくみ	条件	能力 (名称)	能力 (単位)				測定単位		計算方法			試験条件						
										単位	名称	評価方法の タイプ	準拠する 規格	規格の 名称	計算式	準拠する 規格	規格の 名称	説明			
S-027018	熱源（ヒートポンプ）	高温水ヒートポンプ（水熱源・循環式）	水を熱源とし、遠心式、または回転式圧縮機を使用して、循環式の供給方式が可能なヒートポンプ方式で、水等の2次媒体を加熱する熱源・空調機。貯湯ユニットを含まないもの。	温水出口温度65℃、熱源水入口温度38℃以上40℃以下、熱源水出口温度35℃、温水出入口温度差5℃	加熱能力	270kW超 350kW以下	-	-	-	-	成績係数(COP)	標準条件による評価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数Φ;定格能力[W] P:定格消費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温度、熱源水入口温度、熱源水出口温度、温水出入口温度差を以下のとおり設定することを条件とする。温水出口温度：65℃ 熱源水入口温度：38℃以上40℃以下 熱源水出口温度：35℃ 温水出入口温度差：5℃			
S-027019						350kW超 540kW以下	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
S-027020						540kW超	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
S-027021	熱源（ヒートポンプ）	高温水ヒートポンプ（水熱源・循環式）	水を熱源とし、遠心式、または回転式圧縮機を使用して、循環式の供給方式が可能なヒートポンプ方式で、水等の2次媒体を加熱する熱源・空調機。貯湯ユニットを含まないもの。	温水出口温度65℃、熱源水入口温度40℃、熱源水出口温度30℃、温水出入口温度差10℃	加熱能力	270kW以下	-	●	4.9	*	-	成績係数(COP)	標準条件による評価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数Φ;定格能力[W] P:定格消費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温度、熱源水入口温度、熱源水出口温度、温水出入口温度差を以下のとおり設定することを条件とする。温水出口温度：65℃ 熱源水入口温度：40℃ 熱源水出口温度：30℃ 温水出入口温度差：10℃		
S-027022						270kW超 350kW以下	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
S-027023						350kW超 540kW以下	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
S-027024						540kW超	-	●	5.8	*	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
S-027025	熱源（ヒートポンプ）	高温水ヒートポンプ（水熱源・循環式）	水を熱源とし、遠心式、または回転式圧縮機を使用して、循環式の供給方式が可能なヒートポンプ方式で、水等の2次媒体を加熱する熱源・空調機。貯湯ユニットを含まないもの。	温水出口温度75℃、熱源水入口温度20℃、熱源水出口温度15℃以上17℃以下、温水出入口温度差5℃	加熱能力	270kW以下	-	●	3.1	*	-	成績係数(COP)	標準条件による評価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数Φ;定格能力[W] P:定格消費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温度、熱源水入口温度、熱源水出口温度、温水出入口温度差を以下のとおり設定することを条件とする。温水出口温度：75℃ 熱源水入口温度：20℃ 熱源水出口温度：15℃以上17℃以下 温水出入口温度差：5℃		



水準表 クラスNo.	区分			クラス			トップ ランナー 制度 規定	認証対象	LD-Tech 水準	指標												
	技術分類	設備・機器等	原理・しくみ	条件	能力 (名称)	能力 (単位)				測定単位		計算方法			試験条件							
										単位	名称	評価方法の タイプ	準拠する 規格	規格の 名称	計算式	準拠する 規格	規格の 名称	説明				
S-027026	熱源（ヒートポンプ）	高温水ヒートポンプ（水熱源・循環式）	水を熱源とし、遠心式、または回転式圧縮機を使用して、循環式の供給方式が可能なヒートポンプ方式で、水等の2次媒体を加熱する熱源・空調機。貯湯ユニットを含まないもの。	温水出口温度75℃、熱源水入口温度20℃、熱源水出口温度15℃以上17℃以下、温水出入口温度差5℃	加熱能力	270kW超 350kW以下	-	-	-	-	成績係数(COP)	標準条件による評価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温度、熱源水入口温度、熱源水出口温度、温水出入口温度差を以下のとおり設定することを条件とする。温水出口温度：75℃ 熱源水入口温度：20℃ 熱源水出口温度：15℃以上17℃以下 温水出入口温度差：5℃				
S-027027						350kW超 540kW以下	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
S-027028						540kW超	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
S-027029	熱源（ヒートポンプ）	高温水ヒートポンプ（水熱源・循環式）	水を熱源とし、遠心式、または回転式圧縮機を使用して、循環式の供給方式が可能なヒートポンプ方式で、水等の2次媒体を加熱する熱源・空調機。貯湯ユニットを含まないもの。	温水出口温度75℃、熱源水入口温度30℃、熱源水出口温度20℃、温水出入口温度差10℃	加熱能力	270kW以下	-	●	3.7	*	-	成績係数(COP)	標準条件による評価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温度、熱源水入口温度、熱源水出口温度、温水出入口温度差を以下のとおり設定することを条件とする。温水出口温度：75℃ 熱源水入口温度：30℃ 熱源水出口温度：20℃ 温水出入口温度差：10℃			
S-027030						270kW超 350kW以下	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
S-027031						350kW超 540kW以下	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
S-027032						540kW超	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
S-027033	熱源（ヒートポンプ）	高温水ヒートポンプ（水熱源・循環式）	水を熱源とし、遠心式、または回転式圧縮機を使用して、循環式の供給方式が可能なヒートポンプ方式で、水等の2次媒体を加熱する熱源・空調機。貯湯ユニットを含まないもの。	温水出口温度75℃、熱源水入口温度30℃、熱源水出口温度25℃以上27℃以下、温水出入口温度差5℃	加熱能力	270kW以下	-	●	3.7	*	-	成績係数(COP)	標準条件による評価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温度、熱源水入口温度、熱源水出口温度、温水出入口温度差を以下のとおり設定することを条件とする。温水出口温度：75℃ 熱源水入口温度：30℃ 熱源水出口温度：25℃以上27℃以下 温水出入口温度差：5℃			

水準表 クラスNo.	区分			クラス			トップ ランナー 制度 規定	認証対象	LD-Tech 水準	指標											
	技術分類	設備・機器等	概要 原理・しくみ	条件	能力 (名称)	能力 (単位)				測定単位		計算方法			試験条件						
										単位	名称	評価方法の タイプ	準拠する 規格	規格の 名称	計算式	準拠する 規格	規格の 名称	説明			
S-027034	熱源（ヒートポンプ） 高温水ヒートポンプ （水熱源・循環式）		水を熱源とし、遠心式、または回転式圧縮機を使用して、循環式の供給方式が可能なヒートポンプ方式で、水等の2次媒体を加熱する熱源・空調機。貯湯ユニットを含まないもの。	温水出口温度75℃、熱源水入口温度30℃、熱源水出口温度25℃以上27℃以下、温水出入口温度差5℃	加熱能力	270kW超 350kW以下	-	-	-	-	成績係数 (COP)	標準条件による評価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温度、熱源水入口温度、熱源水出口温度、温水出入口温度差を以下のとおり設定することを条件とする。温水出口温度：75℃ 熱源水入口温度：30℃ 熱源水出口温度：25℃以上27℃以下 温水出入口温度差：5℃			
S-027035																					
S-027036																					
S-027037				温水出口温度75℃、熱源水入口温度35℃以上40℃以下、熱源水出口温度30℃、温水出入口温度差10℃	加熱能力	270kW以下	-	○	3.9	*	成績係数 (COP)	標準条件による評価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温度、熱源水入口温度、熱源水出口温度、温水出入口温度差を以下のとおり設定することを条件とする。温水出口温度：75℃ 熱源水入口温度：35℃以上40℃以下 熱源水出口温度：30℃ 温水出入口温度差：10℃			
S-027038																					
S-027039																					
S-027040																					
S-027041				温水出口温度75℃、熱源水入口温度40℃、熱源水出口温度35℃、温水出入口温度差5℃	加熱能力	270kW以下	-	○	4.44	*	成績係数 (COP)	標準条件による評価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温度、熱源水入口温度、熱源水出口温度、温水出入口温度差を以下のとおり設定することを条件とする。温水出口温度：75℃ 熱源水入口温度：40℃ 熱源水出口温度：35℃ 温水出入口温度差：5℃			

水準表 クラスNo.	区分		概要	クラス			トップ ランナー 制度 規定	認証対象	LD-Tech 水準	指標								
	技術分類	設備・機器等		条件	能力 (名称)	能力 (単位)				測定単位		計算方法			試験条件			
										単位	名称	評価方法の タイプ	準拠する 規格	規格の 名称	計算式	準拠する 規格	規格の 名称	説明
S-027042	熱源（ヒートポンプ） 高温水ヒートポンプ （水熱源・循環式）		水を熱源とし、遠心式、または回転式圧縮機を使用して、循環式の供給方式が可能なヒートポンプ方式で、水等の2次媒体を加熱する熱源・空調機。貯湯ユニットを含まないもの。	温水出口温度75℃、熱源水入口温度40℃、熱源水出口温度35℃、温水出入口温度差5℃	加熱能力	270kW超 350kW以下	-	-	-	-	成績係数 (COP)	標準条件による評価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温度、熱源水入口温度、熱源水出口温度、温水出入口温度差を以下のとおり設定することを条件とする。温水出口温度：75℃ 熱源水入口温度：40℃ 熱源水出口温度：35℃ 温水出入口温度差：5℃
S-027043						350kW超 540kW以下	-	-	-									
S-027044						540kW超	-	-	-									
S-027045				温水出口温度90℃、熱源水入口温度17℃、熱源水出口温度7℃、温水出入口温度差10℃	加熱能力	270kW以下	-	-	-	-	成績係数 (COP)	標準条件による評価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温度、熱源水入口温度、熱源水出口温度、温水出入口温度差を以下のとおり設定することを条件とする。温水出口温度：90℃ 熱源水入口温度：17℃ 熱源水出口温度：7℃ 温水出入口温度差：10℃
S-027046						270kW超 350kW以下	-	●	2.75	*								
S-027047						350kW超 540kW以下	-	-	-									
S-027048						540kW超	-	-	-									
S-027049				温水出口温度90℃、熱源水入口温度30℃、熱源水出口温度25℃、温水出入口温度差5℃	加熱能力	270kW以下	-	-	-	-	成績係数 (COP)	標準条件による評価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温度、熱源水入口温度、熱源水出口温度、温水出入口温度差を以下のとおり設定することを条件とする。温水出口温度：90℃ 熱源水入口温度：30℃ 熱源水出口温度：25℃ 温水出入口温度差：5℃

水準表 クラスNo.	区分			クラス			トップ ランナー 制度 規定	認証対象	LD-Tech 水準	指標												
	技術分類	設備・機器等	原理・しくみ	条件	能力 (名称)	能力 (単位)				測定単位		計算方法			試験条件							
										単位	名称	評価方法の タイプ	準拠する 規格	規格の 名称	計算式	準拠する 規格	規格の 名称	説明				
S-027050	熱源（ヒートポンプ）	高温水ヒートポンプ（水熱源・循環式）	水を熱源とし、遠心式、または回転式圧縮機を使用して、循環式の供給方式が可能なヒートポンプ方式で、水等の2次媒体を加熱する熱源・空調機。貯湯ユニットを含まないもの。	温水出口温度90℃、熱源水入口温度30℃、熱源水出口温度25℃、温水出入口温度差5℃	加熱能力	270kW超 350kW以下	-	●	3.1	*	-	成績係数(COP)	標準条件による評価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温度、熱源水入口温度、熱源水出口温度、温水出入口温度差を以下のとおり設定することを条件とする。温水出口温度：90℃ 熱源水入口温度：30℃ 熱源水出口温度：25℃ 温水出入口温度差：5℃			
S-027051																						
S-027052																						
S-027053	熱源（ヒートポンプ）	高温水ヒートポンプ（水熱源・循環式）	水を熱源とし、遠心式、または回転式圧縮機を使用して、循環式の供給方式が可能なヒートポンプ方式で、水等の2次媒体を加熱する熱源・空調機。貯湯ユニットを含まないもの。	温水出口温度90℃、熱源水入口温度40℃、熱源水出口温度30℃、温水出入口温度差10℃	加熱能力	270kW以下	-	●	3	*	-	成績係数(COP)	標準条件による評価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温度、熱源水入口温度、熱源水出口温度、温水出入口温度差を以下のとおり設定することを条件とする。温水出口温度：90℃ 熱源水入口温度：40℃ 熱源水出口温度：30℃ 温水出入口温度差：10℃			
S-027054																						
S-027055																						
S-027056																						
S-027057	熱源（ヒートポンプ）	高温水ヒートポンプ（水熱源・循環式）	水を熱源とし、遠心式、または回転式圧縮機を使用して、循環式の供給方式が可能なヒートポンプ方式で、水等の2次媒体を加熱する熱源・空調機。貯湯ユニットを含まないもの。	温水出口温度45℃、熱源水入口温度25℃、熱源水出口温度12.5℃、温水出入口温度差5℃	加熱能力	270kW以下	-	●	4.81	*	-	成績係数(COP)	標準条件による評価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温度、熱源水入口温度、熱源水出口温度、温水出入口温度差を以下のとおり設定することを条件とする。温水出口温度：45℃ 熱源水入口温度：25℃ 熱源水出口温度：12.5℃ 温水出入口温度差：5℃			

水準表 クラスNo.	区分		概要	クラス			トップ ランナー 制度 規定	認証対象	LD-Tech 水準	指標									
	技術分類	設備・機器等		条件	能力 (名称)	能力 (単位)				測定単位		計算方法			試験条件				
										単位	名称	評価方法の タイプ	準拠する 規格	規格の 名称	計算式	準拠する 規格	規格の 名称	説明	
S-027058	熱源（ヒートポンプ）	高温水ヒートポンプ（水熱源・循環式）	水を熱源とし、遠心式、または回転式圧縮機を使用して、循環式の供給方式が可能なヒートポンプ方式で、水等の2次媒体を加熱する熱源・空調機。貯湯ユニットを含まないもの。	温水出口温度45℃、熱源水入口温度25℃、熱源水出口温度12.5℃、温水出入口温度差5℃	加熱能力	270kW超 350kW以下	-	-	-	-	成績係数 (COP)	標準条件による評価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温度、熱源水入口温度、熱源水出口温度、温水出入口温度差を以下のとおり設定することを条件とする。温水出口温度：45℃ 熱源水入口温度：25℃ 熱源水出口温度：12.5℃ 温水出入口温度差：5℃	
S-027059				350kW超 540kW以下		-	-	-	-										
S-027060				540kW超		-	-	-	-										
S-027061	熱源（ヒートポンプ）	高温水ヒートポンプ（水熱源・一過式）	水を熱源とし、一過式の供給方式が可能なヒートポンプ方式で、水等の2次媒体を加熱する熱源・空調機。貯湯ユニットを含まないもの。	温水出口温度45℃、熱源水入口温度0℃、熱源水出口温度-3℃、温水出入口温度差5℃	加熱能力	270kW以下	-	●	3.06	*	-	成績係数 (COP)	標準条件による評価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温度、熱源水入口温度、熱源水出口温度、温水出入口温度差を以下のとおり設定することを条件とする。温水出口温度：45℃ 熱源水入口温度：0℃ 熱源水出口温度：-3℃ 温水出入口温度差：5℃
S-027062				270kW超 350kW以下		-	-	-	-										
S-027063				350kW超 540kW以下		-	-	-	-										
S-027064				540kW超		-	-	-	-										
S-028001	熱源（ヒートポンプ）	高温水ヒートポンプ（水熱源・一過式）	水を熱源とし、一過式の供給方式が可能なヒートポンプ方式で、水等の2次媒体を加熱する熱源・空調機。貯湯ユニットを含まないもの。	-	-	-	-	●	4.3	*	-	年間標準貯湯加熱エネルギー消費効率	標準規格による評価	JRA4060:2014	業務用ヒートポンプ給湯機	JRA4060:2014に準拠	JRA4060:2014	業務用ヒートポンプ給湯機	JRA4060:2014に準拠

水準表 クラスNo.	区分			クラス			トップ ランナー 制度 規定	認証対象	LD-Tech 水準	指標									
	技術分類	設備・機器等	原理・しくみ	条件	能力 (名称)	能力 (単位)				測定単位		計算方法			試験条件				
										単位	名称	評価方法の タイプ	準拠する 規格	規格の 名称	計算式	準拠する 規格	規格の 名称	説明	
S-028002	熱源（ヒートポンプ）	高温水ヒートポンプ（水熱源・一過式）	水を熱源とし、一過式の供給方式が可能なヒートポンプ方式で、水等の2次媒体を加熱する熱源・空調機。貯湯ユニットを含まないもの。	水熱源運転、温水出口温度70℃、熱源水入口温度50℃、熱源水出口温度38.6℃、温水出入口温度差50℃	-	-	-	○	10.2	*	-	成績係数(COP)	標準条件による評価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温度、熱源水入口温度、熱源水出口温度、温水出入口温度差を以下のとおり設定することを条件とする。温水出口温度：70℃ 熱源水入口温度：50℃ 熱源水出口温度：38.6℃ 温水出入口温度差：50℃
S-028003				水熱源運転、温水出口温度70℃、熱源水入口温度35℃、熱源水出口温度25℃、温水出入口温度差50℃	-	-	-	●	6.2	*	-	成績係数(COP)	標準条件による評価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温度、熱源水入口温度、熱源水出口温度、温水出入口温度差を以下のとおり設定することを条件とする。温水出口温度：70℃、熱源水入口温度：35℃、熱源水出口温度：25℃、温水出入口温度差：50℃
S-028004				水熱源運転、温水出口温度60℃、熱源水入口温度25℃、熱源水出口温度15℃、温水出入口温度差40℃	-	-	-	○	4.6	*	-	成績係数(COP)	標準条件による評価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温度、熱源水入口温度、熱源水出口温度、温水出入口温度差を以下のとおり設定することを条件とする。温水出口温度：60℃、熱源水入口温度：25℃、熱源水出口温度：15℃、温水出入口温度差：40℃
S-029001	熱源（ヒートポンプ）	高温水ヒートポンプ（水空気熱源・循環式）	空気、または水を熱源とでき、循環式の供給方式が可能なヒートポンプ方式で、水等の2次媒体を加熱する熱源・空調機。貯湯ユニットを含まないもの。	空気熱源運転、温水出口温度65℃、乾球温度25℃、湿球温度21℃、温水出入口温度差5℃	-	-	-	○	3.2	*	-	成績係数(COP)	標準条件による評価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温度、乾球温度、湿球温度、温水出入口温度差を以下のとおり設定することを条件とする。温水出口温度：65℃ 乾球温度：25℃ 湿球温度：21℃ 温水出入口温度差：5℃

水準表 クラスNo.	区分		概要		クラス			トップ ランナー 制度 規定	認証対象	LD-Tech 水準	指標								
	技術分類	設備・機器等	原理・しくみ	条件	能力 (名称)	能力 (単位)	測定単位				計算方法			試験条件					
							単位				名称	評価方法の タイプ	準拠する 規格	規格の 名称	計算式	準拠する 規格	規格の 名称	説明	
S-029002	熱源（ヒートポンプ）	高温水ヒートポンプ（水空気熱源・循環式）	空気、または水を熱源とでき、循環式の供給方式が可能なヒートポンプ方式で、水等の2次媒体を加熱する熱源・空調機。貯湯ユニットを含まないもの。	水熱源運転、温水出口温度65℃、熱源水入口温度20℃以下、熱源水出口温度15℃以下、温水出入口温度差5℃	-	-	-	●	3.6	*	-	成績係数(COP)	標準条件による評価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温度、熱源水入口温度、熱源水出口温度、温水出入口温度差を次のとおり設定することを条件とする。温水出口温度：65℃、熱源水入口温度：20℃以下、熱源水出口温度：15℃以下、温水出入口温度差：5℃
S-029003				水熱源運転、温水出口温度75℃、熱源水入口温度17℃、熱源水出口温度7℃、温水出入口温度差10℃	-	-	-	○	3.05	*	-	成績係数(COP)	標準条件による評価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温度、熱源水入口温度、熱源水出口温度、温水出入口温度差を以下のとおり設定することを条件とする。温水出口温度：75℃ 熱源水入口温度：17℃ 熱源水出口温度：7℃ 温水出入口温度差：10℃
S-030001	熱源（ヒートポンプ）	高温水ヒートポンプ（水空気熱源・一過式）	空気、または水を熱源とでき、一過式の供給方式が可能なヒートポンプ方式で、水等の2次媒体を加熱する熱源・空調機。貯湯ユニットを含まないもの。	空気熱源運転	-	-	-	○	4.2	*	-	成績係数(COP)	標準規格による評価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消費電力[W]	JRA4060:2014	業務用ヒートポンプ給湯機	JRA4060:2014に準拠
S-030002				水熱源運転	-	-	-	●	3.9	*	-	成績係数(COP)	標準規格による評価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消費電力[W]	JRA4060:2014	業務用ヒートポンプ給湯機	JRA4060:2014に準拠
S-031001	熱源（ヒートポンプ）	熱風ヒートポンプ（空気熱源・一過式）	空気を熱源とし、一過式の供給方式を用いるヒートポンプ方式で、高温の熱風を発生させる装置。	-	-	-	●	3.5	-	-	-	成績係数(COP)	標準条件による評価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、空気入口温度、熱風供給温度、外気温度（乾球温度/湿球温度）を次のとおり、設定することを条件とする。空気入口温度：20℃、熱風供給温度：80℃、外気温度（乾球温度/湿球温度）25℃/21℃とする。

水準表 クラスNo.	区分			クラス			トップ ランナー 制度 規定	認証対象	LD-Tech 水準	指標								
	技術分類	設備・機器等	原理・しくみ	条件	能力 (名称)	能力 (単位)				測定単位		計算方法			試験条件			
										単位	名称	評価方法の タイプ	準拠する 規格	規格の 名称	計算式	準拠する 規格	規格の 名称	説明
S-032001	熱源（ヒートポンプ）	熱風ヒートポンプ（水熱源・一過/循環式）	水を熱源とし、一過/循環式の供給方式を用いるヒートポンプ方式で、高温の熱風を発生させる熱源装置。	一過式	-	-	-	●	3.7	-	成績係数(COP)	標準条件による評価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、空気入口温度、熱風供給温度、熱源水入口温度、熱源水出口温度を次のとおり設定することを条件とする。空気入口温度：20℃、熱風供給温度：100℃、熱源水入口温度：30℃、熱源水出口温度：25℃
S-032002				循環式	-	-	-	●	3.5	-	成績係数(COP)	標準条件による評価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、空気入口温度、熱風供給温度、熱源水入口温度、熱源水出口温度を次のとおり設定することを条件とする。空気入口温度：50℃、熱風供給温度：60℃、熱源水入口温度：30℃、熱源水出口温度：25℃
S-032003				水熱源運転、温水出口温度70℃、熱源水入口温度50℃、熱源水出口温度38.6℃、温水出入口温度差50℃	-	-	-	-	-	-	成績係数(COP)	標準条件による評価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温度、熱源水入口温度、熱源水出口温度、温水出入口温度差を以下のとおり設定することを条件とする。温水出口温度：70℃ 熱源水入口温度：50℃ 熱源水出口温度：38.6℃ 温水出入口温度差：50℃
S-033001	熱源（ヒートポンプ）	蒸気発生ヒートポンプ（水熱源・一過式）	水を熱源とし、一過式の供給方式を用いるヒートポンプ方式で、蒸気を発生させる熱源装置。	蒸気圧力0.1MPaG、熱源水入口温度65℃、熱源水出口温度60℃	-	-	-	○	3.53	*	成績係数(COP)	標準条件による評価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、蒸気圧力、熱源水入口温度、熱源水出口温度を次のとおり設定することを条件とする。蒸気圧力：0.1MPaG、熱源水入口温度：65℃、熱源水出口温度：60℃



水準表 クラスNo.	区分			クラス			トップ ランナー 制度 規定	認証対象	LD-Tech 水準	指標									
	技術分類	設備・機器等	原理・しくみ	条件	能力 (名称)	能力 (単位)				測定単位		計算方法			試験条件				
										単位	名称	評価方法の タイプ	準拠する 規格	規格の 名称	計算式	準拠する 規格	規格の 名称	説明	
S-033002	熱源（ヒートポンプ）	蒸気発生ヒートポンプ（水熱源・一過式）	水を熱源とし、一過式の供給方式を用いるヒートポンプ方式で、蒸気を発生させる熱源装置。	蒸気圧力 0.1MPaG、 熱源水入口 温度80℃、 熱源水出口 温度70℃	-	-	-	○	3.5	-	成績係数 (COP)	標準条件による評価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、蒸気圧力、熱源水入口温度、熱源水出口温度を以下のとおり設定することを条件とする。蒸気圧力：0.1MPaG 熱源水入口温度：80℃ 熱源水出口温度：70℃	
S-033003				蒸気圧力 0.6MPaG、 熱源水入口 温度70℃、 熱源水出口 温度65℃	-	-	-	○	2.46	*	成績係数 (COP)	標準条件による評価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、蒸気圧力、熱源水入口温度、熱源水出口温度を以下のとおり設定することを条件とする。蒸気圧力：0.6MPaG 熱源水入口温度：70℃ 熱源水出口温度：65℃	
S-034001	熱源（ヒートポンプ）	蒸気再圧縮装置	産業プロセス等で利用された排熱を回収し、循環式の供給方式を用いるヒートポンプ。低圧の蒸気を圧縮して再利用することで、ボイラ等の蒸気を利用する設備・機器等の省エネを実現可能。	吐出圧力 0.1MPaG 以上 0.2MPaG 以下、吐出 蒸気量 1.0ton/h 以上 2.0ton/h 以下、給水 温度80℃	-	-	-	● Oriented	0.067	*	kWh/kg	消費電力量	標準条件による評価	-	-	消費電力量=システム消費電力[kW]/吐出蒸気量[kg/h]	-	-	消費電力量の算出にあたっては、吐出圧力、吐出蒸気量、給水温度を次のとおり設定することを条件とする。吐出圧力：0.1MPaG以上 0.2MPaG以下、吐出蒸気量：1.0ton/h以上 2.0ton/h以下、給水温度：80℃
S-034002				吐出圧力 0.1MPaG 以上 0.3MPaG 以下、吐出 蒸気量 3.0ton/h 以上、給水 温度80℃	-	-	-	● Oriented	0.064	*	kWh/kg	消費電力量	標準条件による評価	-	-	消費電力量=システム消費電力[kW]/吐出蒸気量[kg/h]	-	-	消費電力量の算出にあたっては、吐出圧力、吐出蒸気量、給水温度を以下のとおり設定することを条件とする。吐出圧力：0.1MPaG以上 0.3MPaG以下 吐出蒸気量：3.0ton/h以上 給水温度：80℃

水準表 クラスNo.	概要			クラス			トップ ランナー 制度 規定	認証対象	LD-Tech 水準	指標								
	区分 技術分類	設備・機器等	原理・しくみ	条件	能力 (名称)	能力 (単位)				測定単位		計算方法			試験条件			
										単位	名称	評価方法の タイプ	準拠する 規格	規格の 名称	計算式	準拠する 規格	規格の 名称	説明
S-034003	熱源（ヒートポンプ）	蒸気再圧縮装置	産業プロセス等で利用された排熱を回収し、循環式の供給方式を用いるヒートポンプ。低圧の蒸気を圧縮して再利用することで、ボイラ等の蒸気を利用する設備・機器等の省エネを実現可能。	吐出圧力0.4MPaG以上、吐出蒸気量1.0ton/h以上 1.5ton/h以下、給水温度80℃	-	-	-	● Oriented	0.085	* kWh/kg	消費電力量	標準条件による評価	-	-	消費電力量 = システム消費電力[kW]/吐出蒸気量[kg/h]	-	-	消費電力量の算出にあたっては、吐出圧力、吐出蒸気量、給水温度を以下のとおり設定することを条件とする。吐出圧力：0.4MPaG以上 吐出蒸気量：1.0ton/h以上 1.5ton/h以下 給水温度：80℃
S-036001	空調機（ベレットストーブ）	密閉式ベレットストーブ	木質ベレットを燃料とする燃焼機器。木質ベレットを燃焼させた熱を熱交換器により室内の空気に伝え、送風ファンにより部屋の隅々まで温風を行き渡らせる。燃焼させた空気は煙突から排気させるため、室内の空気と交わることはなく、清潔な環境を保つことができる。木質ベレットは、カーボンニュートラルであるため、CO2の排出削減が可能。	-	-	-	●	77	* %	熱効率	標準条件による評価	JHIAN-5601:2004	木質バイオマス燃焼機器の試験方法通則	$\eta = 100 - (qa + qb + qr)$ 、 $\eta$ ：熱効率[%]、 $qa$ ：試験燃料中の発熱量当たり排気ガス中の熱損失(Qa)の比、熱による熱損失の割合（燃焼基準）[%]、 $qb$ ：試験燃料の熱容量当たり排気ガス中の化学的熱損失(Qb)、の潜熱による熱損失の割合（燃焼基準）[%]、 $qr$ ：試験燃料の熱容量当たり底部格子を通過し残渣物中に残った可燃性構成物質による熱損失(Qr)の残渣物中の可燃性構成、物質による損失の割合（燃焼基準）[%] ※発熱量は高位発熱量とする	JHIAN-5601:2004	木質バイオマス燃焼機器の試験方法通則	JHIAN-5601:2004に準拠、試験実施にあたっては、ISO17025に準拠した試験機関による性能評価を行うこととする。	
S-095001	その他	空調用ハイブリッドフィルタ	空調機に設置する中性性能フィルタを従来のプレ+中性性能から低圧損失洗浄再生中性性能フィルタとすることにより、送風機の運転静圧を低下させ、インバータ装置による回転数制御方式を駆使することにより、電動機の軸動力を低減させる技術。	-	定格風量	28m3/min	-	●	0.25	* kW	空調機ファン動力	シミュレーションによる評価	-	-	$W = a \times Q \cdot \Delta P + b \times (r/r0)^d + c$ 、 $W$ ：ファン動力[kW]、 $Q \cdot \Delta P$ ：風量×フィルタ圧損[m3Pa/s]、 $r$ ：ファン回転数[rpm]、 $r0$ ：定格回転数[rpm]、 $a$ ：-0.000222、 $b$ ：3.296、 $c$ ：0.238、 $d$ ：2.8	-	-	空調方式：変風量方式、設計風量：103m3/min（1.72m3/s）、初期圧損：100Pa、最終圧損：255Pa、平均圧損：185Pa、その他：フィルタ2枚使用、実抵抗は風量比の1.1乗に比例するものとして補正、フィルタ圧損以外の管路抵抗は一定、管路抵抗は風量の2乗に比例、空調負荷率は100%風量の発生率 1%、75%風量の発生率 42%、60%風量の発生率 57%
S-095002						56m3/min	-	●	0.5	* kW								

水準表 クラスNo.	区分			概要			クラス			指標								
	技術分類	設備・機器等	原理・しくみ	条件	能力 (名称)	能力 (単位)	トップ ランナー 制度 規定	認証対象	LD-Tech 水準	測定単位		計算方法			試験条件			
										単位	名称	評価方法の タイプ	準拠する 規格	規格の 名称	計算式	準拠する 規格	規格の 名称	説明
S-037001	電気系給湯 器	ヒートポンプ給湯機 (空気熱源)	空気を熱源とするヒートポンプ方式の給 湯機。貯湯ユニットを含むもの。	-	加熱能力	10kW以下	-	○	4.2	-	年間標準貯 湯加熱エネ ルギー消費 効率	標準規格に よる評価	JRA4060: 2014	業務用ヒー トポンプ給湯 機	JRA4060:2014に準拠	JRA4060: 2014	業務用ヒー トポンプ給湯 機	JRA4060:2014に準拠
S-037002						10kW超 20kW以下	-	○	4	-								
S-037003						20kW超 30kW以下	-	●	4	-								
S-037004						30kW超 40kW以下	-	○	3.7	-								
S-037005						40kW超 50kW以下	-	○	3.8	-								
S-037006						50kW超	-	●	3.9	-								
S-037007	寒冷地仕様	加熱能力	10kW以下	-	○	3.5	-	寒冷地年間 標準貯湯加 熱エネルギー 消費効率	標準規格に よる評価	JRA4060: 2014	業務用ヒー トポンプ給湯 機	JRA4060:2014に準拠	JRA4060: 2014	業務用ヒー トポンプ給湯 機	JRA4060:2014に準拠			
S-037008						10kW超 20kW以下	-									○	3.3	-
S-037009						20kW超 30kW以下	-									○	3.5	-
S-037010						30kW超 40kW以下	-									○	3.1	-
S-037011						40kW超 50kW以下	-									○	3.3	-
S-037012						50kW超	-									●	3.3	-

水準表 クラスNo.	区分			クラス			トップ ランナー 制度 規定	認証対象	LD-Tech 水準	指標								
	技術分類	設備・機器等	概要 原理・しくみ	条件	能力 (名称)	能力 (単位)				測定単位		計算方法			試験条件			
										単位	名称	評価方法の タイプ	準拠する 規格	規格の 名称	計算式	準拠する 規格	規格の 名称	説明
S-039001	燃焼式給湯器	潜熱回収型給湯器	バーナによって加熱した高温の空気により配管内の水を温める機器。潜熱回収型は、従来捨てられていた燃焼排熱を潜熱回収する。	-	-	-	-	● Oriented	95	%	熱効率	標準規格による評価	JISS2109:2010R	家庭用ガス温水機器	JISS2109:2010Rに準拠	JISS2109:2010R	家庭用ガス温水機器	JISS2109:2010Rに準拠
S-040001	ボイラ	温水機	燃焼室、伝熱面、熱交換器からなる。燃焼によって温められた熱媒水と給水管の水とを熱交換させ、その温水を取り出して利用する。熱媒水を真空状態に密閉した状態で沸騰させる真空式と、熱媒水を大気に開放した状態で温める無圧式が存在する。	-	出力	1000kW未満	-	● Oriented	96	%	ボイラ効率	標準規格による評価	JISB8222-1993、JISB8417:2000、またはJISB8418:2000、またはJISB8418:2000(あるいは、HA-008:2015)	陸用ボイラ熱勘定方式、真空式温水発生機、または無圧式温水発生機(あるいは、真空式温水発生機または無圧式温水発生機)	JISB8222-1993、JISB8417:2000、またはJISB8418:2000に準拠(あるいは、HA-010:2015に準拠)	JISB8222-1993、JISB8417:2000、またはJISB8418:2000、またはJISB8418:2000(あるいは、HA-010:2015)	陸用ボイラ熱勘定方式、真空式温水発生機、または無圧式温水発生機(あるいは、真空式温水発生機または無圧式温水発生機)	JISB8222-1993、JISB8417:2000、またはJISB8418:2000に準拠(あるいは、HA-008:2015)
S-040002				-	出力	1000kW以上2000kW未満	-	● Oriented	91									
S-040003				-	出力	2000kW以上	-	● Oriented	91									
S-040004				潜熱回収型、LPG焚き	出力	1000kW未満	-	● Oriented	103	%	ボイラ効率	標準規格による評価	JISB8222-1993、JISB8417:2000またはJISB8418:2000(あるいは、HA-035:2017)	陸用ボイラ熱勘定方式、真空式温水発生機、または無圧式温水発生機(あるいは、ガス焚潜熱回収型真空式温水発生機またはガス焚潜熱回収型無圧式温水発生機)	JISB8222-1993、JISB8417:2000、またはJISB8418:2000に準拠(あるいは、HA-036:2017に準拠)	JISB8222-1993、JISB8417:2000またはJISB8418:2000(あるいは、HA-035:2017)	陸用ボイラ熱勘定方式、真空式温水発生機、または無圧式温水発生機(あるいは、ガス焚潜熱回収型真空式温水発生機またはガス焚潜熱回収型無圧式温水発生機)	JISB8222-1993、JISB8417:2000、またはJISB8418:2000に準拠(あるいは、HA-035:2017)
S-040005						1000kW以上2000kW未満	-	- Oriented	-									
S-040006						2000kW以上	-	- Oriented	-									

水準表 クラスNo.	区分		概要		クラス			トップ ランナー 制度 規定	認証対象	LD-Tech 水準	指標							
	技術分類	設備・機器等	原理・しくみ	条件	能力 (名称)	能力 (単位)	測定単位				計算方法			試験条件				
							単位				名称	評価方法の タイプ	準拠する 規格	規格の 名称	計算式	準拠する 規格	規格の 名称	説明
S-040007	ボイラ	温水機	燃焼室、伝熱面、熱交換器からなる。燃焼によって温められた熱媒水と給水管の水とを熱交換させ、その温水を取り出して利用する。熱媒水を真空状態に密閉した状態で沸騰させる真空式と、熱媒水を大気に開放した状態で温める無圧式が存在する。	潜熱回収型、都市ガス13A焼き	出力	1000kW未満	-	● Oriented	105.2	%	ボイラ効率	標準規格による評価	JISB8222-1993、JISB8417:2000またはJISB8418:2000またはJISB8418:2000(あるいは、HA-035:2017またはHA-036:2017)	陸用ボイラ熱勘定方式、真空式温水発生機、または無圧式温水発生機(あるいは、ガス焚潜熱回収型真空式温水発生機またはガス焚潜熱回収型無圧式温水発生機)	JISB8222-1993、JISB8417:2000、またはJISB8418:2000(あるいは、HA-035:2017またはHA-036:2017に準拠)	陸用ボイラ熱勘定方式、真空式温水発生機、または無圧式温水発生機(あるいは、ガス焚潜熱回収型真空式温水発生機)	JISB8222-1993、JISB8417:2000、またはJISB8418:2000(あるいは、HA-035:2017またはHA-036:2017に準拠)	
S-040008						1000kW以上2000kW未満	-	- Oriented	-									
S-040009						2000kW以上	-	- Oriented	-									
S-040010				燃料：木質バイオマス	出力	100kW以上200kW未満	-	○	90	%	ボイラ効率	標準規格による評価	HA-034-2:2015またはHA-034-1:2015	日本暖房機器工業会規格HA	JISB8222-1993、HA-034-2:2015、HA-034-1:2015に準拠	JISB8222-1993、JISB8417:2000、JISB8418:2000またはHA-034-2:2015	陸用ボイラ熱勘定方式、真空式温水発生機、無圧式温水発生機または木質バイオマスボイラ第2部：無圧式温水発生機	JISB8222-1993、JISB8417:2000、またはHA-034-2:2015に準拠
S-040011						200kW以上300kW未満	-	●	90									
S-040012						300kW以上400kW未満	-	●	90									

水準表 クラスNo.	区分		概要		クラス			トップ ランナー 制度 規定	認証対象	LD-Tech 水準	指標							
	技術分類	設備・機器等	原理・しくみ	条件	能力 (名称)	能力 (単位)	測定単位				計算方法			試験条件				
							単位				名称	評価方法の タイプ	準拠する 規格	規格の 名称	計算式	準拠する 規格	規格の 名称	説明
S-040013	ボイラ	温水機	燃焼室、伝熱面、熱交換器からなる。燃焼によって温められた熱媒水と給水管の水とを熱交換させ、その温水を取り出して利用する。熱媒水を真空状態に密閉した状態で沸騰させる真空式と、熱媒水を大気に開放した状態で温める無圧式が存在する。	燃料：木質 バイオマス	出力	400kW以上500kW未満	-	●	90	%	ボイラ効率	標準規格による評価	HA-034-2：2015またはHA-034-1：2015	日本暖房機器工業規格HA	JISB8222-1993、HA-034-2:2015、HA-034-1:2015に準拠	JISB8222-1993、JISB8417:2000、JISB8418:2000またはHA-034-2:2015	陸用ボイラ熱勘定方式、真空式温水発生機、無圧式温水発生機または木質バイオマスボイラ-第2部：無圧式温水発生機	JISB8222-1993、JISB8417:2000、JISB8418:2000またはHA-034-2:2015に準拠
S-040014						500kW以上600kW未満	-	●	90									
S-040015				燃料：薪	出力	100kW未満	-	○	90	%	ボイラ効率	標準規格による評価	HA-034-2：2015またはHA-034-1：2015	日本暖房機器工業規格HA	JISB8222-1993、HA-034-2：2015、HA-034-1：2015に準拠	JISB8222-1993、JISB8417:2000またはJISB8418:2000	陸用ボイラ熱勘定方式、真空式温水発生機、または無圧式温水発生機	JISB8222-1993、JISB8417:2000、またはJISB8418:2000に準拠
S-040016						100kW以上200kW未満	-	○	90									
S-040017						200kW以上400kW未満	-	○	85									
S-040018						400kW以上	-	○	85									
S-261001	ボイラ	温水機（水素焚き）	燃焼室、伝熱面、熱交換器からなる。また、通常の温水機と異なり、水素焚きの場合、水素用超低NOxバーナ、水素用安全装置、水素焚専用缶体を搭載している。水素の燃焼によって温められた熱媒水と給水管の水とを熱交換させ、その温水を取り出して利用する。熱媒水を真空状態に密閉した状態で沸騰させる真空式と、熱媒水を大気に開放した状態で温める無圧式が存在する。燃料となる水素は燃焼時に水のみしか生成せず、CO2を排出しない。	-	-	-	-	○ Oriented	95	%	ボイラ効率	標準規格による評価	JISB8222-1993、JISB8417:2000、またはJISB8418:2000（あるいは、HA-008:2015）	陸用ボイラ熱勘定方式、真空式温水発生機、または無圧式温水発生機（あるいは、真空式温水発生機または無圧式温水発生機）	JISB8222-1993、JISB8417:2000、またはJISB8418:2000（あるいは、HA-010:2015に準拠）	JISB8222-1993、JISB8417:2000、またはJISB8418:2000（あるいは、HA-008:2015）	陸用ボイラ熱勘定方式、真空式温水発生機、または無圧式温水発生機（あるいは、真空式温水発生機または無圧式温水発生機）	JISB8222-1993、JISB8417:2000、またはJISB8418:2000（あるいは、HA-010:2015に準拠）

水準表 クラスNo.	区分		概要		クラス			トップ ランナー 制度 規定	認証対象	LD-Tech 水準	指標							
	技術分類	設備・機器等	原理・しくみ	条件	能力 (名称)	能力 (単位)	測定単位				計算方法			試験条件				
							単位				名称	評価方法の タイプ	準拠する 規格	規格の 名称	計算式	準拠する 規格	規格の 名称	説明
S-041001	ボイラ	蒸気ボイラ（貫流ボイラ）	燃料の燃焼を熱源として水を加熱して蒸気を発生させ、その蒸気を他に供給する装置。小型・軽量で、空調用、業務用～産業用の幅広い業種で使用される。	-	蒸発量	1500kg/h未満	-	● Oriented	98	%	ボイラ効率	標準規格による評価	JISB8222-1993	陸用ボイラ熱勘定方式	JISB8222-1993に準拠	JISB8222-1993および公益財団法人日本小型貫流ボイラ協会が規定する「ボイラ性能表示基準値」	陸用ボイラ熱勘定方式および公益財団法人日本小型貫流ボイラ協会が規定する「ボイラ性能表示基準値」	JISB8222-1993および公益財団法人日本小型貫流ボイラ協会が規定する「ボイラ性能表示基準値」に準拠
S-041002						1500kg/h以上 3000kg/h未満	-	● Oriented	99									
S-041003						3000kg/h以上	-	● Oriented	99									
S-041004				潜熱回収型	蒸発量	3000kg/h未満	-	● Oriented	102	%	ボイラ効率	標準規格による評価	JISB8222-1993	陸用ボイラ熱勘定方式	JISB8222-1993に準拠	JISB8222-1993および公益財団法人日本小型貫流ボイラ協会が規定する「ボイラ性能表示基準値」	陸用ボイラ熱勘定方式および公益財団法人日本小型貫流ボイラ協会が規定する「ボイラ性能表示基準値」	JISB8222-1993および公益財団法人日本小型貫流ボイラ協会が規定する「ボイラ性能表示基準値」に準拠
S-041005						3000kg/h以上	-	● Oriented	102									
S-041006				クローズド回収型（給水温度100℃以上）、エアヒータ（空気予熱器）の搭載	（相当）蒸発量	3000kg/h未満	-	● Oriented	98	* %	ボイラ効率	標準規格による評価	JISB8222-1993	陸用ボイラ熱勘定方式	JISB8222-1993に準拠	貫流ボイラ性能表示ガイドライン	貫流ボイラ性能表示ガイドライン	給水温度15℃、給気温度35℃、運転圧力は「貫流ボイラ性能表示ガイドライン」表1.効率表示圧力基準に準拠
S-041007						3000kg/h以上	-	● Oriented	98	*								

水準表 クラスNo.	区分		概要			クラス			LD-Tech 水準	指標								
	技術分類	設備・機器等	原理・しくみ	条件	能力 (名称)	能力 (単位)	トッ プ ラン ナー 制 度 規 定	認 証 対 象		測定単位			計算方法			試験条件		
										単位	名称	評価方法の タイプ	準拠する 規格	規格の 名称	計算式	準拠する 規格	規格の 名称	説明
S-042001	ボイラ	蒸気ボイラ (炉筒 煙管ボイラ)	燃料の燃焼を熱源として水を加熱して蒸 気を発生させ、その蒸気を他に供給する 装置。中程度の出力で、主に産業用・ 地域冷暖房用途で使用される。	-	蒸発量	1500kg/h 未満	-	● Oriented	92	%	ボイラ効率	標準規格に よる評価	JISB8222 -1993	陸用ボイラー 熱勘定方式	JISB8222-1993に準拠	JISB8222 -1993	陸用ボイラー 熱勘定方式	JISB8222-1993に準拠
S-042002						1500kg/h 以上 3000kg/h 未満	-	● Oriented	92									
S-042003						3000kg/h 以上 7200kg/h 未満	-	● Oriented	96									
S-042004						7200kg/h 以上 19200kg/ h未満	-	● Oriented	96									
S-042005						19200kg/ h以上	-	● Oriented	92									
S-042006				潜熱回収 型、都市ガ ス13A焚き	蒸発量	1500kg/h 未満	-	- Oriented	-	%	ボイラ効率	標準規格に よる評価	JISB8222 -1993	陸用ボイラー 熱勘定方式	JISB8222-1993に準拠	JISB8222 -1993	陸用ボイラー 熱勘定方式	JISB8222-1993に準拠
S-042007						1500kg/h 以上 3000kg/h 未満	-	● Oriented	102	%								
S-042008						3000kg/h 以上	-	- Oriented	-	%								
S-043001	ボイラ	蒸気ボイラ (水管 ボイラ)	燃料の燃焼を熱源として水を加熱して蒸 気を発生させ、その蒸気を他に供給する 装置。高圧・大容量で、主に化学・製紙 業といった産業用や、地域暖房用で使 用される。	-	蒸発量	1500kg/h 未満	-	○ Oriented	92	%	ボイラ効率	標準規格に よる評価	JISB8222 -1993	陸用ボイラー 熱勘定方式	JISB8222-1993に準拠	JISB8222 -1993	陸用ボイラー 熱勘定方式	JISB8222-1993に準拠
S-043002						1500kg/h 以上 3000kg/h 未満	-	- Oriented	-									
S-043003						3000kg/h 以上 7200kg/h 未満	-	● Oriented	96									



水準表 クラスNo.	概要			クラス			トップ ランナー 制度 規定	認証対象	LD-Tech 水準	指標								
	区分 技術分類	設備・機器等	原理・しくみ	条件	能力 (名称)	能力 (単位)				測定単位		計算方法			試験条件			
										単位	名称	評価方法の タイプ	準拠する 規格	規格の 名称	計算式	準拠する 規格	規格の 名称	説明
S-043004	ボイラ	蒸気ボイラ（水管ボイラ）	燃料の燃焼を熱源として水を加熱して蒸気を発生させ、その蒸気を他に供給する装置。高圧・大容量で、主に化学・製紙業といった産業用や、地域暖房用で使用される。	-	蒸発量	7200kg/h以上 19200kg/h未満	-	● Oriented	96	%	ボイラ効率	標準規格による評価	JISB8222-1993	陸用ボイラ熱勘定方式	JISB8222-1993に準拠	JISB8222-1993	陸用ボイラ熱勘定方式	JISB8222-1993に準拠
S-043005						19200kg/h以上	-	○ Oriented	94									
S-044001	ボイラ	水素ボイラ（貫流ボイラ）	水素の燃焼を熱源として水を加熱して蒸気を発生させ、その蒸気を他に供給する装置。水素は燃焼時に水のみが生成せず、CO2を排出しないことから、炭化水素系燃料からの代替により、大幅にCO2を削減できる。現在は安価に水素が調達可能な副生水素の工場が対象となっているが、将来的には水素価格の低下により広く様々な業界で利用できると考えられる。	-	蒸発量	1500kg/h未満	-	●	98	%	ボイラ効率	標準規格による評価	JISB8222-1993	陸用ボイラ熱勘定方式	JISB8222-1993に準拠	JISB8222-1993および公益財団法人日本小型貫流ボイラ協会が規定する「ボイラ性能表示基準値」	陸用ボイラ熱勘定方式および公益財団法人日本小型貫流ボイラ協会が規定する「ボイラ性能表示基準値」	JISB8222-1993および公益財団法人日本小型貫流ボイラ協会が規定する「ボイラ性能表示基準値」
S-044002						1500kg/h以上 3000kg/h	-	●	98									
S-044003						3000kg/h以上	-	-	-									
S-045001	ボイラ	熱媒ボイラ	沸点の高い油を伝熱媒体に使用することによって、常圧で高温が得られる装置。熱媒の種類によって油温度を200℃以上の任意温度にすることが容易にできるため、精度の高い温度制御が必要な化学工業等の加熱、反応用プロセスに多く用いられる。	-	出力	1000kW未満	-	● Oriented	92	%	ボイラ効率	標準規格による評価	JISB8222-1993	陸用ボイラ熱勘定方式	JISB8222-1993に準拠	JISB8222-1993	陸用ボイラ熱勘定方式	JISB8222-1993に準拠
S-045002						1000kW以上2000kW未満	-	● Oriented	92									
S-045003						2000kW以上	-	● Oriented	92									
S-046001	コージェネレーション	ガスエンジンコージェネレーション	ガスを燃料としエンジン方式により発電し、その際に生じる廃熱を同時回収することにより、燃料を効率的に利用する熱電供給システム。廃熱で発生する蒸気や温水は、製造業のプロセス利用や、施設の空調・給湯などに幅広く使用される。	50Hz	発電出力	5kW以下	-	● Oriented	85.5	%	総合効率	標準規格による評価	JISB8121:2009	コージェネレーションシステム用語	JISB8121:2009に準拠	JISB8122:2009	コージェネレーションユニットの性能試験方法	JISB8122:2009に準拠

水準表 クラスNo.	区分			クラス			トップ ランナー 制度 規定	認証対象	LD-Tech 水準	指標								
	技術分類	設備・機器等	概要 原理・しくみ	条件	能力 (名称)	能力 (単位)				測定単位		計算方法			試験条件			
										単位	名称	評価方法の タイプ	準拠する 規格	規格の 名称	計算式	準拠する 規格	規格の 名称	説明
S-046002	コージェネ レーション	ガスエンジンコージェ ネレーション	ガスを燃料としエンジン方式により発電 し、その際に生じる廃熱を同時回収する ことにより、燃料を効率的に利用する熱 電供給システム。廃熱で発生する蒸気や 温水は、製造業のプロセス利用や、施設 の空調・給湯などに幅広く使用される。	50Hz	発電出力	5kW超 10kW以下	-	○ Oriented	86.5	%	総合効率	標準規格に よる評価	JISB8121 :2009	コージェネ レーションシ ステム用語	JISB8121:2009に準拠	JISB8122 :2009	コージェネ レーションユ ニットの性能 試験方法	JISB8122:2009に準拠
S-046003						10kW超 25kW以下	-	● Oriented	85.5									
S-046004						25kW超 35kW以下	-	● Oriented	88									
S-046005						35kW超 250kW以下	-	○ Oriented	90.2									
S-046006						250kW超 500kW以下	-	○ Oriented	83.8									
S-046007						500kW超 750kW以下	-	○ Oriented	87.8									
S-046008						750kW超 1000kW以下	-	○ Oriented	87.8									
S-046009						3000kW超	-	○ Oriented	87									
S-046010						5kW以下	-	○ Oriented	29									
S-046011						5kW超 10kW以下	-	○ Oriented	31.5									
S-046012						10kW超 25kW以下	-	○ Oriented	33.5									
S-046013						25kW超 35kW以下	-	○ Oriented	33.5									

水準表 クラスNo.	区分		概要	クラス			トップ ランナー 制度 規定	認証対象	LD-Tech 水準	指標								
	技術分類	設備・機器等		条件	能力 (名称)	能力 (単位)				測定単位		計算方法			試験条件			
										単位	名称	評価方法の タイプ	準拠する 規格	規格の 名称	計算式	準拠する 規格	規格の 名称	説明
S-046014	コージェネ レーション	ガスエンジンコージェ ネレーション	ガスを燃料としエンジン方式により発電 し、その際に生じる廃熱を同時回収する ことにより、燃料を効率的に利用する熱 電供給システム。廃熱で発生する蒸気や 温水は、製造業のプロセス利用や、施設 の空調・給湯などに幅広く使用される。	50Hz	発電出力	35kW超 250kW以 下	-	○ Oriented	35.5	%	発電効率	標準規格に よる評価	JISB8121 :2009	コージェネ レーションシ ステム用語	JISB8121:2009に準拠	JISB8122 :2009	コージェネ レーションユ ニットの性能 試験方法	JISB8122:2009に準拠
S-046015						250kW超 500kW以 下	-	● Oriented	42.6									
S-046016						500kW超 750kW以 下	-	● Oriented	41.8									
S-046017						750kW超 1000kW以 下	-	○ Oriented	42.6									
S-046018						3000kW超	-	● Oriented	51									
S-046019				50Hz、高 速エンジン (1000rp m以上)	発電出力	1000kW超 2000kW以 下	-	○ Oriented	87	%	総合効率	標準規格に よる評価	JISB8121 :2009	コージェネ レーションシ ステム用語	JISB8121:2009に準拠	JISB8122 :2009	コージェネ レーションユ ニットの性能 試験方法	JISB8122:2009に準拠
S-046020						2000kW超 3000kW以 下	-	○ Oriented	77.5									
S-046021						1000kW超 2000kW以 下	-	● Oriented	43.1									
S-046022						2000kW超 3000kW以 下	-	● Oriented	44.5									
S-046023						1000kW超 2000kW以 下	-	○ Oriented	74.3									
S-046024						2000kW超 3000kW以 下	-	○ Oriented	77.9									
S-046025						1000kW超 2000kW以 下	-	○ Oriented	45.5									

水準表 クラスNo.	区分			概要			クラス			LD-Tech 水準	指標							
	技術分類	設備・機器等	原理・しくみ	条件	能力 (名称)	能力 (単位)	トップ ランナー 制度 規定	認証対象	測定単位		計算方法			試験条件				
									単位		名称	評価方法の タイプ	準拠する 規格	規格の 名称	計算式	準拠する 規格	規格の 名称	説明
S-046026	コージェネ レーション	ガスエンジンコージェ ネレーション	ガスを燃料としエンジン方式により発電し、その際に生じる廃熱を同時回収することにより、燃料を効率的に利用する熱電供給システム。廃熱で発生する蒸気や温水は、製造業のプロセス利用や、施設の空調・給湯などに幅広く使用される。	50Hz、中 速エンジン (1000rpm未満)	発電出力	2000kW超 3000kW以下	-	○ Oriented	47.8	%	発電効率	標準規格による評価	JISB8121 :2009	コージェネ レーションシ ステム用語	JISB8121:2009に準拠	JISB8122 :2009	コージェネ レーションユ ニットの性能 試験方法	JISB8122:2009に準拠
S-046027				60Hz	発電出力	5kW以下	-	● Oriented	85.5	%	総合効率	標準規格による評価	JISB8121 :2009	コージェネ レーションシ ステム用語	JISB8121:2009に準拠	JISB8122 :2009	コージェネ レーションユ ニットの性能 試験方法	JISB8122:2009に準拠
S-046028						5kW超 10kW以下	-	○ Oriented	86.5									
S-046029						10kW超 25kW以下	-	● Oriented	85.5									
S-046030						25kW超 35kW以下	-	● Oriented	88									
S-046031						35kW超 250kW以下	-	○ Oriented	90.7									
S-046032						250kW超 500kW以下	-	○ Oriented	82.1									
S-046033						500kW超 750kW以下	-	○ Oriented	87.8									
S-046034						750kW超 1000kW以下	-	○ Oriented	87.8									
S-046035						3000kW超	-	○ Oriented	87									
S-046036						5kW以下	-	○ Oriented	29									

水準表 クラスNo.	区分			クラス			トップ ランナー 制度 規定	認証対象	LD-Tech 水準	指標								
	技術分類	設備・機器等	概要 原理・しくみ	条件	能力 (名称)	能力 (単位)				測定単位		計算方法			試験条件			
										単位	名称	評価方法の タイプ	準拠する 規格	規格の 名称	計算式	準拠する 規格	規格の 名称	説明
S-046037	コージェネ レーション	ガスエンジンコージェ ネレーション	ガスを燃料としエンジン方式により発電し、その際に生じる廃熱を同時回収することにより、燃料を効率的に利用する熱電供給システム。廃熱で発生する蒸気や	60Hz	発電出力	5kW超 10kW以下	-	○ Oriented	31.5	%	発電効率	標準規格に よる評価	JISB8121 :2009	コージェネ レーションシ ステム用語	JISB8121:2009に準拠	JISB8122 :2009	コージェネ レーションユ ニットの性能 試験方法	JISB8122:2009に準拠
S-046038						10kW超 25kW以下	-	○ Oriented	33.5									
S-046039						25kW超 35kW以下	-	○ Oriented	33.5									
S-046040						35kW超 250kW以下	-	○ Oriented	37									
S-046041						250kW超 500kW以下	-	○ Oriented	42									
S-046042						500kW超 750kW以下	-	○ Oriented	41.3									
S-046043						750kW超 1000kW以下	-	● Oriented	42.9									
S-046044						3000kW超	-	● Oriented	51									
S-046045						60Hz、高 速エンジン (1000rp m以上)	発電出力	1000kW超 2000kW以下	-									
S-046046	2000kW超 3000kW以下	-	- Oriented	-														
S-046047	1000kW超 2000kW以下	-	● Oriented	44														
S-046048	2000kW超 3000kW以下	-	- Oriented	-														
S-046049	1000kW超 2000kW以下	-	○ Oriented	77														

水準表 クラスNo.	区分		概要		クラス			トップ ランナー 制度 規定	認証対象	LD-Tech 水準	指標							
	技術分類	設備・機器等	原理・しくみ	条件	能力 (名称)	能力 (単位)	測定単位				計算方法			試験条件				
							単位				名称	評価方法の タイプ	準拠する 規格	規格の 名称	計算式	準拠する 規格	規格の 名称	説明
S-046050	コージェネ レーション	ガスエンジンコージェ ネレーション	ガスを燃料としエンジン方式により発電 し、その際に生じる廃熱を同時回収する ことにより、燃料を効率的に利用する熱 電供給システム。廃熱で発生する蒸気や 温水は、製造業のプロセス利用や、施設 の空調・給湯などに幅広く使用される。	60Hz、中 速エンジン (1000rp m未満)	発電出力	2000kW超 3000kW以 下	-	○ Oriented	77.9	%	総合効率	標準規格に よる評価	JISB8121 :2009	コージェネ レーションシ ステム用語	JISB8121:2009に準拠	JISB8122 :2009	コージェネ レーションユ ニットの性能 試験方法	JISB8122:2009に準拠
S-046051						1000kW超 2000kW以 下	-	○ Oriented	45.5									
S-046052						2000kW超 3000kW以 下	-	○ Oriented	47.8									
S-047001	コージェネ レーション	ガスタービンコージェ ネレーション	ガスを燃料とし、タービン方式により発電 し、その際に生じる廃熱を同時回収する 熱電供給システム。廃熱で発生する蒸 気や温水は、製造業のプロセス利用や、 施設の空調・給湯などに幅広く使用され る。	50Hz	発電出力	1000kW以 下	-	○ Oriented	83	%	総合効率	標準規格に よる評価	JISB8121 :2009	コージェネ レーションシ ステム用語	JISB8121:2009に準拠	JISB8122 :2009	コージェネ レーションユ ニットの性能 試験方法	JISB8122:2009に準拠
S-047002						1000kW超 2000kW以 下	-	○ Oriented	84									
S-047003						2000kW超 3000kW以 下	-	● Oriented	81.8									
S-047033				50Hz、水・ 蒸気噴射方 式	発電出力	3,000kW 超 5,000kW 以下	-	○ Oriented	80.2	%	総合効率	標準規格に よる評価	JISB8121 :2009	コージェネ レーションシ ステム用語	JISB8121:2009に準拠	JISB8122 :2009	コージェネ レーションユ ニットの性能 試験方法	JISB8122:2009に準拠
S-047034						5,000kW 超 7,000kW 以下	-	○ Oriented	75.3									
S-047035						7,000kW 超 10,000kW 以下	-	○ Oriented	72.4									
S-047036						10,000kW 超 40,000kW 以下	-	○ Oriented	71.3									
S-047037						40,000kW 超	-	- Oriented	-									

水準表 クラスNo.	区分		概要	クラス			トップ ランナー 制度 規定	認証対象	LD-Tech 水準	指標								
	技術分類	設備・機器等		条件	能力 (名称)	能力 (単位)				測定単位		計算方法			試験条件			
										単位	名称	評価方法の タイプ	準拠する 規格	規格の 名称	計算式	準拠する 規格	規格の 名称	説明
S-047038	コージェネ レーション	ガスタービンコージェ ネレーション	ガスを燃料とし、タービン方式により発電し、その際に生じる廃熱を同時回収する熱電供給システム。廃熱で発生する蒸気や温水は、製造業のプロセス利用や、施設の空調・給湯などに幅広く使用される。	50Hz、希 薄予混合燃 焼方式	発電出力 超 3,000kW 以下	-	○ Oriented	85.3	%	総合効率	標準規格に よる評価	JISB8121 :2009	コージェネ レーションシ ステム用語	JISB8121:2009に準拠	JISB8122 :2009	コージェネ レーションユ ニットの性能 試験方法	JISB8122:2009に準拠	
S-047039				50Hz、希 薄予混合燃 焼方式	発電出力 超 5,000kW 以下	-	● Oriented	85.2	%	総合効率	標準規格に よる評価	JISB8121 :2009	コージェネ レーションシ ステム用語	JISB8121:2009に準拠	JISB8122 :2009	コージェネ レーションユ ニットの性能 試験方法	JISB8122:2009に準拠	
S-047040					7,000kW 以下 超 7,000kW	-	● Oriented	85.3	%									
S-047041					10,000kW 以下 超 10,000kW	-	○ Oriented	86.8	%									
S-047042					40,000kW 以下 超 40,000kW	-	- Oriented	-	%									
S-047043					50Hz、上 記以外	発電出力 超 3,000kW 以下	-	- Oriented	-	%	総合効率	標準規格に よる評価	JISB8121 :2009	コージェネ レーションシ ステム用語	JISB8121:2009に準拠	JISB8122 :2009	コージェネ レーションユ ニットの性能 試験方法	JISB8122:2009に準拠
S-047044						5,000kW 超 7,000kW 以下	-	- Oriented	-									
S-047045						7,000kW 超 10,000kW 以下	-	- Oriented	-									
S-047046						10,000kW 超 40,000kW 以下	-	- Oriented	-									
S-047047						40,000kW 超	-	- Oriented	-									

水準表 クラスNo.	区分		概要	クラス			トップ ランナー 制度 規定	認証対象	LD-Tech 水準	指標										
	技術分類	設備・機器等		条件	能力 (名称)	能力 (単位)				測定単位		計算方法			試験条件					
										単位	名称	評価方法の タイプ	準拠する 規格	規格の 名称	計算式	準拠する 規格	規格の 名称	説明		
S-047009	コージェネ レーション	ガスタービンコージェ ネレーション	ガスを燃料とし、タービン方式により発電し、その際に生じる廃熱を同時回収する熱電供給システム。廃熱で発生する蒸気や温水は、製造業のプロセス利用や、施設の空調・給湯などに幅広く使用される。	50Hz	発電出力	1000kW以下	-	○ Oriented	18.6	%	発電効率	標準規格による評価	JISB8121:2009	コージェネレーションシステム用語	JISB8121:2009に準拠	JISB8122:2009	コージェネレーションユニットの性能試験方法	JISB8122:2009に準拠		
S-047010						1000kW超 2000kW以下	-	● Oriented	27.7											
S-047011						2000kW超 3000kW以下	-	○ Oriented	28.4											
S-047048					50Hz、水・ 蒸気噴射方式	発電出力	3,000kW超 5,000kW以下	-	○ Oriented	27.2	%	発電効率	標準規格による評価	JISB8121:2009	コージェネレーションシステム用語	JISB8121:2009に準拠	JISB8122:2009	コージェネレーションユニットの性能試験方法	JISB8122:2009に準拠	
S-047049						5,000kW超 7,000kW以下	-	○ Oriented	29.2											
S-047050						7,000kW超 10,000kW以下	-	● Oriented	34.3											
S-047051					10,000kW超 40,000kW以下	-	○ Oriented	34.8												
S-047052					40,000kW超	-	- Oriented	-												
S-047053				50Hz、希 薄予混合燃 焼方式	発電出力	3,000kW超 5,000kW以下	-	● Oriented	32.3	%	発電効率	標準規格による評価	JISB8121:2009	コージェネレーションシステム用語	JISB8121:2009に準拠	JISB8122:2009	コージェネレーションユニットの性能試験方法	JISB8122:2009に準拠		
S-047054					5,000kW超 7,000kW以下	-	○ Oriented	32.4												



水準表 クラスNo.	区分		概要	クラス			トップ ランナー 制度 規定	認証対象	LD-Tech 水準	指標																	
	技術分類	設備・機器等		条件	能力 (名称)	能力 (単位)				測定単位		計算方法			試験条件												
										単位	名称	評価方法の タイプ	準拠する 規格	規格の 名称	計算式	準拠する 規格	規格の 名称	説明									
S-047055	コージェネ レーション	ガスタービンコージェ ネレーション	ガスを燃料とし、タービン方式により発電し、その際に生じる廃熱を同時回収する熱電供給システム。廃熱で発生する蒸気や温水は、製造業のプロセス利用や、施設の空調・給湯などに幅広く使用される。	50Hz、希 薄予混合燃 焼方式	発電出力	7,000kW 超 10,000kW 以下	-	● Oriented	33.7	%	発電効率	標準規格に よる評価	JISB8121 :2009	コージェネ レーションシ ステム用語	JISB8121:2009に準拠	JISB8122 :2009	コージェネ レーションユ ニットの性能 試験方法	JISB8122:2009に準拠									
S-047056						10,000kW 超 40,000kW 以下	-	● Oriented	39.4																		
S-047057						40,000kW 超	-	- Oriented	-																		
S-047058				50Hz、上 記以外	発電出力	3,000kW 超 5,000kW 以下	-	- Oriented	-										%	発電効率	標準規格に よる評価	JISB8121 :2009	コージェネ レーションシ ステム用語	JISB8121:2009に準拠	JISB8122 :2009	コージェネ レーションユ ニットの性能 試験方法	JISB8122:2009に準拠
S-047059						5,000kW 超 7,000kW 以下	-	- Oriented	-																		
S-047060						7,000kW 超 10,000kW 以下	-	- Oriented	-																		
S-047061						10,000kW 超 40,000kW 以下	-	- Oriented	-																		
S-047062						40,000kW 超	-	- Oriented	-																		
S-047017						60Hz	発電出力	1000kW以 下	-																		
S-047018	1000kW超 2000kW以 下	-	○ Oriented	84																							
S-047019	2000kW超 3000kW以 下	-	● Oriented	81.8																							

水準表 クラスNo.	区分			クラス			トップ ランナー 制度 規定	認証対象	LD-Tech 水準	指標								
	技術分類	設備・機器等	原理・しくみ	条件	能力 (名称)	能力 (単位)				測定単位		計算方法			試験条件			
										単位	名称	評価方法の タイプ	準拠する 規格	規格の 名称	計算式	準拠する 規格	規格の 名称	説明
S-047063	コージェネ レーション	ガスタービンコージェ ネレーション	ガスを燃料とし、タービン方式により発電し、その際に生じる廃熱を同時回収する熱電供給システム。廃熱で発生する蒸気や温水は、製造業のプロセス利用や、施設の空調・給湯などに幅広く使用される。	60Hz、水・ 蒸気噴射方 式	発電出力	3,000kW 超 5,000kW 以下	-	○ Oriented	80.2	%	総合効率	標準規格に よる評価	JISB8121 :2009	コージェネ レーションシ ステム用語	JISB8121:2009に準拠	JISB8122 :2009	コージェネ レーションユ ニットの性能 試験方法	JISB8122:2009に準拠
S-047064						5,000kW 超 7,000kW 以下	-	○ Oriented	75.3									
S-047065						7,000kW 超 10,000kW 以下	-	○ Oriented	72.4									
S-047066						10,000kW 超 40,000kW 以下	-	○ Oriented	71.3									
S-047067						40,000kW 超	-	- Oriented	-									
S-047068				60Hz、希 薄予混合燃 焼方式	発電出力	3,000kW 超 5,000kW 以下	-	○ Oriented	85.3	%	総合効率	標準規格に よる評価	JISB8121 :2009	コージェネ レーションシ ステム用語	JISB8121:2009に準拠	JISB8122 :2009	コージェネ レーションユ ニットの性能 試験方法	JISB8122:2009に準拠
S-047069						5,000kW 超 7,000kW 以下	-	○ Oriented	85.7									
S-047070						7,000kW 超 10,000kW 以下	-	● Oriented	85.3									
S-047071						10,000kW 超 40,000kW 以下	-	○ Oriented	88									
S-047072						40,000kW 超	-	- Oriented	-									

水準表 クラスNo.	区分			クラス			トップ ランナー 制度 規定	認証対象	LD-Tech 水準	指標								
	技術分類	設備・機器等	概要 原理・しくみ	条件	能力 (名称)	能力 (単位)				測定単位		計算方法			試験条件			
										単位	名称	評価方法の タイプ	準拠する 規格	規格の 名称	計算式	準拠する 規格	規格の 名称	説明
S-047073	コージェネ レーション	ガスタービンコージェ ネレーション	ガスを燃料とし、タービン方式により発電し、その際に生じる廃熱を同時回収する熱電供給システム。廃熱で発生する蒸気や温水は、製造業のプロセス利用や、施設の空調・給湯などに幅広く使用される。	60Hz、上記以外	発電出力	3,000kW超 5,000kW以下	-	- Oriented	-	%	総合効率	標準規格による評価	JISB8121:2009	コージェネレーションシステム用語	JISB8121:2009に準拠	JISB8122:2009	コージェネレーションユニットの性能試験方法	JISB8122:2009に準拠
S-047074						5,000kW超 7,000kW以下	-	- Oriented	-									
S-047075						7,000kW超 10,000kW以下	-	- Oriented	-									
S-047076						10,000kW超 40,000kW以下	-	- Oriented	-									
S-047077						40,000kW超	-	- Oriented	-									
S-047025	コージェネレーション	ガスタービンコージェネレーション	ガスを燃料とし、タービン方式により発電し、その際に生じる廃熱を同時回収する熱電供給システム。廃熱で発生する蒸気や温水は、製造業のプロセス利用や、施設の空調・給湯などに幅広く使用される。	60Hz	発電出力	1000kW以下	-	- Oriented	-	%	発電効率	標準規格による評価	JISB8121:2009	コージェネレーションシステム用語	JISB8121:2009に準拠	JISB8122:2009	コージェネレーションユニットの性能試験方法	JISB8122:2009に準拠
S-047026						1000kW超 2000kW以下	-	● Oriented	27.7									
S-047027						2000kW超 3000kW以下	-	○ Oriented	28.4									
S-047078	コージェネレーション	ガスタービンコージェネレーション	ガスを燃料とし、タービン方式により発電し、その際に生じる廃熱を同時回収する熱電供給システム。廃熱で発生する蒸気や温水は、製造業のプロセス利用や、施設の空調・給湯などに幅広く使用される。	60Hz、水・蒸気噴射方式	発電出力	3,000kW超 5,000kW以下	-	○ Oriented	27.2	%	発電効率	標準規格による評価	JISB8121:2009	コージェネレーションシステム用語	JISB8121:2009に準拠	JISB8122:2009	コージェネレーションユニットの性能試験方法	JISB8122:2009に準拠
S-047079						5,000kW超 7,000kW以下	-	○ Oriented	29.2									
S-047080						7,000kW超 10,000kW以下	-	● Oriented	34.3									

水準表 クラスNo.	区分		概要	クラス			トップ ランナー 制度 規定	認証対象	LD-Tech 水準	指標								
	技術分類	設備・機器等		条件	能力 (名称)	能力 (単位)				測定単位		計算方法			試験条件			
										単位	名称	評価方法の タイプ	準拠する 規格	規格の 名称	計算式	準拠する 規格	規格の 名称	説明
S-047081	コージェネ レーション	ガスタービンコージェ ネレーション	ガスを燃料とし、タービン方式により発電し、その際に生じる廃熱を同時回収する熱電供給システム。廃熱で発生する蒸気や温水は、製造業のプロセス利用や、施設の空調・給湯などに幅広く使用される。	60Hz、水・ 蒸気噴射方 式	発電出力	10,000kW 超	-	○ Oriented	34.8	%	発電効率	標準規格に よる評価	JISB8121 :2009	コージェネ レーションシ ステム用語	JISB8121:2009に準拠	JISB8122 :2009	コージェネ レーションユ ニットの性能 試験方法	JISB8122:2009に準拠
S-047082						40,000kW 以下	-	- Oriented	-									
S-047083				60Hz、希 薄予混合燃 焼方式	発電出力	3,000kW 超	-	● Oriented	32.3	%	発電効率	標準規格に よる評価	JISB8121 :2009	コージェネ レーションシ ステム用語	JISB8121:2009に準拠	JISB8122 :2009	コージェネ レーションユ ニットの性能 試験方法	JISB8122:2009に準拠
S-047084						5,000kW 以下	-	○ Oriented	32.4									
S-047085						7,000kW 超	-	● Oriented	33.7									
S-047086						10,000kW 以下	-	● Oriented	39.4									
S-047087						40,000kW 以下	-	- Oriented	-									
S-047088						3,000kW 超	-	- Oriented	-									
S-047089						5,000kW 以下	-	- Oriented	-									
S-047090						7,000kW 超	-	- Oriented	-									
S-047091	10,000kW 以下	-	- Oriented	-														
S-047092	40,000kW 以下	-	- Oriented	-														
S-047092	60Hz、上 記以外	発電出力	3,000kW 超	-	- Oriented	-	%	発電効率	標準規格に よる評価	JISB8121 :2009	コージェネ レーションシ ステム用語	JISB8121:2009に準拠	JISB8122 :2009	コージェネ レーションユ ニットの性能 試験方法	JISB8122:2009に準拠			
S-047089			5,000kW 以下	-	- Oriented	-												
S-047090			7,000kW 超	-	- Oriented	-												
S-047091			10,000kW 以下	-	- Oriented	-												
S-047092	40,000kW 以下	-	- Oriented	-														

水準表 クラスNo.	区分			クラス			トップ ランナー 制度 規定	認証対象	LD-Tech 水準	指標												
	技術分類	設備・機器等	原理・しくみ	条件	能力 (名称)	能力 (単位)				測定単位			計算方法			試験条件						
										単位	名称	評価方法の タイプ	準拠する 規格	規格の 名称	計算式	準拠する 規格	規格の 名称	説明				
S-048001	コージェネ レーション	燃料電池コージェネ レーション	ガスを燃料とし、燃料電池方式により発電し、その際に生じる廃熱を同時回収する熱電供給システム。廃熱で発生する蒸気や温水は、製造業のプロセス利用や、施設の空調・給湯などに幅広く使用される。	50Hz 燃料ガスの種類：純水素	発電出力	75kW以下	-	-	-	%	総合効率	標準規格による評価	JISC8801:2009	りん酸形燃料電池発電システム通則	JISC8801:2009に準拠	JISC8801:2009	りん酸形燃料電池発電システム通則	JISC8801:2009に準拠				
75kW超 150kW以下						-	●	93														
150kW超						-	-	-														
S-048002																						
S-048003																						
S-048004							50Hz 燃料ガスの種類：純水素	発電出力	75kW以下	-	-	-	%	発電効率	標準規格による評価	JISC8801:2009	りん酸形燃料電池発電システム通則	JISC8801:2009に準拠	JISC8801:2009	りん酸形燃料電池発電システム通則	JISC8801:2009に準拠	
S-048005						75kW超 150kW以下			-	●	48											
S-048006						150kW超			-	-	-											
S-048007							50Hz 燃料ガスの種類：都市ガス	発電出力	75kW以下	-	-	Oriented	-	%	総合効率	標準規格による評価	JISC8801:2009	りん酸形燃料電池発電システム通則	JISC8801:2009に準拠	JISC8801:2009	りん酸形燃料電池発電システム通則	JISC8801:2009に準拠
S-048008			75kW超 150kW以下	-	●	Oriented			91													
S-048009			150kW超	-	-	Oriented			-													
S-048010				50Hz 燃料ガスの種類：都市ガス	発電出力	75kW以下	-	-	Oriented	-	%	発電効率	標準規格による評価	JISC8801:2009	りん酸形燃料電池発電システム通則	JISC8801:2009に準拠	JISC8801:2009	りん酸形燃料電池発電システム通則	JISC8801:2009に準拠			
S-048011			75kW超 150kW以下			-	●	Oriented	42													
S-048012			150kW超			-	-	Oriented	-													

水準表 クラスNo.	区分		概要	クラス			トップ ランナー 制度 規定	認証対象	LD-Tech 水準	指標												
	技術分類	設備・機器等		原理・しくみ	条件	能力 (名称)				能力 (単位)	測定単位		計算方法			試験条件						
			単位								名称	評価方法の タイプ	準拠する 規格	規格の 名称	計算式	準拠する 規格	規格の 名称	説明				
S-048013	コージェネ レーション	燃料電池コージェネ レーション	ガスを燃料とし、燃料電池方式により発電し、その際に生じる廃熱を同時回収する熱電供給システム。廃熱で発生する蒸気や温水は、製造業のプロセス利用や、施設の空調・給湯などに幅広く使用される。	50Hz 燃料ガスの種類：バイオガス	発電出力	75kW以下	-	-	-	%	総合効率	標準規格による評価	JISC8801:2009	りん酸形燃料電池発電システム通則	JISC8801:2009に準拠	JISC8801:2009	りん酸形燃料電池発電システム通則	JISC8801:2009に準拠				
75kW超 150kW以下						-	●	84														
150kW超						-	-	-														
S-048014																						
S-048015																						
S-048016							50Hz 燃料ガスの種類：バイオガス	発電出力	75kW以下	-	-	-	%	発電効率	標準規格による評価	JISC8801:2009	りん酸形燃料電池発電システム通則	JISC8801:2009に準拠	JISC8801:2009	りん酸形燃料電池発電システム通則	JISC8801:2009に準拠	
S-048017				75kW超 150kW以下	-	●			40													
S-048018				150kW超	-	-			-													
S-048019							60Hz 燃料ガスの種類：純水素	発電出力	75kW以下	-	-	-	%	総合効率	標準規格による評価	JISC8801:2009	りん酸形燃料電池発電システム通則	JISC8801:2009に準拠	JISC8801:2009	りん酸形燃料電池発電システム通則	JISC8801:2009に準拠	
S-048020				75kW超 150kW以下	-	●			93													
S-048021				150kW超	-	-			-													
S-048022							60Hz 燃料ガスの種類：純水素	発電出力	75kW以下	-	-	-	%	発電効率	標準規格による評価	JISC8801:2009	りん酸形燃料電池発電システム通則	JISC8801:2009に準拠	JISC8801:2009	りん酸形燃料電池発電システム通則	JISC8801:2009に準拠	
S-048023	75kW超 150kW以下	-	●	48																		
S-048024	150kW超	-	-	-																		

水準表 クラスNo.	区分			クラス			トップ ランナー 制度 規定	認証対象	LD-Tech 水準	指標											
	技術分類	設備・機器等	原理・しくみ	条件	能力 (名称)	能力 (単位)				測定単位		計算方法			試験条件						
										単位	名称	評価方法の タイプ	準拠する 規格	規格の 名称	計算式	準拠する 規格	規格の 名称	説明			
S-048025	コージェネ レーション	燃料電池コージェネ レーション	ガスを燃料とし、燃料電池方式により発電し、その際に生じる廃熱を同時回収する熱電供給システム。廃熱で発生する蒸気や温水は、製造業のプロセス利用や、施設の空調・給湯などに幅広く使用される。	60Hz 燃料ガスの種類：都市ガス	発電出力	75kW以下	-	-	Oriented	-	%	総合効率	標準規格による評価	JISC8801:2009	りん酸形燃料電池発電システム通則	JISC8801:2009に準拠	JISC8801:2009	りん酸形燃料電池発電システム通則	JISC8801:2009に準拠		
S-048026						75kW超 150kW以下	-	●	Oriented	91											
S-048027						150kW超	-	-	Oriented	-											
S-048028				60Hz 燃料ガスの種類：都市ガス	発電出力	75kW以下	-	-	Oriented	-	%	発電効率	標準規格による評価	JISC8801:2009	りん酸形燃料電池発電システム通則	JISC8801:2009に準拠	JISC8801:2009	りん酸形燃料電池発電システム通則	JISC8801:2009に準拠		
S-048029							75kW超 150kW以下	-	●	Oriented	42										
S-048030							150kW超	-	-	Oriented	-										
S-048031				60Hz 燃料ガスの種類：バイオガス	発電出力	75kW以下	-	-	-	-	%	総合効率	標準規格による評価	JISC8801:2009	りん酸形燃料電池発電システム通則	JISC8801:2009に準拠	JISC8801:2009	りん酸形燃料電池発電システム通則	JISC8801:2009に準拠		
S-048032							75kW超 150kW以下	-	●	-	84										
S-048033							150kW超	-	-	-	-										
S-048034				60Hz 燃料ガスの種類：バイオガス	発電出力	75kW以下	-	-	-	-	%	発電効率	標準規格による評価	JISC8801:2009	りん酸形燃料電池発電システム通則	JISC8801:2009に準拠	JISC8801:2009	りん酸形燃料電池発電システム通則	JISC8801:2009に準拠		
S-048035							-	-	●	-	40										
S-048036							-	-	-	-	-										

水準表 クラスNo.	概要			クラス			トップ ランナー 制度 規定	認証対象	LD-Tech 水準	指標									
	区分 技術分類	設備・機器等	原理・しくみ	条件	能力 (名称)	能力 (単位)				測定単位		計算方法			試験条件				
										単位	名称	評価方法の タイプ	準拠する 規格	規格の 名称	計算式	準拠する 規格	規格の 名称	説明	
S-052037	冷凍冷蔵機 器	業務用冷凍冷蔵 庫	レストランの厨房やスーパーマーケットの バックヤード等に使用される冷凍冷蔵庫 を指す。家庭用と比較し、急速な冷却機 能と高い断熱性能が求められる。	-	-	-	■	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
S-053001	冷凍冷蔵機 器	空気冷媒方式冷 凍機	空気の断熱膨張における温度低下によ り、マイナス50～100℃の空気を得る冷 凍機。	庫容量（有 効容積） 1300m3 規模	-	-	-	●	0.42	*	-	成績係数 (COP)	標準条件に よる評価	-	-	COP=Φ/P、COP:成績係 数、Φ:定格能力[W]、P:定 格消費エネルギー[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあ たっては、庫内温度を次のと り設定することを条件とする。 なお、附属する機器動力も加 味した定格消費エネルギーを 用いる。庫内温度：-60℃
S-053002				庫容量（有 効容積） 2600m3 規模	-	-	-	●	0.4	*	-								
S-054001	冷凍冷蔵機 器	冷凍冷蔵倉庫用 自然冷媒冷凍機 (アンモニア/CO2 二次冷媒システ ム)	アンモニアを一次冷媒、二酸化炭素を二 次冷媒（マイナス5～マイナス40℃程 度）とし、それを庫内に循環させる冷凍 機。	庫内温度- 20℃超 10℃以下、 CO2温度： -17℃超- 5℃以下、 冷却水入り 口温度： 32℃	冷凍能力	100kW以 下	-	-	-	-	-	成績係数 (COP)	標準条件に よる評価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係 数、Φ:定格能力[W] P:定格消 費エネルギー [W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあ たっては、凝縮温度、CO2温 度をそれぞれ以下のとおり設定 することを条件とする。CO2 温度：-17℃超-5℃以下、 冷却水入り口温度：32℃
S-054002						100kW超 200kW以 下	-	●	3.15	*									
S-054003						200kW超	-	●	3.41	*									



水準表 クラスNo.	区分			クラス			トップ ランナー 制度 規定	認証対象	LD-Tech 水準	指標										
	技術分類	設備・機器等	概要 原理・しくみ	条件	能力 (名称)	能力 (単位)				測定単位		計算方法			試験条件					
										単位	名称	評価方法の タイプ	準拠する 規格	規格の 名称	計算式	準拠する 規格	規格の 名称	説明		
S-054004	冷凍冷蔵機 器	冷凍冷蔵倉庫用 自然冷媒冷凍機 (アンモニア/CO2 二次冷媒システ ム)	アンモニアを一次冷媒、二酸化炭素を二 次冷媒（マイナス5～マイナス40℃程 度）とし、それを庫内に循環させる冷凍 機。	庫内温度： -20℃超 10℃以下、 CO2温度： -17℃超- 5℃以下、 冷却水入り 口温度： 30℃	冷凍能力	50kW以下	-	●	2.7	*	-	成績係数 (COP)	標準条件に よる評価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消 費エネルギー [W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあ たっては、CO2温度、冷却水 入口温度をそれぞれ以下のと り設定することを条件とす る。CO2温度：-17℃超- 5℃以下、冷却水入り口温 度：30℃	
S-054005				50kW超		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
S-054006				庫内温度： -20℃超 10℃以下、 CO2温度： -17℃超- 5℃以下、 吸込空気温 度：32℃	冷凍能力	50kW以下	-	●	1.8	*	-	成績係数 (COP)	標準条件に よる評価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消 費エネルギー [W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあ たっては、CO2温度、吸込空 気温度をそれぞれ以下のと り設定することを条件とす る。CO2温度：-17℃超-5℃以 下、吸込空気温度：32℃	
S-054007				50kW超		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
S-054008				庫内温度- 40℃超- 20℃以下		50kW以下	-	●	2.04	*	-	成績係数 (COP)	標準条件に よる評価	-	-	COP=Φ/P、COP:成績係 数、Φ:定格能力[W]、P:定 格消費エネルギー[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあ たっては、CO2温度、冷却水 入り口温度をそれぞれ次のと り設定することを条件とする。 CO2温度：-37℃超-27℃ 以下、冷却水入り口温度： 32℃	
S-054009				50kW超 150kW以 下	-	●	2.52	*	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
S-054010				150kW超 250kW以 下	-	○	2.32	*	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
S-054011	250kW超	-	●	2.52	*	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			

水準表 クラスNo.	区分		概要		クラス			トップ ランナー 制度 規定	認証対象	LD-Tech 水準	指標											
	技術分類	設備・機器等	原理・しくみ	条件	能力 (名称)	能力 (単位)	測定単位				計算方法			試験条件								
							単位				名称	評価方法の タイプ	準拠する 規格	規格の 名称	計算式	準拠する 規格	規格の 名称	説明				
S-055001	冷凍冷蔵機 器	自然冷媒冷凍冷蔵 コンデンシングユニ ット	フロン冷媒により駆動する、従来のコンデ ンシングユニットに対して、CO2等の自然 冷媒により駆動するコンデンシングユニ ット。	中温用（吸 込み圧力飽 和温度- 10℃）、吸 込ガス過熱 度10K、周 囲温度 32℃	冷凍能力	16.0kW以 下	-	●	2.02	-	成績係数 (COP)	標準規格に よる評価	JRA4019 : 2014	コンデンシ ングユニ ット	COP=Φ/P、COP:成績係 数、Φ:定格能力[W]、P:定 格消費電力 [W]	JRA4019 : 2014	コンデンシ ングユニ ット	JRA4019 : 2014に準拠				
S-055002						16.0kW超 24.0kW以 下	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
S-055003						24.0kW超 36.0kW以 下	-	●	1.84	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
S-055027						36.0kW超 50.0kW以 下	-	○	1.85	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
S-055028						50.0kW超 100.0kW 以下	-	○	1.95	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
S-055029						100.0kW 超	-	●	1.91	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
S-055005	冷凍冷蔵機 器	自然冷媒冷凍冷蔵 コンデンシングユニ ット	フロン冷媒により駆動する、従来のコンデ ンシングユニットに対して、CO2等の自然 冷媒により駆動するコンデンシングユニ ット。	低温用（吸 込み圧力飽 和温度- 40℃）、吸 込ガス過熱 度10K 周 囲温度 32℃	冷凍能力	8.0kW以 下	-	●	1.01	-	成績係数 (COP)	標準規格に よる評価	JRA4019 : 2014	コンデンシ ングユニ ット	COP=Φ/P、COP:成績係 数、Φ:定格能力[W]、P:定 格消費電力 [W]	JRA4019 : 2014	コンデンシ ングユニ ット	JRA4019 : 2014に準拠				
S-055006						8.0kW超 12.0kW以 下	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
S-055007						12.0kW超 18.0kW以 下	-	●	0.95	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

水準表 クラスNo.	区分			クラス			トップ ランナー 制度 規定	認証対象	LD-Tech 水準	指標												
	技術分類	設備・機器等	概要 原理・しくみ	条件	能力 (名称)	能力 (単位)				測定単位		計算方法			試験条件							
										単位	名称	評価方法の タイプ	準拠する 規格	規格の 名称	計算式	準拠する 規格	規格の 名称	説明				
S-055031	冷凍冷蔵機 器	自然冷媒冷凍冷蔵 コンデンシングユニ ット	フロン冷媒により駆動する、従来のコンデ ンシングユニットに対して、CO2等の自然 冷媒により駆動するコンデンシングユニ ット。	低温用（吸 込み圧力飽 和温度- 40℃）、吸 込ガス過熱 度10K 周 囲温度 32℃	冷凍能力	18.0kW超 36.0kW以 下	-	○	1.15	-	成績係数 (COP)	標準規格に よる評価	JRA4019 : 2014	コンデンシ ングユニ ット	COP=Φ/P、COP:成績係 数、Φ:定格能力[W]、P:定 格消費電力 [W]	JRA4019 : 2014	コンデンシ ングユニ ット	JRA4019 : 2014に準拠				
S-055032						36.0kW超 50.0kW以 下	-	○	1.15													
S-055033						50.0kW超 100.0kW 以下	-	○	1.2													
S-055034						100.0kW 超	-	○	1.13													
S-055009				中温用（吸 込み圧力飽 和温度- 10℃）、吸 込ガス温度 18℃、空冷 式の凝縮 器、凝縮器 に流入空気 温度32℃、 周囲温度 32℃	冷凍能力	8.0kW以 下	-	●	2.1	-	成績係数 (COP)	標準規格に よる評価	JRA 4019:201 4	コンデンシ ングユニ ット	COP=Φ/P、COP:成績係 数、Φ:定格能力[W]、P:定 格消費電力 [W]	JRA4019 : 2014	コンデンシ ングユニ ット	JRA4019 : 2014に準拠				
S-055010						8.0kW超 16.0kW以 下	-	●	1.77													
S-055011						16.0kW超 24.0kW以 下	-	●	1.68													
S-055012						24.0kW超 36.0kW以 下	-	●	1.77													
S-055035						36.0kW超 50.0kW以 下	-	○	1.78													

水準表 クラスNo.	区分			クラス			トップ ランナー 制度 規定	認証対象	LD-Tech 水準	指標									
	技術分類	設備・機器等	概要 原理・しくみ	条件	能力 (名称)	能力 (単位)				測定単位		計算方法			試験条件				
										単位	名称	評価方法の タイプ	準拠する 規格	規格の 名称	計算式	準拠する 規格	規格の 名称	説明	
S-055036	冷凍冷蔵機	自然冷媒冷凍冷蔵 コンデンシングユニ ット	フロン冷媒により駆動する、従来のコン デンシングユニットに対して、CO2等の自然 冷媒により駆動するコンデンシングユニ ット。	中温用（吸 込み圧力飽 和温度- 10℃）、吸 込ガス温度 18℃、空冷 式の凝縮 器、凝縮器 に流入空気 温度32℃、 周囲温度 32℃	冷凍能力	50.0kW超	-	○	1.76	-	成績係数 (COP)	標準規格に よる評価	JRA 4019:201 4	コンデンシ ングユニ ット	COP=Φ/P、COP:成績係 数、Φ:定格能力[W]、P:定 格消費電力 [W]	JRA4019 :2014	コンデンシ ングユニ ット	JRA4019 : 2014に準拠	
S-055014				低温用（吸 込み圧力飽 和温度- 40℃）、吸 込ガス温度 18℃、空冷 式の凝縮 器、凝縮器 に流入空気 温度32℃、 周囲温度 32℃	冷凍能力	4.0kW以 下	-	●	0.94	-	成績係数 (COP)	標準規格に よる評価	JRA 4019:201 4	コンデンシ ングユニ ット	COP=Φ/P、COP:成績係 数、Φ:定格能力[W]、P:定 格消費電力 [W]	JRA4019 :2014	コンデンシ ングユニ ット	JRA4019 : 2014に準拠	
S-055015						4.0kW超 8.0kW以 下	-	●	0.91										
S-055016						8.0kW超 12.0kW以 下	-	●	0.85										
S-055017						12.0kW超 18.0kW以 下	-	●	0.91										
S-055037						18.0kW超 24.0kW以 下	-	○	0.93										
S-055038						24.0 kW 超	-	○	0.92										

水準表 クラスNo.	区分			クラス			トップ ランナー 制度 規定	認証対象	LD-Tech 水準	指標												
	技術分類	設備・機器等	概要 原理・しくみ	条件	能力 (名称)	能力 (単位)				測定単位		計算方法			試験条件							
										単位	名称	評価方法の タイプ	準拠する 規格	規格の 名称	計算式	準拠する 規格	規格の 名称	説明				
S-055019	冷凍冷蔵機 器	自然冷媒冷凍冷蔵 コンデンシングユニ ット	フロン冷媒により駆動する、従来のコンデ ンシングユニットに対して、CO2等の自然 冷媒により駆動するコンデンシングユニ ット。	中温用（吸 込み圧力飽 和温度- 10℃）、吸 込ガス温度 18℃、水冷 式の凝縮 器、凝縮器 の冷却水温 度32℃、周 囲温度 32℃	冷凍能力	16.0kW以 下	-	-	-	-	成績係数 (COP)	標準規格に よる評価	JRA4019: 2014	コンデンシ ングユニ ット	COP=Φ/P、COP:成績係 数、Φ:定格能力[W]、P:定 格消費電力 [W]	JRA4019: 2014	コンデンシ ングユニ ット	JRA4019 : 2014に準拠				
S-055020						16.0kW超 24.0kW以 下	-	-	-													
S-055021						24.0kW超 36.0kW以 下	-	○	2													
S-055022						36.0kW超	-	-	-													
S-055023				低温用（吸 込み圧力飽 和温度- 40℃）、吸 込ガス温度 18℃、水冷 式の凝縮 器、凝縮器 の冷却水温 度32℃、周 囲温度 32℃	冷凍能力	8.0kW以 下	-	-	-	-	成績係数 (COP)	標準規格に よる評価	JRA4019: 2014	コンデンシ ングユニ ット	COP=Φ/P、COP:成績係 数、Φ:定格能力[W]、P:定 格消費電力 [W]	JRA4019: 2014	コンデンシ ングユニ ット	JRA4019 : 2014に準拠				
S-055024						8.0kW超 12.0kW以 下	-	-	-													
S-055025						12.0kW超 18.0kW以 下	-	○	0.94													
S-055026						18.0kW超	-	-	-													

水準表 クラスNo.	概要			クラス			トップ ランナー 制度 規定	認証対象	LD-Tech 水準	指標								
	区分 技術分類	設備・機器等	原理・しくみ	条件	能力 (名称)	能力 (単位)				測定単位		評価方法の タイプ	計算方法			試験条件		
										単位	名称		準拠する 規格	規格の 名称	計算式	準拠する 規格	規格の 名称	説明
S-049027	照明器具	LED照明器具	発光ダイオード(LED)を光源に使用した照明器具。ただし、電気用品安全法の下でのPSEマークが付与されている製品に限る。	-	-	-	■	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
S-056028	プリンタ/複写機	プリンタ	プリンタの印字方式の主流は、インクジェット方式と電子写真方式であるが、オフィスで主に利用されているものは印刷速度の速い、電子写真方式である。電子写真方式の印刷工程は、帯電、露光、現像、転写、定着、清掃の6工程であり、複写機と同様である。露光部分にLED（発光ダイオード）を用いたLEDプリンタもある。	-	-	-	■	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
S-057029							■	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
S-058030	モータ	誘導モータ	回転子、固定子ともに金属を使用し、固定子に交流電流を流して回転磁界を発生させるとともに、回転子にも誘導電流が流れて磁界が生ずることにより、回転力を得るモータ。産業機械・工作機械等に幅広く用いられる。鉄芯、巻線、冷却ファン等の改善により損失を低減し高効率化が図られている。	-	-	-	■	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
S-059001	モータ	永久磁石同期モータ	回転子に永久磁石を使用した同期モータのうち、サーボモータを含まないもの。鉄道車両・自動車・産業機械等、幅広く用いられる。	-	容量	0.75kW以下	-	○	92.3	%	エネルギー消費効率	標準規格による評価	JISC4034-2-1:2011	回転電気機械-第2-1部：単一速度三相かご形誘導電動機の損失及び効率の算定方法	JISC4034-2-1:2011に準拠	JISC4034-2-1:2011	回転電気機械-第2-1部：単一速度三相かご形誘導電動機の損失及び効率の算定方法	JISC4034-2-1:2011に準拠
S-059002						0.75kW超 1.5kW以下	-	●	90.4									
S-059003						1.5kW超 2.2kW以下	-	●	92.5									

水準表 クラスNo.	区分		概要		クラス			トップ ランナー 制度 規定	認証対象	LD-Tech 水準	指標							
	技術分類	設備・機器等	原理・しくみ	条件	能力 (名称)	能力 (単位)	測定単位				計算方法			試験条件				
							単位				名称	評価方法の タイプ	準拠する 規格	規格の 名称	計算式	準拠する 規格	規格の 名称	説明
S-059004	モータ	永久磁石同期モータ	回転子に永久磁石を使用した同期モータのうち、サーボモータを含まないもの。鉄道車両・自動車・産業機械等、幅広く用いられる。	-	容量	2.2kW超 3.7kW以下	-	○	95.3	%	エネルギー消費効率	標準規格による評価	JISC4034-2-1:2011	回転電気機械-第2-1部:単一速度三相かご形誘導電動機の損失及び効率の算定方法	JISC4034-2-1:2011に準拠	JISC4034-2-1:2011	回転電気機械-第2-1部:単一速度三相かご形誘導電動機の損失及び効率の算定方法	JISC4034-2-1:2011に準拠
S-059005						3.7kW超 5.5kW以下	-	○	94.3									
S-059006						5.5kW超 7.5kW以下	-	○	94.8									
S-059007						7.5kW超 11kW以下	-	○	94.3									
S-059008						11kW超 15kW以下	-	○	95									
S-059009						15kW超 18.5kW以下	-	○	94.9									
S-059010						18.5kW超 22kW以下	-	○	96.2									
S-059011						22kW超 30kW以下	-	○	96.3									
S-059012						30kW超 37kW以下	-	○	95.6									
S-059013						37kW超 45kW以下	-	○	95.9									
S-059014						45kW超 55kW以下	-	○	96.1									
S-059015						55kW超 75kW以下	-	○	97.4									

水準表 クラスNo.	概要			クラス			トップ ランナー 制度 規定	認証対象	LD-Tech 水準	指標								
	区分 技術分類	設備・機器等	原理・しくみ	条件	能力 (名称)	能力 (単位)				測定単位		計算方法			試験条件			
										単位	名称	評価方法の タイプ	準拠する 規格	規格の 名称	計算式	準拠する 規格	規格の 名称	説明
S-059016	モータ	永久磁石同期モータ	回転子に永久磁石を使用した同期モータのうち、サーボモータを含まないもの。鉄道車両・自動車・産業機械等、幅広く用いられる。	-	容量	75kW超 90kW以下	-	●	96.2	%	エネルギー消費効率	標準規格による評価	JISC4034-2-1:2011	回転電気機械-第2-1部：単一速度三相かご形誘導電動機の損失及び効率の算定方法	JISC4034-2-1:2011に準拠	JISC4034-2-1:2011	回転電気機械-第2-1部：単一速度三相かご形誘導電動機の損失及び効率の算定方法	JISC4034-2-1:2011に準拠
S-059017						90kW超 110kW以下	-	●	97.4									
S-059018						110kW超 132kW以下	-	●	97.4									
S-059019						132kW超 160kW以下	-	●	97.6									
S-059020						160kW超	-	-	-									
S-060001	変圧器	油入変圧器	電磁誘導を利用し、用途に応じて交流電圧を昇降させる装置。低損失磁性体材料を使用する低損失構造とする等、損失を低減する工夫がなされている。クラフト紙、プレスボード等の絶縁物と絶縁油にて構成されている。	-	-	-	■	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
S-061001	変圧器	モールド変圧器	電磁誘導を利用し、用途に応じて交流電圧を昇降させる装置。低損失磁性体材料を使用する低損失構造とする等、損失を低減する工夫がなされている。耐熱絶縁電線のコイルを構成し、エポキシ樹脂でモールドされている。	-	-	-	■	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
S-070001	モータ利用 機器（圧縮機）	蒸気駆動圧縮機	従来の電動コンプレッサと異なり、動力源として電動モータではなく、スチームモータを搭載する。スチームモータは、蒸気を減圧する際に発生するエネルギーを駆動源とする圧縮機。従来の電動コンプレッサ（圧縮機）と比較し、減圧エネルギーを有効利用できるためCO2削減に優れる。ボイラ設備（ボイラ、軟水装置、給水タンク）の蒸気配管減圧弁に並列して設置し、本商品を減圧弁の代替として利用する。	-	容量、消費蒸気量	37kW、 79kg/h	-	●	6.95	%	消費蒸気原単位	標準条件による評価	-	-	$E=B/(A-C)$ 、E：消費蒸気原単位 [-]、A：消費蒸気量 [kW]、B：吐出空気量 [m <sup>3</sup> /min]、C：回収熱量 [kW]	JISB8341-2008	容積形圧縮機	JISB8341-2008に準拠。ただし、回収熱量については温水入口温度と温水出口温度を次のとおり設定することを条件とする。温水入口温度：15℃、温水出口温度：50℃以上、また、消費蒸気量はメーカー指示値（性能表等）を参照する。



水準表 クラスNo.	区分		概要	クラス			トップ ランナー 制度 規定	認証対象	LD-Tech 水準	指標									
	技術分類	設備・機器等		条件	能力 (名称)	能力 (単位)				測定単位		計算方法			試験条件				
										単位	名称	評価方法の タイプ	準拠する 規格	規格の 名称	計算式	準拠する 規格	規格の 名称	説明	
S-070002	モータ利用 機器（圧縮 機）	蒸気駆動圧縮機	従来の電動コンプレッサと異なり、動力源として電動モータではなく、スチームモータを搭載する。スチームモータは、蒸気を減圧する際に発生するエネルギーを駆動源とする圧縮機。従来の電動コンプレッサ（圧縮機）と比較し、減圧エネルギーを有効利用できるためCO2削減に優れる。ボイラ設備（ボイラ、軟水装置、給水タンク）の蒸気配管減圧弁に並列して設置し、本商品を減圧弁の代替として利用する。	-	容量、消費 蒸気量	55kW、 106kg/h	-	●	1.93	*	%	消費蒸気原 単位	標準条件に よる評価	-	-	E=B/ (A-C)、E：消費蒸 気原単位 [-]、A：消費蒸 気量 [kW]、B：吐出空気 量 [m3/min]、C：回収 熱量 [kW]	JISB8341 -2008	容積形圧縮 機	JISB8341-2008に準拠。た だし、回収熱量については温 水入口温度と温水出口温度 を次のとおり設定することを条 件とする。温水入口温度： 15℃、温水出口温度： 50℃以上、また、消費蒸気 量はメーカー指示値（性能表 等）を参照する。
S-070003				-	容量、消費 蒸気量	75kW、 178kg/h	-	○	2.18	*									
S-070004				高圧蒸気仕 様	容量、消費 蒸気量	75kW、 247kg/h	-	●	0.6	*	%	消費蒸気原 単位	標準条件に よる評価	-	-	E=B/ (A-C)、E：消費蒸 気原単位 [-]、A：消費蒸 気量 [kW]、B：吐出空気 量 [m3/min]、C：回収 熱量 [kW]	JISB8341 -2008	容積形圧縮 機	JISB8341-2008に準拠。た だし、回収熱量については温 水入口温度と温水出口温度 を次のとおり設定することを条 件とする。温水入口温度： 15℃、温水出口温度： 50℃以上、また、消費蒸気 量はメーカー指示値（性能表 等）を参照する。
S-071001	モータ利用 機器（圧縮 機）	熱回収式ねじ容積 形圧縮機	従来は、廃棄されていた圧縮熱を温水として供給可能なねじ容積形圧縮機。コンプレッサの廃熱を温水として回収するために軟水装置から新水を通して、70℃の温水をボイラ給水へ戻すことでボイラの燃料消費量が低減可能。また、直接温水利用することも可能。	給油式	容量、熱回 収量	37kW、 25kW	-	●	0.41	*	%	エネルギー原 単位	標準条件に よる評価	JISB8341 -2008	容積形圧縮 機	E=B/ (A-C)、E：エネル ギー原単位 [-]、A：軸動 力 [kW]、B：吐出空気 量 [m3/min]、C：回収熱 量 [kW]	JISB8341 -2008	容積形圧縮 機	JISB8341-2008に準拠。た だし、回収熱量については温 水入口温度と温水出口温度 を次のとおり設定することを条 件とする。温水入口温度： 15℃、温水出口温度： 50℃以上
S-071002						75kW、 60kW	-	●	0.88	*									
S-071003				オイルフリー 式	容量、熱回 収量	37kW、 25kW	-	●	0.41	*	%	エネルギー原 単位	標準条件に よる評価	JISB8341 -2008	容積形圧縮 機	E=B/ (A-C)、E：エネル ギー原単位 [-]、A：軸動 力 [kW]、B：吐出空気 量 [m3/min]、C：回収熱 量 [kW]	JISB8341 -2008	容積形圧縮 機	JISB8341-2008に準拠。た だし、回収熱量については温 水入口温度と温水出口温度 を次のとおり設定することを条 件とする。温水入口温度： 15℃、温水出口温度： 50℃以上
S-071004						75kW、 60kW	-	○	0.87	*									

水準表 クラスNo.	区 分			概 要			ク ラ ス			トッ ラン ナー 制 度 規 定	認 証 対 象	LD-Tech 水 準	指 標						
	技術分類	設備・機器等	原理・しくみ	条件	能力 (名称)	能力 (単位)	測定単位		計 算 方 法				試 験 条 件						
							単位	名称	評価方法の タイプ				準拠する 規格	規格の 名称	計算式	準拠する 規格	規格の 名称	説明	
S-073001	工業炉	リジネレイティブ バーナ	燃焼部(バーナ)2 基と蓄熱部2 基を一体構成し、バーナを交互燃焼し排熱回収を行うシステム。燃焼している方のバーナの排熱を他方のバーナの吸気経路にある蓄熱部に受熱させ予熱に用いるもの。最近ではバーナ部と蓄熱部を一体化しコンパクト化したコンパクト形リジネレイティブバーナ、小型炉向けにバーナ内に複数の蓄熱体と切替弁を内蔵させたり、回転式切換え機構を利用して1 台のバーナで蓄熱燃焼させるセルフリジネレイティブバーナ等、標準型以外のリジネレイティブバーナも開発されている。	ツインリジネ バーナ	-	-	-	○ Oriented	80	*	%	蓄熱体温度 効率	標準条件に よる評価	-	-	蓄熱体温度効率=(予熱空 気温度-外気温度)/(燃焼 排ガス温度-外気温度)× 100%	-	-	一般社団法人日本工業炉協 会「リジネレイティブバーナの性能 測定条件」に準拠
S-073002				(セム)セル フリジネ バーナ	-	-	-	○ Oriented	80	*	%	蓄熱体温度 効率	標準条件に よる評価	-	-	蓄熱体温度効率=(予熱空 気温度-外気温度)/(燃焼 排ガス温度-外気温度)× 100%	-	-	一般社団法人日本工業炉協 会「リジネレイティブバーナの性能 測定条件」に準拠
S-073003				ラジアントリ ジネバーナ	-	-	-	○ Oriented	90	*	%	蓄熱体温度 効率	標準条件に よる評価	-	-	蓄熱体温度効率=(予熱空 気温度-外気温度)/(燃焼 排ガス温度-外気温度)× 100%	-	-	一般社団法人日本工業炉協 会「リジネレイティブバーナの性能 測定条件」に準拠
S-079001	窓	Low-E複層ガラス	複層ガラスの中空層側のガラス面にLow-E金属膜をコーティングすることで放射による熱移動量を低減したガラス。断熱を行うことによって、より少ないエネルギーで空調を行うことができるようになる。	-	-	-	■	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
S-080001		三層Low-E複層ガラス	三層で構成される複層ガラスの中空層側のガラス面にLow-E金属膜をコーティングすることで放射による熱移動量を低減したガラス。断熱を行うことによって、より少ないエネルギーで空調を行うことができるようになる。	-	-	-	■	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

水準表 クラスNo.	区分		概要		クラス			トップ ランナー 制度 規定	認証対象	LD-Tech 水準	指標							
	技術分類	設備・機器等	原理・しくみ	条件	能力 (名称)	能力 (単位)	測定単位				評価方法の タイプ	計算方法			試験条件			
							単位					名称	準拠する 規格	規格の 名称	計算式	準拠する 規格	規格の 名称	説明
S-081001	窓	真空Low-E複層ガラス	真空ガラスとLow-Eガラスを組み合わせた複層ガラスにすることで、放射による熱移動量を低減したガラス。断熱を行うことによって、より少ないエネルギーで空調を行うことができるようになる。	-	-	-	■	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
S-082001		アタッチメント付き Low-E複層ガラス	複層ガラスの中空層側のガラス面にLow-E金属膜をコーティングすることで放射による熱移動量を低減したガラス。アタッチメントにより、ガラス部分のみを既存サッシに取り付けられるため、大がかりな工事を必要としない。断熱を行うことによって、より少ないエネルギーで空調を行うことができるようになる。	-	-	-	■	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
S-083001		真空ガラス	2枚のガラスの間に真空層を設けることで、熱移動量を低減したガラス。断熱を行うことによって、より少ないエネルギーで空調を行うことができるようになる。	-	-	-	■	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
S-084001		現場施工型後付け Low-E複層ガラス	既存の窓ガラスの上からLow-Eガラスを貼ることでLow-E複層ガラスとして放射による熱移動量を低減したガラス。断熱を行うことによって、より少ないエネルギーで空調を行うことができるようになる。	リフォーム用	-	-	-	○	1.6	W/m <sup>2</sup> K	熱貫流率	標準規格による評価	JISR3107:2019及び JISR3209:2018	板ガラス類の熱抵抗及び建築における熱貫流率の算定方法及び複層ガラス	JISR3107:2019及び JISR3209:2018に準拠	JISR3107:2019及び JISR3209:2018	板ガラス類の熱抵抗及び建築における熱貫流率の算定方法及び複層ガラス	JISR3107:2019及び JISR3209:2018に準拠。ただし、LD-Tech水準は、FL6+A12+LE5のガラス構成における数値を示す。
S-085001		薄型Low-E複層ガラス	複層ガラスの中空層側のガラス面にLow-E金属膜をコーティングすることで放射による熱移動量を低減したガラス。アタッチメントを使用せずにガラス部分のみを既存サッシに取り付けることができる。断熱を行うことによって、より少ないエネルギーで空調を行うことができるようになる。	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
S-088001	断熱材	真空断熱材	家庭用冷蔵庫の断熱材として使用されている真空断熱材を使用した断熱材。住宅だけではなく非住宅のリフォーム（内貼断熱工法）にも向く。	-	-	-	-	○	0.002 *	W/m・K	熱伝導率	標準規格による評価	JISA1412:2016	熱絶縁材の熱抵抗及び熱伝導率の測定方法	JISA1412:2016に準拠	JISA1412:2016	熱絶縁材の熱抵抗及び熱伝導率の測定方法	JISA1412:2016に準拠

水準表 クラスNo.	概要			クラス			トップ ランナー 制度 規定	認証対象	LD-Tech 水準	指標								
	区分 技術分類	設備・機器等	原理・しくみ	条件	能力 (名称)	能力 (単位)				測定単位		計算方法				試験条件		
										単位	名称	評価方法の タイプ	準拠する 規格	規格の 名称	計算式	準拠する 規格	規格の 名称	説明
S-099001	その他	低放射遮熱塗料	工業炉の炉壁からの放散熱は、電磁波の熱移動による放射熱（輻射熱）と空気の接触による対流熱を足した値となる。本塗料を炉壁面に5～15μm程度被覆することで、炉壁からの放射熱を大幅な削減が可能となり、消費エネルギーによるCO2排出量削減効果をもたらす。	-	-	-	-	○	0.15	-	放射率	標準規格による評価	JIS A 1423:2017	赤外線放射温度計による放射率の簡易測定方法	es=eb(θs24-θs14)/(θb24-θb14) es：垂直放射率 eb：黒色つや消し塗料の放射率 θs1：試料加熱前の赤外線放射温度計による試料の表面温度 θb1：試料加熱前の赤外線放射温度計による黒色塗装(ε=0.94以上)した部分の表面温度 θs2：試料加熱後の赤外線放射温度計による試料の表面温度 θb2：試料加熱後の赤外線放射温度計による黒色塗装(ε=0.94以上)した部分の表面温度	JIS A 1423:2017	赤外線放射温度計による放射率の簡易測定方法	JISA1423:2017に準拠
S-104001	その他	蒸気リサイクル型濃縮乾燥装置	濃縮乾燥プロセスにおいて、被処理物から蒸発した蒸気は従来大気に捨てられていたが、この蒸気を圧縮機で昇温昇圧し、被処理物の加熱源として再利用することにより、投入する化石燃料起因の蒸気量を大幅低減し、CO2排出量削減に繋げる装置。	純水：沸点100℃（大気圧下）	蒸発能力	150L/h	-	●	1.82	*	成績係数（COP）	実績値による評価	-	-	sysCOP = Cst×M / (Cst×S/η + Ce×E) Cst：水蒸気の100℃における全熱エンタルピーと25℃における顕熱エンタルピーの差 (=,2571kJ/kg) M：被処理物から蒸発させた蒸気量[kg] S：ボイラー蒸気量[kg] η：熱損失(蒸気熱量/燃料熱量) Ce：換算係数 3.6MJ/kWh E：電力消費量[kWh]	-	-	・本装置は水蒸気と電力を入力として被処理物を蒸留して濃縮・乾燥する装置であり、下記の試験で得たエネルギーのインプット（熱量換算）でアウトプット（蒸発蒸気の熱量）を除いて得た値（システムCOP）。・最終処分場性能指針に基づき、模擬浸出水の濃縮・乾燥を1m3/日以上、60日以上行った際のデータに基づいて評価。・電源の周波数は50Hzとする。・ボイラーはA重油炊きとする。
S-104002						300L/h	-	●	1.65	*								
S-104003						750L/h	-	●	1.79	*								

水準表 クラスNo.	概要			クラス			トップ ランナー 制度 規定	認証対象	LD-Tech 水準	指標								
	区分 技術分類	設備・機器等	原理・しくみ	条件	能力 (名称)	能力 (単位)				測定単位		計算方法			試験条件			
										単位	名称	評価方法の タイプ	準拠する 規格	規格の 名称	計算式	準拠する 規格	規格の 名称	説明
S-103001	その他	業務用ヒートポンプ式衣類洗濯乾燥機	洗濯機と乾燥機からなる。乾燥機部に排熱回収ヒートポンプシステムを搭載し、エバポレータにて衣類乾燥後の湿った空気から集めた熱エネルギーを圧縮機で高温にする。高温の空気をガスクーラで110℃前後の（または「最大115℃のJ」）温風熱として放出することで衣類を乾かす。従来ガス式と比較して、効率的に熱回収が可能な排熱回収ヒートポンプシステムを採用することで、効率よく乾燥できる。導入先として、福祉施設、病院、等、幅広い施設が挙げられる。	-	乾燥能力 (JIMS規格)	9kg以上	-	○	9.4	kWh/回	消費電力量	標準条件による評価	JIS C 9606及びJIS C 9608	電気洗濯機、回転ドラム式電気衣類乾燥機	JIS C 9606及びJIS C 9608に準拠。ただし、洗濯乾燥1回あたりの電力消費量は、試験（4回以上）によって得られた値の平均値とする。	JIS C 9606及びJIS C 9608	電気洗濯機、回転ドラム式電気衣類乾燥機	JIS C 9606及びJIS C 9608に準拠。ただし、処理物、処理条件は以下の通りとする。<処理物> 被洗濯物：JIMS規格による標準洗濯乾燥容量の綿100%/バスタオル<処理条件> 定格電圧：三相交流200V 被洗濯物あたり水量：5.0L/kg以上 被洗濯物あたり洗濯時間：洗濯、すすぎ、脱水工程で各0.5min/kg以上 被洗濯物あたり乾燥時間：4.0min/kg以下 回転速度：設定できる最速の設定（乾燥工程はメーカー推奨の回転速度） 乾燥度（洗濯乾燥後）：97%以上 試験回数：4回以上
S-262001	その他	熱回収式スクロール形圧縮機	従来廃棄される圧縮熱を温水として供給可能な熱回収式圧縮機のうち、圧縮方式がスクロール形のもの。コンプレッサの廃熱を温水として回収するために、軟水装置から新水を通わせ、温水をボイラ給水へ戻すことでボイラの燃料消費量が低減可能。また、直接温水を利用することも可能。	オイルフリー式	容量、熱回収量	15kW、14kW	-	○	-20.55	*(m3/min)/kW	エネルギー原単位	標準規格による評価	JISB8341-2008	容積形圧縮機	E=B/(A-C) E：エネルギー原単位 [-]、 A：軸動力 [kW]、B：吐出空気量 [m3/min]、 C：回収熱量 [kW]	JISB8341-2008	容積形圧縮機	JISB8341-2008に準ずる。ただし、回収熱量については温水入口温度と温水出口温度を次のとおり設定することを条件とする。 温水入口温度：15℃ 温水出口温度：50℃以上
S-092001	エネルギーマネジメントシステム	BEMS（制御サーバ・空調・熱源・中央方式）	オフィスビルにおけるエネルギー管理システム、及び同システムを用いたサービスのうち、セントラル空調を対象とした制御サービス。	空気熱源仕様	-	-	-	●	別紙参照	*	-	-	具備機能による評価	-	-	-	-	-
S-092002				水熱源仕様	-	-	-	●	別紙参照	*	-	-	具備機能による評価	-	-	-	-	-

水準表 クラスNo.	区分 技術分類	概要		クラス			トップ ランナー 制度 規定	認証対象	LD-Tech 水準	指標									
		設備・機器等	原理・しくみ	条件	能力 (名称)	能力 (単位)				測定単位		評価方法の タイプ	計算方法			試験条件			
										単位	名称		準拠する 規格	規格の 名称	計算式	準拠する 規格	規格の 名称	説明	
S-096001	その他	二流体加湿器	水と圧縮空気の2種類の流体をノズルから噴射し、平均粒子径10μm前後に微細化した水粒子を空气中に噴射して加湿する機器。コンプレッサにより電気で作った圧縮空気で噴霧して蒸発気化させるため、沸騰で気化させる蒸気加湿に比べて加湿エネルギーが低減できる。	平均粒子径 7.5μm、加 湿量 100kg/h	-	-	-	○	13.3	*	NL/min	体積流量	標準条件による評価	-	-	試験条件によって計測した空気流量V0 (L/min) は、空気温度T0 (℃)、空気圧力P0 (MPa) の状態での値であるため、学術的な基準状態であるV1 (NL/min) を、温度0 (℃)、相対湿度(0%)、標準大気圧時(圧力1気圧 = 0.1013MPa) の値に、ボイル・シャルルの法則を用いて換算する。なお、換算式は、 $V1 = V0 \times (273 / (273 + T0)) \times ((0.1013 + P0) / 0.1013)$ とする。 次に、噴霧水量Q0 (L/min) に対して、代表点として、有効加湿量10kg/hに必要な噴霧水量Q2 (L/min) を求め、そのときの必要空気流量V2 (NL/min) を式から換算する。なお、換算式は、 $V2 = V1 \times (Q2/Q0)$ とする。	-	-	工場に設置されたエアコンプレッサから高圧 (0.6MPa程度)、かつ乾燥空気 (相対湿度0%) が供給され、二流体加湿器のミストノズルに必要な圧力まで減圧された流入空気に対し、ミストノズルの1次側において、空気温度T0 (℃)、空気圧力P0 (MPa)、空気流量V0 (L/min) を超音波流量計によって体積流量を計測する。なお、P0はゲージ圧を計測する。 ミストノズルは、同じザウター平均粒子径のミストを噴霧する場合でも、ノズルごとに使用する空気圧は異なるため、空気圧力P0 (MPa) のとき、ザウター平均粒子径10μmを噴霧することを条件とし、供給する水の流量として、噴霧水量Q0 (L/min) を計測する。最後に、体積流量=エア消費量×(エア噴霧量/加湿量)で体積流量を求める。
S-096002			水と圧縮空気の2種類の流体をノズルから噴射し、平均粒子径10μm前後に微細化した水粒子を空气中に噴射して加湿する機器。コンプレッサにより電気で作った圧縮空気で噴霧して蒸発気化させるため、沸騰で気化させる蒸気加湿に比べて加湿エネルギーが低減できる。	平均粒子径 10μm、加 湿量 100kg/h	-	-	-	○	11.2	*	NL/min	体積流量	標準条件による評価	-	-				
S-101001	その他	サーバ用電子計算機	ネットワーク上でサービス等を提供する24時間稼働することを前提として設計された電子計算機であって、専らネットワークを介してアクセスされる。サーバ型電子気鋭産機に搭載されているCPUは専用CISC、RISC、IA64、IA32の4つに分類され、IA64、IA32といった汎用CPUはエネルギー消費効率が高い。	-	-	-	■	-	-	-	-	-	-	-	-	-			

水準表 クラスNo.	区分			クラス			トップ ランナー 制度 規定	認証対象	LD-Tech 水準	指標								
	技術分類	設備・機器等	概要 原理・しくみ	条件	能力 (名称)	能力 (単位)				測定単位		計算方法			試験条件			
										単位	名称	評価方法の タイプ	準拠する 規格	規格の 名称	計算式	準拠する 規格	規格の 名称	説明
S-107001	その他	農業等暖房用温水発生機	燃焼室、伝熱面から構成され、燃焼によって温められた温水を循環ポンプで栽培用温室内等のパイプに送り、空気と熱交換させ、暖房として利用する。	LPG焚き、50Hz	熱出力	233kW未満	-	-	-	%	熱効率	標準規格による評価	JISB8418:2000またはHA010:2015	無圧式温水発生機	JISB8418:2000またはHA010:2015に準拠	JISB8418:2000またはHA010:2015	無圧式温水発生機	JISB8418:2000またはHA010:2015に準拠
S-107002				LPG焚き、50Hz	熱出力	233kW以上465kW未満	-	-	-									
S-107003						465kW以上697kW未満	-	-	-									
S-107004						697kW以上930kW未満	-	-	-									
S-107005						930kW以上1163kW未満	-	-	-									
S-107006						1163kW以上1395kW未満	-	○	95	*								
S-107007						1395kW以上	-	-	-									
S-107008				都市ガス13A焚き、50Hz	熱出力	233kW未満	-	-	-									
S-107009						233kW以上465kW未満	-	-	-									
S-107010						465kW以上697kW未満	-	-	-									

水準表 クラスNo.	区分			概要			クラス			トップ ランナー 制度 規定	認証対象	LD-Tech 水準	指標									
	技術分類	設備・機器等	原理・しくみ	条件	能力 (名称)	能力 (単位)	測定単位		計算方法				試験条件									
							単位	名称	評価方法の タイプ				準拠する 規格	規格の 名称	計算式	準拠する 規格	規格の 名称	説明				
S-107011	その他	農業等暖房用温水発生機	燃焼室、伝熱面から構成され、燃焼によって温められた温水を循環ポンプで栽培用温室内等のパイプに送り、空気と熱交換させ、暖房として利用する。	都市ガス 13A焚き、 50Hz	熱出力	697kW以上930kW未満	-	-	-	%	熱効率	標準規格による評価	JISB8418:2000またはHA010:2015	無圧式温水発生機	JISB8418:2000またはHA010:2015に準拠	JISB8418:2000またはHA010:2015	無圧式温水発生機	JISB8418:2000またはHA010:2015に準拠				
S-107012						930kW以上1163kW未満	-	-	-													
S-107013						1163kW以上1395kW未満	-	-	-													
S-107014						1395kW以上	-	-	-													
S-107015				LPG焚き、 60Hz	熱出力	233kW未満	-	-	-	%	熱効率	標準規格による評価	JISB8418:2000またはHA010:2015	無圧式温水発生機	JISB8418:2000またはHA010:2015に準拠	JISB8418:2000またはHA010:2015	無圧式温水発生機	JISB8418:2000またはHA010:2015に準拠				
S-107016						233kW以上465kW未満	-	-	-													
S-107017						465kW以上697kW未満	-	-	-													
S-107018						697kW以上930kW未満	-	-	-													
S-107019						930kW以上1163kW未満	-	-	-													
S-107020						1163kW以上1395kW未満	-	○	95	*												
S-107021						1395kW以上	-	-	-													



水準表 クラスNo.	区 分			概 要			クラス			トップ ランナー 制度 規定	認 証 対 象	LD-Tech 水準	指 標						
	技術分類	設備・機器等	原理・しくみ	条件	能力 (名称)	能力 (単位)	測定単位		計算方法				試験条件						
							単位	名称	評価方法の タイプ				準拠する 規格	規格の 名称	計算式	準拠する 規格	規格の 名称	説明	
S-107022	その他	農業等暖房用温水発生機	燃焼室、伝熱面から構成され、燃焼によって温められた温水を循環ポンプで栽培用温室内等のパイプに送り、空気と熱交換させ、暖房として利用する。	都市ガス13A焚き、60Hz	熱出力	233kW未満	-	-	-	%	熱効率	標準規格による評価	JISB8418:2000またはHA010:2015	無圧式温水発生機	JISB8418:2000またはHA010:2015に準拠	JISB8418:2000またはHA010:2015	無圧式温水発生機	JISB8418:2000またはHA010:2015に準拠	
S-107023						233kW以上465kW未満	-	-	-										
S-107024						465kW以上697kW未満	-	-	-										
S-107025						697kW以上930kW未満	-	-	-										
S-107026						930kW以上1163kW未満	-	-	-										
S-107027						1163kW以上1395kW未満	-	-	-										
S-107028						1395kW以上	-	-	-										
S-109001	オフロード特殊自動車(建設機械・ハイブリッド型)	油圧ショベル(ハイブリッド型)	建設現場で使用される重機の一つ。ショベルカーとも呼ばれており、アームの先端に取り付けられたバケットによって掘削等の作業を行う機械。軽油を燃料とするディーゼルエンジンで動力を得るものが一般的である。ハイブリッド型は、動力としてエンジンと電気モータを組み合わせた油圧ショベル。旋回減速時のエネルギーを回収して電気エネルギーとして蓄電し、加速時の補助エネルギーとして利用することで、エンジンで消費される軽油消費量を低減し、CO2 排出量の削減が可能とな	-	標準バケット山積容量	0.25 m3以上0.36 m3未満	-	-	-	kg/標準作業	燃費	標準規格による評価	JCMASHO20:2014またはJCMASHO20:2010	土工機械—エネルギー消費量試験方法—油圧ショベル	JCMASHO20:2014またはJCMASHO20:2010に準拠	JCMASHO20:2014またはJCMASHO20:2010	土工機械—エネルギー消費量試験方法—油圧ショベル	JCMASHO20:2014またはJCMASHO20:2010に準拠	
S-109002						0.70 m3以上0.90 m3未満	-	-	-										

水準表 クラスNo.	区分		概要		クラス			トップ ランナー 制度 規定	認証対象	LD-Tech 水準	指標							
	技術分類	設備・機器等	原理・しくみ	条件	能力 (名称)	能力 (単位)	測定単位				計算方法			試験条件				
							単位				名称	評価方法の タイプ	準拠する 規格	規格の 名称	計算式	準拠する 規格	規格の 名称	説明
S-112001	オフロード特殊自動車 (建設機械・電気型)	油圧ショベル(電動型)	建設現場で使用される重機の一つ。ショベルカーとも呼ばれており、アームの先端に取り付けられたバケットによって掘削等の作業を行う機械。軽油を燃料とするディーゼルエンジンで動力を得るものが一般的である。電動型は、動力として電気モータを使用する油圧ショベル。従来型の油圧ショベルで燃料として使用されていた軽油を電力で代替することにより、CO2排出量の削減が可能となる。	-	標準バケット 山積容量	0.25 m3 以上0.36 m3未満	-	-	-	kWh/標準 作業	電力消費量	標準規格による評価	JCMASHO 20:2014ま たは JCMASHO 20:2010	土工機械- エネルギー消 費量試験方 法-油圧 ショベル	JCMASHO20:2014または JCMASHO20:2010に準拠	JCMASHO 20:2014ま たは JCMASHO 20:2010	土工機械- エネルギー消 費量試験方 法-油圧 ショベル	JCMASHO20:2014または JCMASHO20:2010に準拠
S-112002						0.70 m3 以上0.90 m3未満	-	-	-									
S-113001	オフロード特殊自動車 (建設機械・電気型)	ブルドーザ(電動型)	土砂の掘削、押土、盛土、整地作業等に用いられる機械。軽油を燃料とするディーゼルエンジンで動力を得るものが一般的である。電動型は、ディーゼルエンジンによって発電機を駆動させ、電動モータにより稼働するブルドーザ。電力駆動を採り入れることで低燃費化を実現している。	-	定格出力	19kW以上 75kW未満	-	-	-	g/kWh	燃費	標準規格による評価	JCMASHO 21:2010	土工機械- 燃料消費量 試験方法	JCMASHO21:2010に準拠	JCMASHO 21:2010	土工機械- 燃料消費量 試験方法	JCMASHO21:2010に準拠
S-113002						75kW以上 170kW未 満	-	-	-									
S-113003						170kW以 上300kW 未満	-	-	-									
S-114001	その他	遠心脱水型コンテナ(容器)洗浄乾燥機	洗浄水加熱用循環加温ヒートポンプ、リンス水加熱用空気熱源ヒートポンプ、遠心脱水型乾燥からなる。循環加温ヒートポンプによって保温された洗浄槽で洗浄し、空気熱源ヒートポンプで加熱された湯でリンスをし、遠心脱水機で乾燥をする設備。熱源機でつくった熱風で乾燥する熱風方式と遠心脱水機で乾燥する遠心脱水方式がある。従来型と比較してヒートポンプの採用により効率的に洗浄ができ、遠心脱水機の採用により少ない水、消費エネルギーで乾燥ができる。食品・飲料工場や自動車工場等、幅広い用途へ導入が可能である。	-	処理速度	75~150サイ クル/h	-	○	0.049	kWh/台	コンテナ1台 あたりの電力 消費量	標準条件による評価	-	-	$P = (A+B+C+D+E+F+G+H) / I$ 、 $P$ : コンテナ1台あたりの電力消費量 [kWh]、 $A$ : 主搬送コンベアの電力消費量 [kWh]、 $B$ : 搬入出コンベアの電力消費量 [kWh]、 $C$ : 洗浄ポンプの電力消費量 [kWh]、 $D$ : リンスポンプの電力消費量 [kWh]、 $E$ : 洗浄槽旋回の電力消費量 [kWh]、 $F$ : 遠心脱水駆動 [kWh]、 $G$ : 排気ファン [kWh]、 $H$ : ヒートポンプの電力消費量 [kWh]、 $I$ : コンテナ総数 [台]	-	-	<処理物> コンテナ:「食品クレート標準 共有化ガイドライン」で規定されている食品クレート標準 I 型、または II 型 浅・深用 <処理条件> 高温水ヒートポンプ(空気熱源・循環式)(洗浄側) 温水出口温度: 65℃以上 70℃以下、乾燥温度: 16℃、湿球温度: 12℃、温水出入口温度差: 5℃ 高温水ヒートポンプ(空気熱源・一過式)(リンス側): JRA4060:2014に準拠 含水率(脱水後): 1%未満 (ワーク質量に対する割合) 汚れ度(洗浄前/洗浄後) APT値: 300ORLU以上 / 1000ORLU未満

水準表 クラスNo.	区分			概要			クラス			トップ ランナー 制度 規定	認証対象	LD-Tech 水準	指標						
	技術分類	設備・機器等	原理・しくみ	条件	能力 (名称)	能力 (単位)	測定単位		計算方法				試験条件						
							単位	名称	評価方法の タイプ				準拠する 規格	規格の 名称	計算式	準拠する 規格	規格の 名称	説明	
S-114002	その他	遠心脱水型コンテナ (容器) 洗浄乾燥機	洗浄水加熱用循環加熱ヒートポンプ、リンス水加熱用空気熱源ヒートポンプ、遠心脱水型乾燥からなる。循環加熱ヒートポンプによって保温された洗浄槽で洗浄し、空気熱源ヒートポンプで加熱された湯でリンスをし、遠心脱水機で乾燥をする設備。熱源機でつくった熱風で乾燥する熱風方式と遠心脱水機で乾燥する遠心脱水方式がある。従来型と比較してヒートポンプの採用により効率的に洗浄ができ、遠心脱水機の採用により少ない水、消費エネルギーで乾燥ができる。食品・飲料工場や自動車工場等、幅広い用途へ導入が可能である。	-	処理速度	151~225 サイクル/h	-	○	0.036	kWh/台	コンテナ1台 あたりの電力 消費量	標準条件に よる評価	-	-	$P = (A+B+C+D+E+F+G+H) / I, P$ : コンテナ1台あたりの電力消費量 [kWh]、A : 主搬送コンベアの電力消費量 [kWh]、B : 搬入出コンベアの電力消費量 [kWh]、C : 洗浄ポンプの電力消費量 [kWh]、D : リンスポンプの電力消費量 [kWh]、E : 洗浄槽旋回の電力消費量 [kWh]、F : 遠心脱水駆動 [kWh]、G : 排気ファン [kWh]、H : ヒートポンプの電力消費量 [kWh]、I : コンテナ総数 [台]	-	-	<処理物> コンテナ:「食品クレート標準 共有ガイドライン」で規定されている食品クレート標準 I 型、または II 型 浅・深用 <処理条件> 高温水ヒートポンプ (空気熱源・循環式) (洗浄側) 温水出口温度: 65℃以上 70℃以下、乾燥温度: 16℃、湿球温度: 12℃、温水出入口温度差: 5℃ 高温水ヒートポンプ (空気熱源・一過式) (リンス側) : JRA4060:2014に準拠 含水率 (脱水後) : 1%未満 (ワーク質量に対する割合) 汚れ度 (洗浄前/洗浄後) APT値: 3000RLU以上 / 1000RLU未満	
S-115001	その他	低温用自然冷媒冷凍機 (アンモニア/CO2二次冷媒システム)	一次冷媒 (アンモニア) を用いた冷凍装置で二次冷媒 (CO2) を低温まで冷却し、食品等を凍結装置するフリーザー装置などに供給する。	装置内温度 -42℃超- 25℃未満	冷凍能力	100kW以下	-	●	1.67	*	成績係数 (COP)	標準条件に よる評価	-	-	$COP = \Phi / P$ COP:成績係数 $\Phi$ :定格能力[W] P:定格消費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、CO2温度、凝縮温度をそれぞれ次のとおり設定することを条件とする。CO2温度: -42℃超-27℃以下、冷却水入口温度: 32℃	
S-115002						100kW超 150kW以下	-	●	1.67	*									
S-115003						150kW超	-	●	1.7	*									

水準表 クラスNo.	区分		概要		クラス			トップ ランナー 制度 規定	認証対象	LD-Tech 水準	指標								
	技術分類	設備・機器等	原理・しくみ	条件	能力 (名称)	能力 (単位)	測定単位				計算方法			試験条件					
							単位				名称	評価方法の タイプ	準拠する 規格	規格の 名称	計算式	準拠する 規格	規格の 名称	説明	
S-116001	その他	低温蒸気式加熱 殺菌装置	低温蒸気式発生装置及び熱交換器からなる。真空状態で発生させた低温の蒸気を熱媒として、熱交換器を介して製品の加熱殺菌を行う装置。従来の温水式と比べ、エネルギー効率を向上できるとともに、熱媒側が負圧であるため、隔壁破損の場合に製品側への流入を防げるなど安全性も向上でき、食品製造工場や医薬品製造工場など、殺菌を必要とする場で使用される。	-	-	-	-	●	0.78	*	-	成績係数 (COP)	標準条件による評価	-	-	$\text{sysCOP} = \frac{\text{cm} \times \text{M} \times (\text{tout} - \text{tin})}{(\text{Cst} \times \text{S} / \eta + \text{Ce} \times \text{E})}$ cm : 処理対象物の比熱 (水と同一、4.186[kJ/K・kg]) M : 処理対象物の量[kg] tin, tout : 処理対象物の装置入口、出口温度 Cst : (ボイラー出口の単位蒸気量あたりの熱量) - (ボイラー入口の単位給水量あたりの熱量) S : ボイラー蒸気量[kg] η : ボイラー効率(蒸気熱量/燃料熱量) Ce : 換算係数 (3.6[MJ/kWh]) E : 電力消費量[kWh]	-	-	蒸気ボイラの燃料：A重油、給水温度：20℃、蒸気圧力：0.7MPaG、効率：0.85とする。ポンプの負荷率を0.7とする。
S-117001	乾燥機	熱回収式工業用 繊維物乾燥機	ネットコンベアー内の熱風ノズルにより熱風を吹付けることによって、繊維物の染色・水洗後の乾燥・防縮・風合加工を行う設備。乾燥機内で繊維物を乾燥して発生した水蒸気は排気ファンにより排出され最適な状態に保たれる。熱風の熱源としては、ガス直接燃焼による加熱方式と、蒸気、または熱媒体油による熱交換器を用いた間接加熱方式がある。	1室3段	ローラー幅	1800mm W以上 2000mm W未満	-	●	3.13	MJ/kg	単位重量当たりの熱量	シミュレーションによる評価	-	-	$Q = \frac{(qA + qB + qC + qD + qE)}{m}$ Q: 処理布の単位重量当たりの熱量 [MJ/kg]、 qA: 保温版 (床面含む) からの放熱量 [MJ/h]、 qB: 処理布の昇温熱量 [MJ/h]、 qC: 含有水分の昇温・蒸発熱量 [MJ/h]、 qD: 給気・排気による損失熱量 [MJ/h]、 qE: 出入口からの吹出し吸込み損失熱量 [MJ/h]、 m: 単位時間当たり処理した生地重量 [kg/h] ※小数点以下を切り捨て	-	-	時間当たりの熱量の算出にあたっては、定常な操作状態において、処理布、処理条件を次のとおり設定することを条件とする。<処理布>、素材：ポリエステル100%繊維物、布幅：1540mmW、目付：200g/m2、<処理条件> 処理温度：140℃、水分率 (入口/出口)：70~75% / 2%以下	
S-117002						2000mm W以上 2300mm W未満	-	●	3.22										
S-117003						2300mm W以上 2500mm W以下	-	●	3.4										

水準表 クラスNo.	区分			クラス			トップ ランナー 制度 規定	認証対象	LD-Tech 水準	指標											
	技術分類	設備・機器等	概要 原理・しくみ	条件	能力 (名称)	能力 (単位)				測定単位		計算方法			試験条件						
										単位	名称	評価方法の タイプ	準拠する 規格	規格の 名称	計算式	準拠する 規格	規格の 名称	説明			
S-117004	乾燥機	熱回収式工業用 織編物乾燥機	ネットコンベアー内の熱風ノズルにより熱風を吹付けることにより、織編物の染色・水洗後の乾燥・防縮・風合加工を行う設備。乾燥機内で織編物を乾燥して発生した水蒸気は排気ファンにより排出され最適な状態に保たれる。熱風の熱源としては、ガス直接燃焼による加熱方式と、蒸気、または熱媒体油による熱交換器を用いた間接加熱方式がある。	1室5段	ローラー幅	1800mm W以上 2000mm W未満	-	●	3.06	MJ/kg	単位重量当 たりの熱量	シミュレーシ ョンによる評価	-	-	Q= (qA+qB+qC+qD+qE) ÷m、Q:処理布の単位重量 当たりの熱量 [MJ/kg]、 qA:保温版 (床面含む) か らの放熱量 [MJ/h]、qB: 処理布の昇温熱量 [MJ/h]、qC:含有水分の 昇温・蒸発熱量 [MJ/h]、 qD:給気・排気による損失熱 量 [MJ/h]、qE:出入口か らの吹出し吸込み損失熱量 [MJ/h]、m:単位時間当 たりに処理した生地重量 [kg/h] ※小数点以下を切り 捨て	-	-	時間当たりの熱量の算出にあ たっては、定常な操作状態に おいて、処理布、処理条件を 次のとおり設定することを条件 とする。<処理布>、素材： ポリエステル100%織物、布 幅：1540mmW、目付： 200g/m2、<処理条件> 処理温度：140℃、水分率 (入口/出口)：70～75% / 2%以下			
S-117005				2000mm W以上 2300mm W未満		-	●	3.15													
S-117006				2300mm W以上 2500mm W以下		-	●	3.33													
S-117007	乾燥機	熱回収式工業用 織編物乾燥機	ネットコンベアー内の熱風ノズルにより熱風を吹付けることにより、織編物の染色・水洗後の乾燥・防縮・風合加工を行う設備。乾燥機内で織編物を乾燥して発生した水蒸気は排気ファンにより排出され最適な状態に保たれる。熱風の熱源としては、ガス直接燃焼による加熱方式と、蒸気、または熱媒体油による熱交換器を用いた間接加熱方式がある。	2室3段	ローラー幅	1800mm W以上 2000mm W未満	-	●	2.85	MJ/kg	単位重量当 たりの熱量	シミュレーシ ョンによる評価	-	-	Q= (qA+qB+qC+qD+qE) ÷m、Q:処理布の単位重量 当たりの熱量 [MJ/kg]、 qA:保温版 (床面含む) か らの放熱量 [MJ/h]、qB: 処理布の昇温熱量 [MJ/h]、qC:含有水分の 昇温・蒸発熱量 [MJ/h]、 qD:給気・排気による損失熱 量 [MJ/h]、qE:出入口か らの吹出し吸込み損失熱量 [MJ/h]、m:単位時間当 たりに処理した生地重量 [kg/h] ※小数点以下を切り 捨て	-	-	時間当たりの熱量の算出にあ たっては、定常な操作状態に おいて、処理布、処理条件を 次のとおり設定することを条件 とする。<処理布>、素材： ポリエステル100%織物、布 幅：1540mmW、目付： 200g/m2、<処理条件> 処理温度：140℃、水分率 (入口/出口)：70～75% / 2%以下			
S-117008				2000mm W以上 2300mm W未満		-	●	2.91													
S-117009				2300mm W以上 2500mm W以下		-	●	3.01													

水準表 クラスNo.	概要			クラス			トップ ランナー 制度 規定	認証対象	LD-Tech 水準	指標							
	区分 技術分類	設備・機器等	原理・しくみ	条件	能力 (名称)	能力 (単位)				測定単位		計算方法			試験条件		
										単位	名称	評価方法の タイプ	準拠する 規格	規格の 名称	計算式	準拠する 規格	規格の 名称
S-117010	乾燥機	熱回収式工業用 繊維物乾燥機	ネットコンベアー内の熱風ノズルにより熱風を吹付けることにより、繊維物の染色・水洗後の乾燥・防縮・風合加工を行う設備。乾燥機内で繊維物を乾燥して発生した水蒸気は排気ファンにより排出され最適な状態に保たれる。熱風の熱源としては、ガス直接燃焼による加熱方式と、蒸気、または熱媒体油による熱交換器を用いた間接加熱方式がある。	2室5段	ローラー幅	1800mm W以上 2000mm W未満	-	●	2.81	MJ/kg	単位重量当 たりの熱量	シミュレーショ ンによる評価	-	-	$Q = (qA + qB + qC + qD + qE) \div m$ Q: 処理布の単位重量 当たりの熱量 [MJ/kg]、 qA: 保温版 (床面含む) か らの放熱量 [MJ/h]、qB: 処理布の昇温熱量 [MJ/h]、qC: 含有水分の 昇温・蒸発熱量 [MJ/h]、 qD: 給気・排気による損失熱 量 [MJ/h]、qE: 出入口か らの吹出し吸込み損失熱 量 [MJ/h]、m: 単位時間当 たりに処理した生地重量 [kg/h] ※小数点以下を切り 捨て	-	時間当たりの熱量の算出にあたっては、定常な操作状態において、処理布、処理条件を次のとおり設定することを条件とする。<処理布>、素材：ポリエステル100%繊維物、布幅：1540mmW、目付：200g/m2、<処理条件> 処理温度：140℃、水分率（入口/出口）：70～75% / 2%以下
S-117011				2000mm W以上 2300mm W未満		-	●	2.86									
S-117012				2300mm W以上 2500mm W以下		-	●	2.94									
S-117013	乾燥機	熱回収式工業用 繊維物乾燥機	ネットコンベアー内の熱風ノズルにより熱風を吹付けることにより、繊維物の染色・水洗後の乾燥・防縮・風合加工を行う設備。乾燥機内で繊維物を乾燥して発生した水蒸気は排気ファンにより排出され最適な状態に保たれる。熱風の熱源としては、ガス直接燃焼による加熱方式と、蒸気、または熱媒体油による熱交換器を用いた間接加熱方式がある。	3室2段	ローラー幅	1800mm W以上 2000mm W未満	-	●	2.81	MJ/kg	単位重量当 たりの熱量	シミュレーショ ンによる評価	-	-	$Q = (qA + qB + qC + qD + qE) \div m$ Q: 処理布の単位重量 当たりの熱量 [MJ/kg]、 qA: 保温版 (床面含む) か らの放熱量 [MJ/h]、qB: 処理布の昇温熱量 [MJ/h]、qC: 含有水分の 昇温・蒸発熱量 [MJ/h]、 qD: 給気・排気による損失熱 量 [MJ/h]、qE: 出入口か らの吹出し吸込み損失熱 量 [MJ/h]、m: 単位時間当 たりに処理した生地重量 [kg/h] ※小数点以下を切り 捨て	-	時間当たりの熱量の算出にあたっては、定常な操作状態において、処理布、処理条件を次のとおり設定することを条件とする。<処理布>、素材：ポリエステル100%繊維物、布幅：1540mmW、目付：200g/m2、<処理条件> 処理温度：140℃、水分率（入口/出口）：70～75% / 2%以下
S-117014				2000mm W以上 2300mm W未満		-	●	2.86									
S-117015				2300mm W以上 2500mm W以下		-	●	2.94									

水準表 クラスNo.	概要			クラス			トップ ランナー 制度 規定	認証対象	LD-Tech 水準	指標								
	区分 技術分類	設備・機器等	原理・しくみ	条件	能力 (名称)	能力 (単位)				測定単位		計算方法			試験条件			
										単位	名称	評価方法の タイプ	準拠する 規格	規格の 名称	計算式	準拠する 規格	規格の 名称	説明
S-117016	乾燥機	熱回収式工業用 繊維物乾燥機	ネットコンベアー内の熱風ノズルにより熱風を吹付けることによって、繊維物の染色・水洗後の乾燥・防縮・風合加工を行う設備。乾燥機内で繊維物を乾燥して発生した水蒸気は排気ファンにより排出され最適な状態に保たれる。熱風の熱源としては、ガス直接燃焼による加熱方式と、蒸気、または熱媒体油による熱交換器を用いた間接加熱方式がある。	4室2段	ローラー幅	1800mm W以上 2000mm W未満	-	-	-	MJ/kg	単位重量当 たりの熱量	シミュレーシ ョンによる評価	-	-	Q= (qA+qB+qC+qD+qE) ÷m、Q:処理布の単位重量 当たりの熱量 [MJ/kg]、 qA:保温版 (床面含む) か らの放熱量 [MJ/h]、qB: 処理布の昇温熱量 [MJ/h]、qC:含有水分の 昇温・蒸発熱量 [MJ/h]、 qD:給気・排気による損失熱 量 [MJ/h]、qE:出入口か らの吹出し吸込み損失熱量 [MJ/h]、m:単位時間当 たりに処理した生地重量 [kg/h] ※小数点以下を切り 捨て	-	-	時間当たりの熱量の算出にあ たっては、定常な操業状態 において、処理布、処理条件を 次のとおり設定することを条件 とする。<処理布>、素材: ポリエステル100%繊維物、布 幅:1540mmW、目付: 200g/m2、<処理条件> 処理温度:140℃、水分率 (入口/出口):70~75% /2%以下
S-117017						2000mm W以上 2300mm W未満	-	-	-									
S-117018						2300mm W以上 2500mm W以下	-	-	-									
S-118001	熱処理機	熱回収式工業用 繊維物熱処理機	繊維物の乾燥後に、繊維物の形態を整え、寸法を安定化するために熱固定を行う設備。熱固定を行う際には、熱風ノズルにより繊維物に熱風を吹付ける。繊維物を加熱することによって発生した熱処理機内のガスは排気ファンにより排出され最適な状態に保たれる。熱風の熱源としては、ガス直接燃焼による加熱方式と、熱媒体油による熱交換器を用いた間接加熱方式がある。	3室	ローラー幅	1800mm W以上 2000mm W未満	-	●	2.1	MJ/kg	単位重量当 たりの熱量	シミュレーシ ョンによる評価	-	-	Q= (qA+qB+qC+qD+qE) ÷m、Q:処理布の単位重量 当たりの熱量 [MJ/kg]、 qA:保温版 (床面含む) か らの放熱量 [MJ/h]、qB: 処理布の昇温熱量 [MJ/h]、qC:含有水分の 昇温・蒸発熱量 [MJ/h]、 qD:給気・排気による損失熱 量 [MJ/h]、qE:出入口か らの吹出し吸込み損失熱量 [MJ/h]、m:単位時間当 たりに処理した生地重量 [kg/h] ※小数点以下を切り 捨て	-	-	時間当たりの熱量の算出にあ たっては、定常な操業状態 において、処理布、処理条件を 次のとおり設定することを条件 とする。<処理布> 素材:ポ リエステル100%繊維物、布 幅:1540mmW、目付: 200g/m2、<処理条件> 処理温度:140℃、水分率 (入口/出口):70~75% /2%以下
S-118002						2000mm W以上 2300mm W未満	-	●	2.12									
S-118003						2300mm W以上 2500mm W以下	-	●	2.14									

水準表 クラスNo.	区分		概要	クラス			トップ ランナー 制度 規定	認証対象	LD-Tech 水準	指標								
	技術分類	設備・機器等		条件	能力 (名称)	能力 (単位)				測定単位		計算方法			試験条件			
										単位	名称	評価方法の タイプ	準拠する 規格	規格の 名称	計算式	準拠する 規格	規格の 名称	説明
S-118004	熱処理機	熱回収式工業用 繊維物熱処理機	繊維物の乾燥後に、繊維物の形態を整え、寸法を安定化するために熱固定を行う設備。熱固定を行う際には、熱風ノズルにより繊維物に熱風を吹付ける。繊維物を加熱することによって発生した熱処理機内のガスは排気ファンにより排出され最適な状態に保たれる。熱風の熱源としては、ガス直接燃焼による加熱方式と、熱媒体油による熱交換器を用いた間接加熱方式がある。	4室	ローラー幅	1800mm W以上 2000mm W未満	-	●	2.05	MJ/kg	単位重量当 たりの熱量	シミュレーシ ョンによる評価	-	-	$Q = (qA + qB + qC + qD + qE) \div m$ 、Q: 処理布の単位重量 当たりの熱量 [MJ/kg]、 qA: 保温版 (床面含む) か らの放熱量 [MJ/h]、qB: 処理布の昇温熱量 [MJ/h]、qC: 含有水分の 昇温・蒸発熱量 [MJ/h]、 qD: 給気・排気による損失熱 量 [MJ/h]、qE: 出入口か らの吹出し吸込み損失熱量 [MJ/h]、m: 単位時間当 たりに処理した生地重量 [kg/h] ※小数点以下を切 り捨て	-	-	時間当たりの熱量の算出にあたっては、定常な操作状態において、処理布、処理条件を次のとおり設定することを条件とする。<処理布> 素材: ポリエステル100%繊維物、布幅: 1540mmW、目付: 200g/m2、<処理条件> 処理温度: 140℃、水分率 (入口/出口): 70~75% / 2%以下
S-118005				2000mm W以上 2300mm W未満		-	●	2.05										
S-118006				2300mm W以上 2500mm W以下		-	●	2.08										
S-118007	熱処理機	熱回収式工業用 繊維物熱処理機	繊維物の乾燥後に、繊維物の形態を整え、寸法を安定化するために熱固定を行う設備。熱固定を行う際には、熱風ノズルにより繊維物に熱風を吹付ける。繊維物を加熱することによって発生した熱処理機内のガスは排気ファンにより排出され最適な状態に保たれる。熱風の熱源としては、ガス直接燃焼による加熱方式と、熱媒体油による熱交換器を用いた間接加熱方式がある。	5室	ローラー幅	1800mm W以上 2000mm W未満	-	●	2.01	MJ/kg	単位重量当 たりの熱量	シミュレーシ ョンによる評価	-	-	$Q = (qA + qB + qC + qD + qE) \div m$ 、Q: 処理布の単位重量 当たりの熱量 [MJ/kg]、 qA: 保温版 (床面含む) か らの放熱量 [MJ/h]、qB: 処理布の昇温熱量 [MJ/h]、qC: 含有水分の 昇温・蒸発熱量 [MJ/h]、 qD: 給気・排気による損失熱 量 [MJ/h]、qE: 出入口か らの吹出し吸込み損失熱量 [MJ/h]、m: 単位時間当 たりに処理した生地重量 [kg/h] ※小数点以下を切 り捨て	-	-	時間当たりの熱量の算出にあたっては、定常な操作状態において、処理布、処理条件を次のとおり設定することを条件とする。<処理布> 素材: ポリエステル100%繊維物、布幅: 1540mmW、目付: 200g/m2、<処理条件> 処理温度: 140℃、水分率 (入口/出口): 70~75% / 2%以下
S-118008				2000mm W以上 2300mm W未満		-	●	2.01										
S-118009				2300mm W以上 2500mm W以下		-	●	2.03										



水準表 クラスNo.	区分			クラス			トップ ランナー 制度 規定	認証対象	LD-Tech 水準	指標								
	技術分類	設備・機器等	原理・しくみ	条件	能力 (名称)	能力 (単位)				測定単位		計算方法			試験条件			
										単位	名称	評価方法の タイプ	準拠する 規格	規格の 名称	計算式	準拠する 規格	規格の 名称	説明
S-118010	熱処理機	熱回収式工業用 織編物熱処理機	織編物の乾燥後に、織編物の形態を整え、寸法を安定化するために熱固定を行う設備。熱固定を行う際には、熱風ノズルにより織編物に熱風を吹付ける。織編物を加熱することによって発生した熱処理機内のガスは排気ファンにより排出され最適な状態に保たれる。熱風の熱源としては、ガス直接燃焼による加熱方式と、熱媒体油による熱交換器を用いた間接加熱方式がある。	6室	ローラー幅	1800mm W以上 2000mm W未満	-	●	1.98	MJ/kg	単位重量当 たりの熱量	シミュレーショ ンによる評価	-	-	$Q = (qA + qB + qC + qD + qE) \div m$ Q: 処理布の単位重量 当たりの熱量 [MJ/kg]、 qA: 保温版 (床面含む) か らの放熱量 [MJ/h]、qB: 処理布の昇温熱量 [MJ/h]、qC: 含有水分の 昇温・蒸発熱量 [MJ/h]、 qD: 給気・排気による損失熱 量 [MJ/h]、qE: 出入口か らの吹出し吸込み損失熱 量 [MJ/h]、m: 単位時間当 たりに処理した生地重量 [kg/h] ※小数点以下を切 り捨て	-	-	時間当たりの熱量の算出にあたっては、定常な操作状態において、処理布、処理条件を次のとおり設定することを条件とする。<処理布> 素材: ポリエステル100%織物、布幅: 1540mmW、目付: 200g/m2、<処理条件> 処理温度: 140℃、水分率 (入口/出口) : 70~75% / 2%以下
2000mm W以上 2300mm W未満						-	●	1.99										
2300mm W以上 2500mm W以下						-	●	2										
S-118013	熱処理機	熱回収式工業用 織編物熱処理機	織編物の乾燥後に、織編物の形態を整え、寸法を安定化するために熱固定を行う設備。熱固定を行う際には、熱風ノズルにより織編物に熱風を吹付ける。織編物を加熱することによって発生した熱処理機内のガスは排気ファンにより排出され最適な状態に保たれる。熱風の熱源としては、ガス直接燃焼による加熱方式と、熱媒体油による熱交換器を用いた間接加熱方式がある。	7室	ローラー幅	1800mm W以上 2000mm W未満	-	●	1.96	MJ/kg	単位重量当 たりの熱量	シミュレーショ ンによる評価	-	-	$Q = (qA + qB + qC + qD + qE) \div m$ Q: 処理布の単位重量 当たりの熱量 [MJ/kg]、 qA: 保温版 (床面含む) か らの放熱量 [MJ/h]、qB: 処理布の昇温熱量 [MJ/h]、qC: 含有水分の 昇温・蒸発熱量 [MJ/h]、 qD: 給気・排気による損失熱 量 [MJ/h]、qE: 出入口か らの吹出し吸込み損失熱 量 [MJ/h]、m: 単位時間当 たりに処理した生地重量 [kg/h] ※小数点以下を切 り捨て	-	-	時間当たりの熱量の算出にあたっては、定常な操作状態において、処理布、処理条件を次のとおり設定することを条件とする。<処理布> 素材: ポリエステル100%織物、布幅: 1540mmW、目付: 200g/m2、<処理条件> 処理温度: 140℃、水分率 (入口/出口) : 70~75% / 2%以下
2000mm W以上 2300mm W未満						-	●	1.96										
2300mm W以上 2500mm W以下						-	●	1.98										
S-118014	熱処理機	熱回収式工業用 織編物熱処理機	織編物の乾燥後に、織編物の形態を整え、寸法を安定化するために熱固定を行う設備。熱固定を行う際には、熱風ノズルにより織編物に熱風を吹付ける。織編物を加熱することによって発生した熱処理機内のガスは排気ファンにより排出され最適な状態に保たれる。熱風の熱源としては、ガス直接燃焼による加熱方式と、熱媒体油による熱交換器を用いた間接加熱方式がある。	6室	ローラー幅	1800mm W以上 2000mm W未満	-	●	1.98	MJ/kg	単位重量当 たりの熱量	シミュレーショ ンによる評価	-	-	$Q = (qA + qB + qC + qD + qE) \div m$ Q: 処理布の単位重量 当たりの熱量 [MJ/kg]、 qA: 保温版 (床面含む) か らの放熱量 [MJ/h]、qB: 処理布の昇温熱量 [MJ/h]、qC: 含有水分の 昇温・蒸発熱量 [MJ/h]、 qD: 給気・排気による損失熱 量 [MJ/h]、qE: 出入口か らの吹出し吸込み損失熱 量 [MJ/h]、m: 単位時間当 たりに処理した生地重量 [kg/h] ※小数点以下を切 り捨て	-	-	時間当たりの熱量の算出にあたっては、定常な操作状態において、処理布、処理条件を次のとおり設定することを条件とする。<処理布> 素材: ポリエステル100%織物、布幅: 1540mmW、目付: 200g/m2、<処理条件> 処理温度: 140℃、水分率 (入口/出口) : 70~75% / 2%以下
2000mm W以上 2300mm W未満						-	●	1.96										
2300mm W以上 2500mm W以下						-	●	1.98										

水準表 クラスNo.	区分			概要			クラス			トップ ランナー 制度 規定	認証対象	LD-Tech 水準	指標					
	技術分類	設備・機器等	原理・しくみ	条件	能力 (名称)	能力 (単位)	測定単位		計算方法				試験条件					
							単位	名称	評価方法の タイプ				準拠する 規格	規格の 名称	計算式	準拠する 規格	規格の 名称	説明
S-118016	熱処理機	熱回収式工業用 繊維物熱処理機	繊維物の乾燥後に、繊維物の形態を整え、寸法を安定化するために熱固定を行う設備。熱固定を行う際には、熱風ノズルにより繊維物に熱風を吹付ける。繊維物を加熱することによって発生した熱処理機内のガスは排気ファンにより排出され最適な状態に保たれる。熱風の熱源としては、ガス直接燃焼による加熱方式と、熱媒体油による熱交換器を用いた間接加熱方式がある。	8室	ローラー幅	1800mm W以上 2000mm W未満	-	●	1.95	MJ/kg	単位重量当 たりの熱量	シミュレーシ ョンによる評価	-	-	Q= (qA+qB+qC+qD+qE) ÷m、Q:処理布の単位重量 当たりの熱量 [MJ/kg]、 qA:保温版 (床面含む) か らの放熱量 [MJ/h]、qB: 処理布の昇温熱量 [MJ/h]、qC:含有水分の 昇温・蒸発熱量 [MJ/h]、 qD:給気・排気による損失熱 量 [MJ/h]、qE:出入口か らの吹出し吸込み損失熱 量 [MJ/h]、m:単位時間当 たりに処理した生地重量 [kg/h] ※小数点以下を切 り捨て	-	-	時間当たりの熱量の算出にあ たっては、定常な操作状態に おいて、処理布、処理条件を 次のとおり設定することを条件 とする。<処理布> 素材:ポ リエステル100%繊維物、布 幅:1540mmW、目付: 200g/m2、<処理条件> 処理温度:140℃、水分率 (入口/出口):70~75% /2%以下
S-118017						2000mm W以上 2300mm W未満	-	●	1.95									
S-118018						2300mm W以上 2500mm W以下	-	●	1.96									
S-126001	蒸留塔	内部熱交換最適 化蒸留システム	濃縮部 (高圧塔) と回収部 (低圧塔) が物理的に分かれており、その間に圧縮機が設置されている蒸留塔。濃縮部の圧力をわずかに上げることで内部温度を上昇させた後に、熱を自然循環によって回収部に移動させ蒸留を行う。外部冷却により廃棄せざるを得なかった熱を自己再利用するため、リボイラーに供給する熱エネルギーを大幅に削減可能。	蒸留塔が高圧部 (濃縮部) と低圧部 (回収部) とで物理的に分離しており一体型でないもの	-	-	-	○	別紙参照	-	-	具備機能に よる評価	-	-	-	-	-	-
S-127001	その他	MVR型 (自己蒸 気機械圧縮型) 蒸発濃縮装置	主要機器はヒータ (蒸発器) と蒸気圧縮機で、これにコンデンサーや予熱器、ポンプ類が付属する装置である。蒸発器のヒータにて蒸発した蒸気を圧縮機で昇圧・昇温し自己のヒータの加熱源として再利用する技術で、蒸発潜熱を100%利用できる。定常運転時には加熱用蒸気や冷却水が殆ど不要となるため、省エネルギー性が極めて高い。本装置は加熱側と蒸発側の温度差が小さく、ヒータ構造もシンプルなので、各種プロセス溶液や一般排水の濃縮、或いは溶剤含有排水からの水回収及び溶剤回収等幅広い分野で使用されている。	ヒーター形式: 液膜降下式	-	-	-	○	20 *	-	成績係数 (COP)	標準条件に よる評価	-	-	COP=Q/P、COP:成績係 数、Q:プロセス流体の蒸発 濃縮で消費した熱エネルギー [kW]、P:圧縮機で消費 した電気エネルギー [kW]	-	-	加熱面での蒸気温度: 80℃、加熱側圧力: 47.4kPa、圧縮機圧縮温 度:6℃
S-127002						-	-	●	20 *									

水準表 クラスNo.	概要			クラス			トップ ランナー 制度 規定	認証対象	LD-Tech 水準	指標								
	区分 技術分類	設備・機器等	原理・しくみ	条件	能力 (名称)	能力 (単位)				測定単位		評価方法の タイプ	計算方法			試験条件		
										単位	名称		準拠する 規格	規格の 名称	計算式	準拠する 規格	規格の 名称	説明
S-145001	自動車（内 燃機関型）	ディーゼル・天然ガ ス車（商用車・重 量車）	（ディーゼル車）ディーゼルエンジンを搭載し た自動車。（天然ガス車）現在、国内で 使用されている天然ガス自動車の多く は、ディーゼル車やガソリン車をベースと し、改造することによって天然ガス車として 走行している。一方、メーカーにおいては 圧縮天然ガス（CNG）エンジンの開発も 進められている。	-	-	-	■	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
S-147001	自動車（ハ イブリッド 型）	ハイブリッド自動車 （乗用車）	動力として内燃機関と電気モータを組み 合わせた自動車。一時的にエネルギーを バッテリーやキャパシタに貯蔵し、必要に 応じ電気モータを介して動力とする。効 率の低いエンジン作動区域にハイブリッド 技術を使うことにより高効率運転が可能 となる。	-	-	-	■	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
S-148001	自動車（ハ イブリッド 型）	ハイブリッド自動車 （商用車・重量 車）	動力として内燃機関と電気モータを組み 合わせた自動車。一時的にエネルギーを バッテリーやキャパシタに貯蔵し、必要に 応じ電気モータを介して動力とする。効 率の低いエンジン作動区域にハイブリッド 技術を使うことにより高効率運転が可能 となる。	-	-	-	■	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
S-150001	自動車（電 気型）	電気自動車（乗 用車）	従来の内燃機関のかわりに、バッテリーに 充電した電力を動力源としてモータで走 行する自動車。	-	-	-	■	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
S-158001	電気系給湯 器	家庭用エコキュート	自然冷媒（CO <sub>2</sub> ）を用い、電動ヒート ポンプサイクルにより65℃以上の高温沸 きあげが可能な高効率な給湯システム。 ヒートポンプユニットと給湯（貯湯）ユ ニットで構成されている。	-	-	-	■	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
S-159001	電気系給湯 器	多機能ヒートポン プ給湯機	自然冷媒（CO <sub>2</sub> ）を用い、電動ヒート ポンプサイクルにより65℃以上の高温沸 きあげが可能な高効率の給湯暖房シス テム。ヒートポンプユニットと給湯（貯 湯）ユニット、床暖房端末で構成されて いる。1台のヒートポンプによって給湯、お よび床暖房が可能であるため、高効率化 が可能。	一般地仕 様、標準世 帯、保温あ り、1缶	貯湯容量	320L以上 550L未満	-	○	3.9	-	年間給湯保 温効率（床 暖房部分除 く）	標準規格に よる評価	JISC9220 :2011	家庭用ヒー トポンプ給湯 機	JISC9220:2011に準拠	JISC9220 :2011	家庭用ヒー トポンプ給湯 機	JISC9220:2011に準拠
S-159002				寒冷地仕 様、標準世 帯、保温あ り、1缶	貯湯容量	320L以上 550L未満	-	○	3									

水準表 クラスNo.	区分		概要	クラス			トップ ランナー 制度 規定	認証対象	LD-Tech 水準	指標									
	技術分類	設備・機器等		条件	能力 (名称)	能力 (単位)				測定単位		計算方法			試験条件				
			単位							名称	評価方法の タイプ	準拠する 規格	規格の 名称	計算式	準拠する 規格	規格の 名称	説明		
S-160001	燃焼式給湯器	ガス温水機器（エコジョーズ）	ガスを燃料としたバーナによって加熱した高温の空気により配管内の水を温める機器。	-	-	-	■	- Oriented	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
S-161001	コージェネレーション	家庭用燃料電池（エネファーム・PEFC）	燃料電池は燃料から直接電気エネルギーを取り出すことができ、化石燃料を燃焼させる従来の発電システムに比べて、高い発電効率、優れた環境特性、排熱利用による高い総合効率、量産による低コスト化の可能性等の特長を持つ。発電の原理は、電解質を挟んだ二つの電極に酸素と水素を供給して電気と熱を発生させるというものである。PEFC（固体高分子形燃料電池）は、電解質に固体高分子を用い、動作温度は80～100℃、白金が触媒として使われており、都市ガス、LPG（液化石油ガス）を燃料としている。排熱効率が高く、SS（Daily Start and Stop）が容易である。ここでは、主に家庭用として用いられる製品を取り扱う（現行販売製品の電気の定格出力は1kW以下）。	-	定格内容積	-	-	○ Oriented	95	%	総合効率	標準規格による評価	JISC8823:2008	小形固体高分子形燃料電池システムの安全性及び性能試験方法	JISC8823:2008に準拠	JISC8823:2008	小形固体高分子形燃料電池システムの安全性及び性能試験方法	JISC8823:2008に準拠	
S-161002				-	-	-	-	○ Oriented	39	%	発電効率	標準規格による評価	JISC8823:2008	小形固体高分子形燃料電池システムの安全性及び性能試験方法	JISC8823:2008に準拠	JISC8823:2008	小形固体高分子形燃料電池システムの安全性及び性能試験方法	JISC8823:2008に準拠	
S-162001	コージェネレーション	家庭用燃料電池（エネファーム・SOFC）	SOFC（固体酸化物形燃料電池）は、電解質にセラミックを用い、動作温度は700～750℃である。発電効率が高く24時間運転が多い。ここでは、主に家庭用として用いられる製品を取り扱う（現行販売製品の電気の定格出力は1kW以下）。	燃料：都市ガス（13A、12A）	-	-	-	● Oriented	87	%	総合効率	標準規格による評価	JISC8841-3:2011	小形固体酸化物形燃料電池システム-第3部：性能試験方法及び環境試験方法	JISC8841-3:2011に準拠	JISC8841-3:2011	小形固体酸化物形燃料電池システム-第3部：性能試験方法及び環境試験方法	JISC8841-3:2011に準拠	
S-162002				燃料：都市ガス（13A、12A）	-	-	-	○ Oriented	52	%	発電効率	標準規格による評価	JISC8841-3:2011	小形固体酸化物形燃料電池システム-第3部：性能試験方法及び環境試験方法	JISC8841-3:2011に準拠	JISC8841-3:2011	小形固体酸化物形燃料電池システム-第3部：性能試験方法及び環境試験方法	JISC8841-3:2011に準拠	

水準表 クラスNo.	区分		概要		クラス			トップ ランナー 制度 規定	認証対象	LD-Tech 水準	指標							
	技術分類	設備・機器等	原理・しくみ	条件	能力 (名称)	能力 (単位)	測定単位				計算方法			試験条件				
							単位				名称	評価方法の タイプ	準拠する 規格	規格の 名称	計算式	準拠する 規格	規格の 名称	説明
S-162003	コージェネ レーション	家庭用燃料電池 (エネファーム・ SOFC)	SOFC (固体酸化物形燃料電池) は、 電解質にセラミックスを用い、動作温度は 700～750℃である。発電効率が 24 時間運転が多い。ここでは、主に家 庭用として用いられる製品を取り扱う (現行販売製品の電気の定格出力は 1kW 以下)。	燃料：LPガ ス	-	-	-	● Oriented	85	%	総合効率	標準規格に よる評価	JISC8841 -3:2011	小形固体酸 化物形燃料 電池システ ム-第3 部：性能試 験方法及び 環境試験方 法	JISC8841-3:2011に準拠	JISC8841 -3:2011	小形固体酸 化物形燃料 電池システ ム-第3 部：性能試 験方法及び 環境試験方 法	JISC8841-3:2011に準拠
				燃料：LPガ ス	-	-	-	○ Oriented	51	%	発電効率	標準規格に よる評価	JISC8841 -3:2011	小形固体酸 化物形燃料 電池システ ム-第3 部：性能試 験方法及び 環境試験方 法	JISC8841-3:2011に準拠	JISC8841 -3:2011	小形固体酸 化物形燃料 電池システ ム-第3 部：性能試 験方法及び 環境試験方 法	JISC8841-3:2011に準拠
S-163001	その他	電気冷蔵庫	冷媒を用いて圧縮-凝縮-膨張-蒸発の 冷凍サイクルを繰り返すことにより庫内を 冷却する冷蔵庫。インバータ制御の高効 率コンプレッサーと熱伝導が小さい真空 断熱材を使用することにより消費電力量 を削減することが可能である。(大型冷 蔵庫の一部では既に採用されている) 冷媒と断熱材にフロンを使用していない 冷蔵庫のことを、ノンフロン冷蔵庫と呼 び、現在出荷されている家庭用冷蔵庫 のほとんどはインブタン(冷媒)、シクロペ ンタン(断熱材発泡剤)を使用したノン フロン冷蔵庫である。冷蔵庫の冷却方法 には直冷式と間冷式があり、一般に直冷 式のほうが効率が高い。しかし、日本は 湿度が高く、冷却器表面に霜がついて冷 却能力が落ちるため、間冷式が主流であ る。	-	-	-	■	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
S-164001	照明器具	LED照明器具 (家庭用)	蛍光灯や白熱灯と比較して高効率で長 寿命な白色LED(発光ダイオード)を光源 に使用した照明器具が普及している。 LED 照明は、主に直付け(シーリング)カ バー付型、ダウンライト型、電球型があ り、他にスポットライト型、ブラケット型など もある。LED 素子が器具に取り付けら れ、ランプ交換は無いものが大半である。 光の広がり(ビームの開き)を広くしたもの、 発光色を切り替えるもの等が登場してい る。一般的には、「温白色、電球色」より も「昼光色、昼白色、白色」の方がエネ ルギー効率 (lm/W) は高くなる。	-	-	-	■	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

水準表 クラスNo.	区分		概要		クラス			トップ ランナー 制度 規定	認証対象	LD-Tech 水準	指標							
	技術分類	設備・機器等	原理・しくみ	条件	能力 (名称)	能力 (単位)	測定単位				評価方法の タイプ	計算方法			試験条件			
							単位					名称	準拠する 規格	規格の 名称	計算式	準拠する 規格	規格の 名称	説明
S-165001	窓	Low-E複層ガラス (家庭用)	複層ガラスの中空層側のガラス面にLow-E金属膜をコーティングすることで放射による熱移動量を低減したガラス。断熱を行うことによって、より少ないエネルギーで空調を行うことができるようになる。主に住宅等に導入されている。	-	-	-	■	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
S-166001		三層Low-E複層ガラス (家庭用)	三層で構成される複層ガラスの中空層側のガラス面にLow-E金属膜をコーティングすることで放射による熱移動量を低減したガラス。断熱を行うことによって、より少ないエネルギーで空調を行うことができるようになる。主に住宅等に導入されている。	-	-	-	■	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
S-167001		真空Low-E複層ガラス (家庭用)	真空ガラスとLow-Eガラスを組み合わせた複層ガラスにすることで、放射による熱移動量を低減したガラス。断熱を行うことによって、より少ないエネルギーで空調を行うことができるようになる。主に住宅等に導入されている。	-	-	-	■	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
S-168001		アタッチメント付き Low-E複層ガラス (家庭用)	複層ガラスの中空層側のガラス面にLow-E金属膜をコーティングすることで放射による熱移動量を低減したガラス。アタッチメントにより、ガラス部分のみを既存サッシに取り付けられるため、大がかりな工事を必要としない。断熱を行うことによって、より少ないエネルギーで空調を行うことができるようになる。主に住宅等に導入されている。	-	-	-	■	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
S-169001		真空ガラス（家庭用）	2枚のガラスの間に真空層を設けることで、熱移動量を低減したガラス。断熱を行うことによって、より少ないエネルギーで空調を行うことができるようになる。主に住宅等に導入されている。	-	-	-	■	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
S-170001		現場施工型後付け Low-E複層ガラス (家庭用)	既存の窓ガラスの上からLow-Eガラスを貼ることで放射による熱移動量を低減したガラス。断熱を行うことによって、より少ないエネルギーで空調を行うことができるようになる。	リフォーム用	-	-	-	○	1.6	W/m <sup>2</sup> K	熱貫流率	標準規格による評価	JISR3107:2019及びJISR3209:2018	板ガラス類の熱抵抗及び建築における熱貫流率の算定方法及び複層ガラス	JISR3107:2019及びJISR3209:2018に準拠	JISR3107:2019及びJISR3209:2018	板ガラス類の熱抵抗及び建築における熱貫流率の算定方法及び複層ガラス	JISR3107:2019及びJISR3209:2018に準拠。ただし、LD-Tech水準は、FL6+A12+LE5のガラス構成における数値を示す。

水準表 クラスNo.	区分		概要		クラス			トップ ランナー 制度 規定	認証対象	LD-Tech 水準	指標								
	技術分類	設備・機器等	原理・しくみ	条件	能力 (名称)	能力 (単位)	測定単位				計算方法			試験条件					
							単位				名称	評価方法の タイプ	準拠する 規格	規格の 名称	計算式	準拠する 規格	規格の 名称	説明	
S-171001	窓	薄型Low-E複層ガラス（家庭用）	複層ガラスの中空層側のガラス面にLow-E金属膜をコーティングすることで放射による熱移動量を低減したガラス。アタッチメントを使用せずにガラス部分のみを既存サッシに取り付けることができる。断熱を行うことによって、より少ないエネルギーで空調を行うことができるようになる。主に住宅等に導入されている。	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
S-172001		Low-E複層ガラス・樹脂サッシ	複層ガラスの中空層側のガラス面にLow-E金属膜をコーティングすることで放射による熱移動量を低減したガラスと、樹脂製のサッシを組み合わせた窓。	FIX	-	-	-	●	1.27	W/m2K	熱貫流率	標準規格による評価	JISA4710:2015、 JISA2102-1:2015及び JISA2102-2:2011	建具の断熱性試験方法、窓及びドアの熱性能－熱貫流率の計算－第1部：一般及び窓及びドアの熱性能－熱貫流率の計算－第2部：フレームの数値計算方法	JISA4710:2015、 JISA2102-1:2015及び JISA2102-2:2011に準拠	JISA4710:2015、 JISA2102-1:2015及び JISA2102-2:2011	建具の断熱性試験方法、窓及びドアの熱性能－熱貫流率の計算－第1部：一般及び窓及びドアの熱性能－熱貫流率の計算－第2部：フレームの数値計算方法	JISA4710:2015、 JISA2102-1:2015及び JISA2102-2:2011に準拠。国立研究開発法人「住宅・建築物の省エネルギー基準及び低炭素建築物の認定基準に関する技術情報」に基づく代表試験体サイズによる認証を行う。代表試験体サイズで認証された場合は、全てのサイズにおいて認証を適用する。	
S-172002				引き違い	-	-	-	●	1.35	W/m2K	熱貫流率	標準規格による評価	JISA4710:2015、 JISA2102-1:2015及び JISA2102-2:2011	建具の断熱性試験方法、窓及びドアの熱性能－熱貫流率の計算－第1部：一般及び窓及びドアの熱性能－熱貫流率の計算－第2部：フレームの数値計算方法	JISA4710:2015、 JISA2102-1:2015及び JISA2102-2:2011に準拠	JISA4710:2015、 JISA2102-1:2015及び JISA2102-2:2011	建具の断熱性試験方法、窓及びドアの熱性能－熱貫流率の計算－第1部：一般及び窓及びドアの熱性能－熱貫流率の計算－第2部：フレームの数値計算方法	JISA4710:2015、 JISA2102-1:2015及び JISA2102-2:2011に準拠。国立研究開発法人「住宅・建築物の省エネルギー基準及び低炭素建築物の認定基準に関する技術情報」に基づく代表試験体サイズによる認証を行う。代表試験体サイズで認証された場合は、全てのサイズにおいて認証を適用する。	

水準表 クラスNo.	区分		概要		クラス			トップ ランナー 制度 規定	認証対象	LD-Tech 水準	指標							
	技術分類	設備・機器等	原理・しくみ	条件	能力 (名称)	能力 (単位)	測定単位				計算方法			試験条件				
							単位				名称	評価方法の タイプ	準拠する 規格	規格の 名称	計算式	準拠する 規格	規格の 名称	説明
S-172003	窓	Low-E複層ガラス・ 樹脂サッシ	複層ガラスの中空層側のガラス面に Low-E金属膜をコーティングすることで放 射による熱移動量を低減したガラスと、樹 脂製のサッシを組み合わせた窓。	縦すべり出し	-	-	-	●	1.27	W/m2K	熱貫流率	標準規格に よる評価	JISA4710 :2015、 JISA2102 -1:2015及 び JISA2102 -2:2011	建具の断熱 性試験方 法、窓及び ドアの熱性 能－熱貫流 率の計算－ 第1部：一 般及び窓及 びドアの熱 性能－熱貫 流率の計算 －第2部： フレームの数 値計算方法	JISA4710:2015、 JISA2102-1:2015及び JISA2102-2:2011に準拠	JISA4710 :2015、 JISA2102 -1:2015及 び JISA2102 -2:2011	建具の断熱 性試験方 法、窓及び ドアの熱性 能－熱貫流 率の計算－ 第1部：一 般及び窓及 びドアの熱 性能－熱貫 流率の計算 －第2部： フレームの数 値計算方法	JISA4710:2015、 JISA2102-1:2015及び JISA2102-2:2011に準 拠。国立研究開発法人 建 築研究所ホームページ内「住 宅・建築物の省エネルギー基 準及び低炭素建築物の認定 基準に関する技術情報」に基 づく代表試験体サイズによる認 証を行う。代表試験体サイズ で認証された場合は、全ての サイズにおいて認証を適用す る。
S-173001		Low-E複層ガラス・ アルミ樹脂複合サ ッシ	複層ガラスの中空層側のガラス面に Low-E金属膜をコーティングすることで放 射による熱移動量を低減したガラスと、ア ルミ樹脂複合サッシを組み合わせた窓。 アルミ樹脂複合サッシは、アルミ製（室外 側）と樹脂製（室内側）のサッシを室 内側の結露の発生の軽減や断熱性の向 上を目的に一体化したものである。	FIX	-	-	-	●	1.44	W/m2K	熱貫流率	標準規格に よる評価	JISA4710 :2015、 JISA2102 -1:2015及 び JISA2102 -2:2011	建具の断熱 性試験方 法、窓及び ドアの熱性 能－熱貫流 率の計算－ 第1部：一 般及び窓及 びドアの熱 性能－熱貫 流率の計算 －第2部： フレームの数 値計算方法	JISA4710:2015、 JISA2102-1:2015及び JISA2102-2:2011に準拠	JISA4710 :2015、 JISA2102 -1:2015及 び JISA2102 -2:2011	建具の断熱 性試験方 法、窓及び ドアの熱性 能－熱貫流 率の計算－ 第1部：一 般及び窓及 びドアの熱 性能－熱貫 流率の計算 －第2部： フレームの数 値計算方法	JISA4710:2015、 JISA2102-1:2015及び JISA2102-2:2011に準 拠。国立研究開発法人 建 築研究所ホームページ内「住 宅・建築物の省エネルギー基 準及び低炭素建築物の認定 基準に関する技術情報」に基 づく代表試験体サイズによる認 証を行う。代表試験体サイズ で認証された場合は、全ての サイズにおいて認証を適用す る。
S-173002				引き違い	-	-	-	●	1.62	W/m2K	熱貫流率	標準規格に よる評価	JISA4710 :2015、 JISA2102 -1:2015及 び JISA2102 -2:2011	建具の断熱 性試験方 法、窓及び ドアの熱性 能－熱貫流 率の計算－ 第1部：一 般及び窓及 びドアの熱 性能－熱貫 流率の計算 －第2部： フレームの数 値計算方法	JISA4710:2015、 JISA2102-1:2015及び JISA2102-2:2011に準拠	JISA4710 :2015、 JISA2102 -1:2015及 び JISA2102 -2:2011	建具の断熱 性試験方 法、窓及び ドアの熱性 能－熱貫流 率の計算－ 第1部：一 般及び窓及 びドアの熱 性能－熱貫 流率の計算 －第2部： フレームの数 値計算方法	JISA4710:2015、 JISA2102-1:2015及び JISA2102-2:2011に準 拠。国立研究開発法人 建 築研究所ホームページ内「住 宅・建築物の省エネルギー基 準及び低炭素建築物の認定 基準に関する技術情報」に基 づく代表試験体サイズによる認 証を行う。代表試験体サイズ で認証された場合は、全ての サイズにおいて認証を適用す る。



水準表 クラスNo.	区分		概要		クラス			トップ ランナー 制度 規定	認証対象	LD-Tech 水準	指標							
	技術分類	設備・機器等	原理・しくみ	条件	能力 (名称)	能力 (単位)	測定単位				計算方法			試験条件				
							単位				名称	評価方法の タイプ	準拠する 規格	規格の 名称	計算式	準拠する 規格	規格の 名称	説明
S-173003	窓	Low-E複層ガラス・アルミ樹脂複合サッシ	複層ガラスの中空層側のガラス面にLow-E金属膜をコーティングすることで放射による熱移動量を低減したガラスと、アルミ樹脂複合サッシを組み合わせた窓。アルミ樹脂複合サッシは、アルミ製（室外側）と樹脂製（室内側）のサッシを室内側の結露の発生を軽減や断熱性の向上を目的に一体化したものである。	縦すべり出し	-	-	-	●	1.44	W/m2K	熱貫流率	標準規格による評価	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011	建具の断熱性試験方法、窓及びドアの熱性能－熱貫流率の計算－第1部：一般及び窓及びドアの熱性能－熱貫流率の計算－第2部：フレームの数値計算方法	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011に準拠	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011	建具の断熱性試験方法、窓及びドアの熱性能－熱貫流率の計算－第1部：一般及び窓及びドアの熱性能－熱貫流率の計算－第2部：フレームの数値計算方法	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011に準拠。国立研究開発法人「住宅・建築物の省エネルギー基準及び低炭素建築物の認定基準に関する技術情報」に基づく代表試験体サイズによる認証を行う。代表試験体サイズで認証された場合は、全てのサイズにおいて認証を適用する。
S-174001		三層Low-E複層ガラス・樹脂サッシ	三層で構成される複層ガラスの中空層側のガラス面にLow-E金属膜をコーティングすることで放射による熱移動量を低減したガラスと、樹脂製のサッシを組み合わせた窓。	FIX	-	-	-	●	0.74	W/m2K	熱貫流率	標準規格による評価	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011	建具の断熱性試験方法、窓及びドアの熱性能－熱貫流率の計算－第1部：一般及び窓及びドアの熱性能－熱貫流率の計算－第2部：フレームの数値計算方法	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011に準拠	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011	建具の断熱性試験方法、窓及びドアの熱性能－熱貫流率の計算－第1部：一般及び窓及びドアの熱性能－熱貫流率の計算－第2部：フレームの数値計算方法	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011に準拠。国立研究開発法人「住宅・建築物の省エネルギー基準及び低炭素建築物の認定基準に関する技術情報」に基づく代表試験体サイズによる認証を行う。代表試験体サイズで認証された場合は、全てのサイズにおいて認証を適用する。
S-174002				引き違い	-	-	-	●	1.06	W/m2K	熱貫流率	標準規格による評価	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011	建具の断熱性試験方法、窓及びドアの熱性能－熱貫流率の計算－第1部：一般及び窓及びドアの熱性能－熱貫流率の計算－第2部：フレームの数値計算方法	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011に準拠	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011	建具の断熱性試験方法、窓及びドアの熱性能－熱貫流率の計算－第1部：一般及び窓及びドアの熱性能－熱貫流率の計算－第2部：フレームの数値計算方法	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011に準拠。国立研究開発法人「住宅・建築物の省エネルギー基準及び低炭素建築物の認定基準に関する技術情報」に基づく代表試験体サイズによる認証を行う。代表試験体サイズで認証された場合は、全てのサイズにおいて認証を適用する。

水準表 クラスNo.	区分		概要		クラス			トップ ランナー 制度 規定	認証対象	LD-Tech 水準	指標							
	技術分類	設備・機器等	原理・しくみ	条件	能力 (名称)	能力 (単位)	測定単位				計算方法			試験条件				
							単位				名称	評価方法の タイプ	準拠する 規格	規格の 名称	計算式	準拠する 規格	規格の 名称	説明
S-174003	窓	三層Low-E複層ガラス・樹脂サッシ	三層で構成される複層ガラスの中空層側のガラス面にLow-E金属膜をコーティングすることで放射による熱移動量を低減したガラスと、樹脂製のサッシを組み合わせた窓。	縦すべり出し	-	-	-	●	0.79	W/m2K	熱貫流率	標準規格による評価	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011	建具の断熱性試験方法、窓及びドアの熱性能-熱貫流率の計算-第1部:一般及び窓及びドアの熱性能-熱貫流率の計算-第2部:フレームの数値計算方法	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011に準拠	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011	建具の断熱性試験方法、窓及びドアの熱性能-熱貫流率の計算-第1部:一般及び窓及びドアの熱性能-熱貫流率の計算-第2部:フレームの数値計算方法	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011に準拠。国立研究開発法人「住宅・建築物の省エネルギー基準」に関する技術情報「住宅・建築物の省エネルギー基準」に基づく代表試験体サイズによる認証を行う。代表試験体サイズで認証された場合は、全てのサイズにおいて認証を適用する。
S-175001		三層Low-E複層ガラス・アルミ樹脂複合サッシ	三層で構成される複層ガラスの中空層側のガラス面にLow-E金属膜をコーティングすることで放射による熱移動量を低減したガラスと、アルミ樹脂複合サッシを組み合わせた窓。アルミ樹脂複合サッシは、アルミ製（室外側）と樹脂製（室内側）のサッシを室内側の結露の発生軽減や断熱性の向上を目的に一体化したものである。	FIX	-	-	-	●	0.98	W/m2K	熱貫流率	標準規格による評価	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011	建具の断熱性試験方法、窓及びドアの熱性能-熱貫流率の計算-第1部:一般及び窓及びドアの熱性能-熱貫流率の計算-第2部:フレームの数値計算方法	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011に準拠	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011	建具の断熱性試験方法、窓及びドアの熱性能-熱貫流率の計算-第1部:一般及び窓及びドアの熱性能-熱貫流率の計算-第2部:フレームの数値計算方法	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011に準拠。国立研究開発法人「住宅・建築物の省エネルギー基準」に関する技術情報「住宅・建築物の省エネルギー基準」に基づく代表試験体サイズによる認証を行う。代表試験体サイズで認証された場合は、全てのサイズにおいて認証を適用する。
S-175002				引き違い	-	-	-	●	1.16	W/m2K	熱貫流率	標準規格による評価	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011	建具の断熱性試験方法、窓及びドアの熱性能-熱貫流率の計算-第1部:一般及び窓及びドアの熱性能-熱貫流率の計算-第2部:フレームの数値計算方法	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011に準拠	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011	建具の断熱性試験方法、窓及びドアの熱性能-熱貫流率の計算-第1部:一般及び窓及びドアの熱性能-熱貫流率の計算-第2部:フレームの数値計算方法	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011に準拠。国立研究開発法人「住宅・建築物の省エネルギー基準」に関する技術情報「住宅・建築物の省エネルギー基準」に基づく代表試験体サイズによる認証を行う。代表試験体サイズで認証された場合は、全てのサイズにおいて認証を適用する。

水準表 クラスNo.	区 分			概 要			クラス			トップ ランナー 制度 規定	認証対象	LD-Tech 水準	指標					
	技術分類	設備・機器等	原理・しくみ	条件	能力 (名称)	能力 (単位)	測定単位		計算方法				試験条件					
							単位	名称	評価方法の タイプ				準拠する 規格	規格の 名称	計算式	準拠する 規格	規格の 名称	説明
S-175003	窓	三層Low-E複層ガラス・アルミ樹脂複合サッシ	三層で構成される複層ガラスの中空層側のガラス面にLow-E金属膜をコーティングすることで放射による熱移動量を低減したガラスと、アルミ樹脂複合サッシを組み合わせた窓。アルミ樹脂複合サッシは、アルミ製（室外側）と樹脂製（室内側）のサッシを室内側の結露の発生の軽減や断熱性の向上を目的に一体化したものである。	縦すべり出し	-	-	-	●	0.98	W/m2K	熱貫流率	標準規格による評価	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011	建具の断熱性試験方法、窓及びドアの熱性能－熱貫流率の計算－第1部：一般及び窓及びドアの熱性能－熱貫流率の計算－第2部：フレームの数値計算方法	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011に準拠	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011	建具の断熱性試験方法、窓及びドアの熱性能－熱貫流率の計算－第1部：一般及び窓及びドアの熱性能－熱貫流率の計算－第2部：フレームの数値計算方法	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011に準拠。国立研究開発法人「住宅・建築物の省エネルギー基準に関する技術情報」に基づく代表試験体サイズによる認証を行う。代表試験体サイズで認証された場合は、全てのサイズにおいて認証を適用する。
S-176001		五層Low-E複層ガラス・樹脂サッシ	樹脂（塩化ビニル等）等の熱伝導率が低いフレームと、多層の密閉中空層をもったガラスからなる。中空層には断熱ガス（アルゴンガス、クリプトンガス等）を充填することでガラスの熱伝導率の高さを補う構造。現在日本国内では、樹脂フレームを用いた開口部には断熱性能が低いものから順に、1枚のガラスを用いたもの、2枚のガラス（一つの密閉中空層）を用いたもの、3枚のガラス（二つの密閉中空層）を用いたもの、5枚のガラス（四つの密閉中空層）を用いたものが使用されており、2枚のガラスを用いたものが最も多く流通している。今後は省エネ基準義務化等が予定されていることから、さらなるガラスの多層化が予想される。従来品と比較して高い断熱性能を持つことから、特に寒冷地の戸建住宅への採用に相応しい。	FIX	-	-	-	●	0.55	W/m2K	熱貫流率	標準規格による評価	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011	建具の断熱性試験方法、窓及びドアの熱性能－熱貫流率の計算－第1部：一般及び窓及びドアの熱性能－熱貫流率の計算－第2部：フレームの数値計算方法	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011に準拠	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011	建具の断熱性試験方法、窓及びドアの熱性能－熱貫流率の計算－第1部：一般及び窓及びドアの熱性能－熱貫流率の計算－第2部：フレームの数値計算方法	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011に準拠。国立研究開発法人「住宅・建築物の省エネルギー基準に関する技術情報」に基づく代表試験体サイズによる認証を行う。代表試験体サイズで認証された場合は、全てのサイズにおいて認証を適用する。
S-176002				引き違い	-	-	-	-	-	W/m2K	熱貫流率	標準規格による評価	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011	建具の断熱性試験方法、窓及びドアの熱性能－熱貫流率の計算－第1部：一般及び窓及びドアの熱性能－熱貫流率の計算－第2部：フレームの数値計算方法	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011に準拠	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011	建具の断熱性試験方法、窓及びドアの熱性能－熱貫流率の計算－第1部：一般及び窓及びドアの熱性能－熱貫流率の計算－第2部：フレームの数値計算方法	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011に準拠。国立研究開発法人「住宅・建築物の省エネルギー基準に関する技術情報」に基づく代表試験体サイズによる認証を行う。代表試験体サイズで認証された場合は、全てのサイズにおいて認証を適用する。

水準表 クラスNo.	区分		概要		クラス			トップ ランナー 制度 規定	認証対象	LD-Tech 水準	指標							
	技術分類	設備・機器等	原理・しくみ	条件	能力 (名称)	能力 (単位)	測定単位				計算方法			試験条件				
							単位				名称	評価方法の タイプ	準拠する 規格	規格の 名称	計算式	準拠する 規格	規格の 名称	説明
S-176003	窓	五層Low-E複層ガラス・樹脂サッシ	樹脂（塩化ビニル等）等の熱伝導率が低いフレームと、多層の密閉中空層をもったガラスからなる。中空層には断熱ガス（アルゴンガス、クリプトンガス等）を充填することでガラスの熱伝導率の高さを補う構造。現在日本国内では、樹脂フレームを用いた開口部には断熱性能が低いものから順に、1枚のガラスを用いたもの、2枚のガラス（一つの密閉中空層）を用いたもの、3枚のガラス（二つの密閉中空層）を用いたもの、5枚のガラス（四つの密閉中空層）を用いたものが使用されており、2枚のガラスを用いたものが最も多く流通している。今後は省エネ基準義務化等が予定されていることから、さらなるガラスの多層化が予想される。従来品と比較して高い断熱性能を持つことから、特に寒冷地の戸建住宅への採用に相応しい。	縦すべり出し	-	-	-	●	0.55	W/m2K	熱貫流率	標準規格による評価	JISA4710:2015、 JISA2102-1:2015及び JISA2102-2:2011	建具の断熱性試験方法、窓及びドアの熱性能－熱貫流率の計算－第1部：一般及び窓及びドアの熱性能－熱貫流率の計算－第2部：フレームの数値計算方法	JISA4710:2015、 JISA2102-1:2015及び JISA2102-2:2011に準拠	JISA4710:2015、 JISA2102-1:2015及び JISA2102-2:2011	建具の断熱性試験方法、窓及びドアの熱性能－熱貫流率の計算－第1部：一般及び窓及びドアの熱性能－熱貫流率の計算－第2部：フレームの数値計算方法	JISA4710:2015、 JISA2102-1:2015及び JISA2102-2:2011に準拠。国立研究開発法人「住宅・建築物の省エネルギー基準に関する技術情報」に基づく代表試験体サイズによる認証を行う。代表試験体サイズで認証された場合は、全てのサイズにおいて認証を適用する。
S-177001		真空ガラス・樹脂サッシ	2枚のガラスの間に真空層を設けることで、熱移動量を低減したガラスと樹脂サッシを組み合わせた窓。	FIX※右記の水準は、一般社団法人リビングアグアメニティ協会が提供する、窓の断熱性能プログラム「WindEye」を用いて算出	-	-	-	○	1.09	W/m2K	熱貫流率	標準規格による評価	JISA4710:2015、 JISA2102-1:2015及び JISA2102-2:2011	建具の断熱性試験方法、窓及びドアの熱性能－熱貫流率の計算－第1部：一般及び窓及びドアの熱性能－熱貫流率の計算－第2部：フレームの数値計算方法	JISA4710:2015、 JISA2102-1:2015及び JISA2102-2:2011に準拠	JISA4710:2015、 JISA2102-1:2015及び JISA2102-2:2011	建具の断熱性試験方法、窓及びドアの熱性能－熱貫流率の計算－第1部：一般及び窓及びドアの熱性能－熱貫流率の計算－第2部：フレームの数値計算方法	JISA4710:2015、 JISA2102-1:2015及び JISA2102-2:2011に準拠。国立研究開発法人「住宅・建築物の省エネルギー基準に関する技術情報」に基づく代表試験体サイズによる認証を行う。代表試験体サイズで認証された場合は、全てのサイズにおいて認証を適用する。
S-177002				引き違い※右記の水準は、一般社団法人リビングアグアメニティ協会が提供する、窓の断熱性能プログラム「WindEye」を用いて算出	-	-	-	○	1.38	W/m2K	熱貫流率	標準規格による評価	JISA4710:2015、 JISA2102-1:2015及び JISA2102-2:2011	建具の断熱性試験方法、窓及びドアの熱性能－熱貫流率の計算－第1部：一般及び窓及びドアの熱性能－熱貫流率の計算－第2部：フレームの数値計算方法	JISA4710:2015、 JISA2102-1:2015及び JISA2102-2:2011に準拠	JISA4710:2015、 JISA2102-1:2015及び JISA2102-2:2011	建具の断熱性試験方法、窓及びドアの熱性能－熱貫流率の計算－第1部：一般及び窓及びドアの熱性能－熱貫流率の計算－第2部：フレームの数値計算方法	JISA4710:2015、 JISA2102-1:2015及び JISA2102-2:2011に準拠。国立研究開発法人「住宅・建築物の省エネルギー基準に関する技術情報」に基づく代表試験体サイズによる認証を行う。代表試験体サイズで認証された場合は、全てのサイズにおいて認証を適用する。

水準表 クラスNo.	区分			概要			クラス			LD-Tech 水準	指標									
	技術分類	設備・機器等	原理・しくみ	条件	能力 (名称)	能力 (単位)	トップ ランナー 制度 規定	認証対象	測定単位		計算方法				試験条件					
									単位		名称	評価方法の タイプ	準拠する 規格	規格の 名称	計算式	準拠する 規格	規格の 名称	説明		
S-177003	窓	真空ガラス・樹脂 サッシ	2枚のガラスの間に真空層を設けること で、熱移動量を低減したガラスと樹脂サッ シを組み合わせた窓。	縦すべり出し ※右記の水 準は、一般 社団法人リ ビングアメ ニティ協会が 提供する、 窓の断熱性 能プログラム 「WindEye 」を用いて算 出	-	-	-	○	1.19	W/m2K	熱貫流率	標準規格に よる評価	JISA4710 :2015、 JISA2102 -1:2015及 び JISA2102 -2:2011	建具の断熱 性試験方 法、窓及び ドアの熱性 能－熱貫流 率の計算－ 第1部：一 般及び窓及 びドアの熱 性能－熱貫 流率の計算 －第2部： フレームの数 値計算方法	JISA4710:2015、 JISA2102-1:2015及び JISA2102-2:2011に準拠	JISA4710 :2015、 JISA2102 -1:2015及 び JISA2102 -2:2011	建具の断熱 性試験方 法、窓及び ドアの熱性 能－熱貫流 率の計算－ 第1部：一 般及び窓及 びドアの熱 性能－熱貫 流率の計算 －第2部： フレームの数 値計算方法	JISA4710:2015、 JISA2102-1:2015及び JISA2102-2:2011に準 拠。国立研究開発法人 建 築研究所ホームページ内「住 宅・建築物の省エネルギー基 準及び低炭素建築物の認定 基準に関する技術情報」に基 づく代表試験体サイズによる認 証を行う。代表試験体サイズ で認証された場合は、全ての サイズにおいて認証を適用す る。		
S-178001	その他	金属製玄関ドア	住宅の玄関に使用する、アルミニウムまた はスチールを主材料としたドアにおいて、 枠の内側に樹脂を使用して中空部に断 熱材を充填、また扉も同様中空部に断 熱材を充填する事で玄関ドアの熱貫流 率を低くすることができる。熱貫流率が低 い製品ほど冷暖房負荷及びCO2排出 量が削減できる。	-	-	-	●	0.89	W/m2K	熱貫流率	標準規格に よる評価	JISA2102 -1:2015及 び JISA2102 -2:2011	窓及びドア の熱性能－ 熱貫流率の 計算－第1 部：一般、 窓及びドア の熱性能－ 熱貫流率の 計算－第2 部：フレー ムの数値計 算方法	JISA2102-1:2015及び JISA2102-2:2011に準 拠。国立研究開発法人 建 築研究所ホームページ内「住 宅・建築物の省エネルギー基 準及び低炭素建築物の認定 基準に関する技術情報」に基 づく代表試験体サイズによる認 証を行う。代表試験体サイズ で認証された場合は、全ての サイズにおいて認証を適用す る。	JISA4710 :2015	建具の断熱 性試験方法	JISA4710:2015に準拠。国 立研究開発法人 建築研究 所ホームページ内「住宅・建 築物の省エネルギー基準及び低 炭素建築物の認定基準に関 する技術情報」に基づく代表 試験体サイズによる認証を行 う。代表試験体サイズで認証 された場合は、全てのサイズ において認証を適用する。			
S-181001	断熱材	真空断熱材（家 庭用）	家庭用冷蔵庫に使用されている、真空 断熱材を使用した断熱材。従来の断熱 材と比較して薄いため、天井や壁、床等 への部分断熱等のリフォーム（内貼断熱 工法）に向く。	-	-	-	○	0.002	* W/m・K	熱伝導率	標準規格に よる評価	JISA1412 :2016	熱絶縁材の 熱抵抗及び 熱伝導率の 測定方法	JISA1412:2016に準拠	JISA1412 :2016	熱絶縁材の 熱抵抗及び 熱伝導率の 測定方法	JISA1412:2016に準拠			
S-182001	その他	洗濯乾燥機	洗濯乾燥機とは、洗濯機と衣類乾燥機 が一体化した機器である。ヒートポンプシ ステム(ユニット)が熱交換した熱で衣類を 乾燥し、乾燥時に発生する水蒸気もヒート ポンプシステム(ユニット)により冷却して 除湿している。乾燥時の温度は約70℃ 前後である。	-	-	-	○	0.59	kWh/回	消費電力量	標準規格に よる評価	-	一般社団法 人日本電機 工業会・自 主基準「洗 濯性能評価 方法」「乾燥 性能評価方 法」	一般社団法人日本電機工業 会・自主基準「洗濯性能評価 方法」「乾燥性能評価方法」 で定める計算式	-	一般社団法 人日本電機 工業会・自 主基準「洗 濯性能評価 方法」「乾燥 性能評価方 法」	一般社団法人日本電機工業 会・自主基準「洗濯性能評価 方法」「乾燥性能評価方法」 で定める試験条件			

水準表 クラスNo.	区分		概要		クラス			トップ ランナー 制度 規定	認証対象	LD-Tech 水準	指標							
	技術分類	設備・機器等	原理・しくみ	条件	能力 (名称)	能力 (単位)	測定単位				計算方法			試験条件				
							単位				名称	評価方法の タイプ	準拠する 規格	規格の 名称	計算式	準拠する 規格	規格の 名称	説明
S-186001	エネルギー マネジメント システム	HEMS（情報提供 サービス・家電全 般）	一般家庭等での省エネ効果を高めるエ ネルギー管理システム、及び同システムを 用いたサービスのうち、家庭全体のエネル ギー消費状況の把握や省エネ・節電を 目的とした情報提供サービス。	-	-	-	-	○	別紙参照 *	-	-	具備機能に よる評価	-	-	-	-	-	-
S-187001	空調機 (ヒートポン プ)	ルームエアコン	冷媒による圧縮-凝縮-膨張-蒸発のヒー トポンプサイクルを繰り返すことにより、室 内を冷房あるいは暖房する空気調和 機。	-	-	-	■	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
S-189001		ヒートポンプ冷温水 システム	空気熱源を利用するヒートポンプ式の冷 温水冷暖房機。暖房時はコンプレッサで 圧縮した気相冷媒を凝縮器で凝縮させ ることにより温熱を、冷房時は圧縮-凝縮 -膨張後の液相冷媒を蒸発器で蒸発さ せることにより冷熱を得る。ヒートポンプ方 式を採用しているため、冷温熱を高効率 に得ることができる。従来は灯油を燃焼さ せ暖房するため、一般的なボイラーの効 率が80%であるのに対し、ヒートポンプ方 式を用いることで高い効率となる。導入 先は主に家庭向けとなる。	-	加熱能力	4.0kW以 下	-	-	-	-	成績係数 (COP)	標準条件に よる評価	-	-	COP=Φ/P、COP:成績係 数、Φ:定格能力[W]、P:定 格消費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあ たっては、戻り水温(入水温 度)、行き水温(出湯温度)、 乾球温度、湿球温度を次のと り設定することを条件とす る。戻り水温(入水温度)： 25℃、行き水温(出湯温 度)：40℃、乾球温度： 7℃、湿球温度：6℃
S-189002						4.0kW超 6.0kW以 下	-	-	-									
S-189003						6.0kW超 7.0kW以 下	-	-	-									
S-189004						7kW超 12kW以下	-	-	-									
S-189005						12.0kW超	-	-	-									

水準表 クラスNo.	区 分			概 要			クラス			トッ プ ラン ナ ー 制 度 規 定	認 証 対 象	LD-Tech 水 準	指 標					
	技術分類	設備・機器等	原理・しくみ	条件	能力 (名称)	能力 (単位)	測定単位		計算方法				試験条件					
							単位	名称	評価方法の タイプ				準拠する 規格	規格の 名称	計算式	準拠する 規格	規格の 名称	説明
S-189006	空調機 (ヒートポン プ)	ヒートポンプ冷温水 システム	空気熱源を利用するヒートポンプ式の冷 温水冷暖房機。暖房時はコンプレッサで 圧縮した気相冷媒を凝縮器で凝縮させ ることにより温熱を、冷房時は圧縮-凝縮 -膨張後の液相冷媒を蒸発器で蒸発さ せることにより冷熱を得る。ヒートポンプ方 式を採用しているため、冷温熱を高効率 に得ることができる。従来は灯油を燃焼さ せ暖房するため、一般的なボイラーの効 率が80%であるのに対し、ヒートポンプ方 式を用いることで高い効率となる。導入 先は主に家庭向けとなる。	往き水温 (出湯温 度) 7℃	冷却能力	4.0kW以 下	-	○	3	-	成績係数 (COP)	標準条件に よる評価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消 費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあ たっては、戻り水温(入水温 度)、往き水温(出湯温度)、 乾球温度を以下のとおり設定 することを条件とする。戻り水 温(入水温度): 12℃ 往 き水温(出湯温度): 7℃ 乾球温度: 35℃
4.0kW超 5.6kW以 下						-	○	2.84										
5.6kW超 7.2kW以 下						-	○	3										
7.2kW超						-	-	-										
S-190001	ヒートポンプ式温水 床暖房	空気熱源ヒートポンプ式の温水暖房機。 コンプレッサで圧縮した気相冷媒を冷 媒/水熱交換器内で凝縮させることによ り温熱を得る。四方弁の切り替えによ り冷熱を供給するタイプも存在する。ヒート ポンプ方式を採用しているため、温熱を 高効率に得ることができる。	-	加熱能力	5kW以下	-	○	4.62	*	成績係数 (COP)	標準条件に よる評価	-	-	COP=Φ/P、COP:成績係 数、Φ:定格能力[W]、P:定 格消費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあ たっては、戻り水温(入水温 度)、往き水温(出湯温度)、 乾球温度、湿球温度を次のと おり設定することを条件とす る。戻り水温(入水温度): 25℃、往き水温(出湯温 度): 40℃、乾球温度: 7℃、湿球温度: 6℃	
5kW超 7kW以下					-	○	4.32	*										
7kW超 10kW以下					-	○	4.16	*										
10kW超					-	○	4.3	*										

水準表 クラスNo.	区分		概要		クラス			トップ ランナー 制度 規定	認証対象	LD-Tech 水準	指標							
	技術分類	設備・機器等	原理・しくみ	条件	能力 (名称)	能力 (単位)	測定単位				計算方法			試験条件				
							単位				名称	評価方法の タイプ	準拠する 規格	規格の 名称	計算式	準拠する 規格	規格の 名称	説明
S-191001	空調機 (ヒートポン プ)	ルームエアコン付温 水床暖房	空気熱源ヒートポンプに温水床暖房ユニットとルームエアコンデシヨナが付加された機器。暖房時は床暖房とエアコンの組み合わせ運転を主に行う。負荷の大きな立ち上がり時にはエアコンで急速暖房を行い、床暖房の高温送水による効率の低下を抑制。安定時には床暖房の送水温度を下げるとともに、エアコンも省エネ運転とするなどの制御により高効率化を図る。冷房時はエアコンの単独運転となる。	床暖房、エアコン同時 運転	加熱能力	5.0kW	-	○	4.5	-	成績係数 (COP)	標準条件による評価	-	-	COP=Φ/P、COP:成績係数、Φ:定格能力[W]、P:定格消費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、戻り水温(入水温度)、往き水温(出湯温度)、乾球温度、湿球温度を次のとおり設定することを条件とする。戻り水温(入水温度): 30℃、往き水温(出湯温度): 35℃、乾球温度: 7℃、湿球温度: 6℃
S-191002						6.7kW	-	○	4.32									
S-191003		ルームエアコン付温 水床暖房	空気熱源ヒートポンプに温水床暖房ユニットとルームエアコンデシヨナが付加された機器。暖房時は床暖房とエアコンの組み合わせ運転を主に行う。負荷の大きな立ち上がり時にはエアコンで急速暖房を行い、床暖房の高温送水による効率の低下を抑制。安定時には床暖房の送水温度を下げるとともに、エアコンも省エネ運転とするなどの制御により高効率化を図る。冷房時はエアコンの単独運転となる。	床暖房単独 運転	加熱能力	8.7kW	-	○	4.16	-	成績係数 (COP)	標準条件による評価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数、Φ:定格能力[W] P:定格消費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、戻り水温(入水温度)、往き水温(出湯温度)、乾球温度、湿球温度を以下のとおり設定することを条件とする。戻り水温(入水温度): 25℃ 往き水温(出湯温度): 40℃ 乾球温度: 7℃ 湿球温度: 6℃
S-192001		マルチタイプ温水床 暖房	複数の部屋に設置された温水床暖房ユニットやルームエアコンデシヨナ等と空気熱源ヒートポンプを組み合わせて使用する機器。1台の空気熱源ヒートポンプが複数の部屋の空調機器に接続できるため、高効率化が可能。	-	1室運転時 加熱能力	5.0kW	-	○	3.9	-	成績係数 (COP)	標準条件による評価	-	-	COP=Φ/P、COP:成績係数、Φ:定格能力[W]、P:定格消費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、戻り水温(入水温度)、往き水温(出湯温度)、乾球温度、湿球温度を次のとおり設定することを条件とする。戻り水温(入水温度): 25℃、往き水温(出湯温度): 40℃、乾球温度: 7℃、湿球温度: 6℃
S-192002						7.0kW	-	○	3.91									



水準表 クラスNo.	区分		概要		クラス			トップ ランナー 制度 規定	認証対象	LD-Tech 水準	指標								
	技術分類	設備・機器等	原理・しくみ	条件	能力 (名称)	能力 (単位)	測定単位				計算方法			試験条件					
							単位				名称	評価方法の タイプ	準拠する 規格	規格の 名称	計算式	準拠する 規格	規格の 名称	説明	
S-193001	空調機 (ヒートポン プ・地中熱 利用)	地中熱ルームエアコ ン	地中熱を利用し、冷媒による圧縮-凝縮- 膨張-蒸発のヒートポンプサイクルを繰り 返すことにより、室内を冷房あるいは暖房 する空気調和機。冬季は外気温度より 高い温度の熱源を、夏季は外気温度より 低い温度の熱源を利用することで年間 を通じて高効率な運転が可能。	-	冷房能力	4.0kW	-	○	4	-	成績係数 (COP)	標準条件に よる評価	-	-	JISC9612:2005に準拠	JISC9612 :2013	ルームエアコ ンディショナ	JISC9612:2005に準拠。た だし、地中戻り温度(採熱温 度)については20℃とする。	
S-194001		地中熱ヒートポン プ冷水システム (ハイブリッド式)	空気熱源と地中熱源の2種類の熱源の 切り替えが可能なヒートポンプ式の冷温 水冷暖房機。圧縮-凝縮-膨張-蒸発の ヒートポンプサイクルを利用して、冷暖房 するシステム。暖房時はコンプレッサで圧 縮した気相冷媒を凝縮器で冷媒/水熱 交換器内で凝縮させることでより温熱 を、冷房時は圧縮-凝縮-膨張後の液相 冷媒を蒸発器で液相冷媒を冷媒/水 熱交換器内で蒸発させることでより冷 熱を得る。ヒートポンプ方式を採用してい るため、冷温熱を高効率に得ることができ る。従来型は灯油を燃焼し暖房するた め、一般的なボイラーの効率80%であ るのに対し、ヒートポンプ方式を用いるこ とで高い効率となる。導入先は主に家庭 向けとなる。	-	加熱能力	8.0kW	-	○	5.19	-	成績係数 (COP)	標準条件に よる評価	-	-	COP=Φ/P、COP:成績係 数、Φ:定格能力[W]、P:定 格消費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあ たっては、地中戻り水温(入水 温度)、行き水温(出湯温 度)、乾球温度、湿球温度を 次のとおり設定することを条件 とする。地中戻り温度(採熱 温度) : 15℃、行き水温 (出湯温度) : 40℃、乾球温 度 : 7℃、湿球温度 : 6℃	
S-194002						11.0kW	-	○	5										
S-195001	空調機 (ベ レットストー プ)	密閉式ベレットス トープ (家庭用)	木質ペレットを燃料とする燃焼機器。木 質ペレットを燃焼させた熱を熱交換器に より室内の空気に伝え、送風ファンにより 部屋の隅々まで温風を行き渡らせる。燃 焼させた空気は煙突から排気させるた め、室内の空気と交ることはなく、清潔な 環境を保つことができる。木質ペレットは、 カーボンニュートラルであるため、CO2の排 出削減が可能。	-	-	-	-	○	77	*	%	熱効率	標準条件に よる評価	JHIAN- 5601:200 4	木質バイオ マス燃焼機 器の試験方 法通則	$\eta = 100 - (qa + qb + qr)$ 、 $\eta$ : 熱効率[%]、 qa : 試験燃料中の発熱量 当たり排気ガス中の熱損失 (Qa) の比、熱による熱損 失の割合 (燃焼基準) [%]、qb : 試験燃料の熱容 量当たり排気ガス中の化学的 熱損失 (Qb) 、の潜熱によ る熱損失の割合 (燃焼基 準) [%]、qr : 試験燃料の 熱容量当たり底部格子を通 過し残渣物中に残った可燃性 構成物質による熱損失 (Qr) の残渣物中の可燃性 構成、物質による損失の割合 (燃焼基準) [%] ※発熱量 は高位発熱量とする	JHIAN- 5601:200 4	木質バイオ マス燃焼機 器の試験方 法通則	JHIAN-5601:2004に準 拠、試験実施にあたっては、 ISO17025に準拠した試験 機関による性能評価を行うこ ととする。

水準表 クラスNo.	区分		概要		クラス			トップ ランナー 制度 規定	認証対象	LD-Tech 水準	指標							
	技術分類	設備・機器等	原理・しくみ	条件	能力 (名称)	能力 (単位)	測定単位				計算方法			試験条件				
							単位				名称	評価方法の タイプ	準拠する 規格	規格の 名称	計算式	準拠する 規格	規格の 名称	説明
S-196001	電気系給湯器	太陽熱集熱器対応エコキュート	自然冷媒（CO2）を用い、電動ヒートポンプサイクルにより65℃以上の高温沸きあげが可能な高効率の給湯システムに太陽熱集熱器を組み合わせたシステム。ヒートポンプユニットと給湯（貯湯）ユニット、集熱器で構成されている。日中は、太陽熱を利用するため、高効率化が可能。	一般地仕様、標準世帯、保温あり、1缶	貯湯容量	320L以上 550L未満	-	○	3	-	年間給湯保温効率（太陽熱部分除く）	標準規格による評価	JRA4050:2007R	家庭用ヒートポンプ給湯機	JRA4050:2007Rに準拠	JRA4050:2007R	家庭用ヒートポンプ給湯機	JRA4050:2007Rに準拠
S-196002				一般地仕様、標準世帯、保温あり、多缶	貯湯容量	320L以上 550L未満	-	●	3.3	-	年間給湯保温効率（太陽熱部分除く）	標準規格による評価	JIS C 9220:2011	家庭用ヒートポンプ給湯機	JISC9220:2011に準拠	JISC9220:2011	家庭用ヒートポンプ給湯機	JISC9220:2011に準拠
S-197001	燃焼式給湯器	ハイブリッド給湯機（家庭用）	ヒートポンプ給湯機とガス給湯器に貯湯タンクを組み合わせた家庭用給湯システム。ヒートポンプ給湯機が記録・学習した湯の使用状況に基づいて、ヒートポンプ給湯機を最も高効率となる沸き上げ温度で稼働させ、湯の使用状況に応じてガス給湯器がバックアップする。これによって過剰貯湯や放熱ロスを低減し、CO2排出削減を実現できる。風呂給湯兼用機、給湯暖房兼用機等がある。	給湯専用機（給湯：ヒートポンプ、ガス）	-	-	-	-	Oriented	-	年間給湯効率	標準規格による評価	JGKAS A705-2020	電気ヒートポンプ・ガス瞬間式併用型給湯機（ハイブリッド給湯機）の年間給湯効率測定方法	JGKAS A705-2020に準拠	JGKAS A705-2020	電気ヒートポンプ・ガス瞬間式併用型給湯機（ハイブリッド給湯機）の年間給湯効率測定方法	JGKAS A705-2020に準拠
S-197002				給湯暖房兼用機（給湯、暖房：ヒートポンプ、ガス）	-	-	-	-	Oriented	-	年間給湯効率	標準規格による評価	JGKAS A705-2020	電気ヒートポンプ・ガス瞬間式併用型給湯機（ハイブリッド給湯機）の年間給湯効率測定方法	JGKAS A705-2020に準拠	JGKAS A705-2020	電気ヒートポンプ・ガス瞬間式併用型給湯機（ハイブリッド給湯機）の年間給湯効率測定方法	JGKAS A705-2020に準拠

水準表 クラスNo.	概要			クラス			トップ ランナー 制度 規定	認証対象	LD-Tech 水準	指標									
	区分 技術分類	設備・機器等	原理・しくみ	条件	能力 (名称)	能力 (単位)				測定単位		計算方法			試験条件				
										単位	名称	評価方法の タイプ	準拠する 規格	規格の 名称	計算式	準拠する 規格	規格の 名称	説明	
S-197003	燃焼式給湯器	ハイブリッド給湯機 (家庭用)	ヒートポンプ給湯機とガス給湯器に貯湯タンクを組み合わせた家庭用給湯システム。ヒートポンプ給湯機が記録・学習した湯の使用状況に基づいて、ヒートポンプ給湯機を最も高効率となる沸き上げ温度で稼働させ、湯の使用状況に応じてガス給湯器がバックアップする。これによって過剰貯湯や放熱ロスを低減し、CO2排出削減を実現できる。風呂給湯兼用機、給湯暖房兼用機等がある。	給湯暖房兼用機（給湯：ヒートポンプ、ガス、暖房：ガス）	-	-	-	● Oriented	142.3	-	年間給湯効率	標準規格による評価	JGKAS A705-2020	電気ヒートポンプ・ガス瞬間式併用型給湯機（ハイブリッド給湯機）の年間給湯効率測定方法	JGKAS A705-2020に準拠	JGKAS A705-2020	電気ヒートポンプ・ガス瞬間式併用型給湯機（ハイブリッド給湯機）の年間給湯効率測定方法	JGKAS A705-2020に準拠	
S-197004				風呂給湯兼用機（給湯：ヒートポンプ、ガス）	-	-	-	● Oriented	142.3	-	年間給湯効率	標準規格による評価	JGKAS A705-2020	電気ヒートポンプ・ガス瞬間式併用型給湯機（ハイブリッド給湯機）の年間給湯効率測定方法	JGKAS A705-2020に準拠	JGKAS A705-2020	電気ヒートポンプ・ガス瞬間式併用型給湯機（ハイブリッド給湯機）の年間給湯効率測定方法	JGKAS A705-2020に準拠	
S-199001	太陽熱給湯機	真空管形集熱器 (強制循環型太陽熱給湯器用) (家庭用)	太陽の光エネルギーを熱エネルギーに変え、水などの熱媒に伝える役割の装置。真空管形は集熱部が真空層を有する二重ガラスで構成され、真空層が空気対流による熱損失を防ぐことができる。外気温との温度差が大きい場合でも集めた熱が外へ逃げにくく、高い効率を維持できる。	-	-	-	-	●	12694	*	kJ/m <sup>2</sup> ・日	単位面積1日あたりの集熱量	標準規格による評価	JISA4112:2011	太陽集熱器	JISA4112:2011に準拠	JISA4112:2011	太陽集熱器	JISA4112:2011に準拠
S-200001		平板形集熱器 (強制循環型太陽熱給湯器用) (家庭用)	太陽の光エネルギーを熱エネルギーに変え、水などの熱媒に伝える役割の装置。平板形は集熱面が平板状になっており、表面は透明な強化ガラス板で覆われている。下部には熱が逃げないよう、断熱材が施されている。	-	-	-	-	○	13954	*	kJ/m <sup>2</sup> ・日	単位面積1日あたりの集熱量	標準規格による評価	JISA4112:2011	太陽集熱器	JISA4112:2011に準拠	JISA4112:2011	太陽集熱器	JISA4112:2011に準拠

水準表 クラスNo.	区 分			概 要			ク ラ ス			トッ プ ラン ナ ー 制 度 規 定	認 証 対 象	LD-Tech 水 準	指 標						
	技術分類	設備・機器等	原理・しくみ	条件	能力 (名称)	能力 (単位)	測定単位		計 算 方 法				試 験 条 件						
							単位	名称	評価方法の タイプ				準拠する 規格	規格の 名称	計算式	準拠する 規格	規格の 名称	説明	
S-201001	太陽熱給湯 機	蓄熱槽（強制循環型太陽熱給湯器用）（家庭用）	蓄熱槽は、集熱器で集められた熱を熱交換してお湯を蓄える装置。	-	-	-	-	●	1.54	*	W/K	熱損失係数	標準規格による評価	JISA4113:2013	太陽蓄熱槽	$KA = (V \times Cp \times \rho (\theta_s - \theta_e)) \div (T \times \Delta \theta) \quad \Delta \theta = ((\theta_s + \theta_e) \div 2) - ((\theta_1 + \theta_2 + \dots + \theta_n) \div n)$ KA: 熱損失係数[W/K] V: 蓄熱槽容量[m <sup>3</sup> ] $\theta_s$ : 試験開始時蓄熱媒体温度[°C] $\theta_e$ : 試験終了時蓄熱媒体温度[°C] T: 試験開始から試験終了までの時間[s] Cp: 蓄熱媒体の定圧比熱[J/(kg・K)] $\rho$ : 蓄熱媒体の密度[kg/m <sup>3</sup> ] $\theta_n$ : 周囲温度[°C] n: 1時間ごとに測定した周囲温度の測定回数	JISA4113:2013	太陽蓄熱槽	JISA4113:2013に準拠
S-201002				-	-	-	-	○	93.2	*	%	有効出湯効率	標準規格による評価	JISA4113:2013、BLT SO:2015、またはSS-TS002	太陽蓄熱槽、優良住宅部品性能試験方法書太陽熱利用システム、または有効出湯効率試験	JISA4113:2013、BLT SO:2015、またはSS-TS002	太陽蓄熱槽、優良住宅部品性能試験方法書太陽熱利用システム、または有効出湯効率試験	JISA4113:2013、BLT SO:2015、またはSS-TS002に準拠	
S-202001	その他	液晶テレビ	液晶テレビとは表示装置に液晶を用いた薄型のテレビ受信機をいう。従来はバックライトにCCFL(Cold CathodeFluorescent Lamp:冷陰極管)を用いていたが、近年は発光効率の良いLED(発光ダイオード)が主流となっている。	-	-	-	■	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
S-203001	その他	電気便座	電気便座は内蔵された電気ヒータにより座面を加温する機能等を持つ便座であり、主に暖房用の便座のみを有する暖房便座と暖房便座に温水洗浄装置を組み込んだ温水洗浄便座がある。さらに、温水洗浄便座の洗浄に使う温水については貯湯タンクをもつ貯湯式と貯湯タンクのない瞬間式がある。また、便座の暖房機能(保温)については学習機能やタイマーによる低炭素技術が導入されており、さらにセンサーが人の動きを感知し、瞬間的に便座を温める、瞬間暖房便座機能が付随しているものもある。(瞬間式:タンクがなく、使用の度に水を瞬間湯沸器で温める方式。保温する貯湯式に比べ消費電力量を削減できる。)	-	-	-	■	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

水準表 クラスNo.	区 分			概 要			ク ラ ス			トッ プ ラン ナ ー 制 度 規 定	認 証 対 象	LD-Tech 水 準	指 標						
	技術分類	設備・機器等	原理・しくみ	条件	能力 (名称)	能力 (単位)	測定単位		計 算 方 法				試 験 条 件						
							単位	名称	評価方法の タイプ				準拠する 規格	規格の 名称	計算式	準拠する 規格	規格の 名称	説明	
S-207001	燃料電池	固体酸化物形燃料電池 (SOFC) 設備	電解質を挟んだ二つの電極に酸素と水素を供給して電気と熱を発生させる。燃料極、空気極という2枚の電極が、電解質を挟んでいるものをセルといい、セル単体を積み重ねたものをセルスタックという。セルを直列に接続することで、高い電圧と大きな電力が得られる。	-	出力	200kW以下	-	○	55.6	*	%	発電効率	標準条件による評価	JISC8841-3:2011及びJISC8842:2013	小形固体酸化物形燃料電池システム-第3部：性能試験方法及び環境試験方法及び固体酸化物形燃料電池単セル及びスタックの発電性能試験方法	$\eta_e = (W_{out} - W_{in}) / Q_f \times 100$ , $\eta_e$ : 発電効率[%], $W_{out}$ : 送電電力量[kWh], $W_{in}$ : 受電電力量[kWh], $Q_f$ : 積算燃料消費熱量(低位発熱量) [kWh]	JISC8841-3:2011及びJISC8842:2013	小形固体酸化物形燃料電池システム-第3部：性能試験方法及び環境試験方法及び固体酸化物形燃料電池単セル及びスタックの発電性能試験方法	JISC8841-3:2011及びJISC8842:2013に準拠
S-207002								200kW超 250kW以下	-	○	65	*							
S-210001	太陽光発電	太陽電池 (シリコン系・単結晶)	太陽電池は、光の持つエネルギーを、直接的に電力に変換する装置である。太陽電池内部に入射した光のエネルギーは、電子によって直接的に吸収され、PN接合の界面にあらかじめ設けられた電界に導かれ、電力として太陽電池の外部へ出力される。単結晶系は、高純度の単結晶のシリコン基板を使用した太陽電池。実用化されている太陽電池の中で最も変換効率が高く、耐久性・信頼性にも優れている。	-	-	-	-	○	22.9	*	%	セル実効変換効率	標準規格による評価	JISC8960:2012	太陽光発電用語	JISC8960:2012に準拠	JISC8914:2005	結晶系太陽電池モジュール出力測定方法	JISC8914:2005に準拠
S-210002									-	○	21.2	%	モジュール変換効率	標準規格による評価	JISC8914:2005	結晶系太陽電池モジュール出力測定方法	JISC8914:2005に準拠	JISC8914:2005	結晶系太陽電池モジュール出力測定方法
S-211001		太陽電池 (シリコン系・多結晶)	太陽電池は、光の持つエネルギーを、直接的に電力に変換する装置である。太陽電池内部に入射した光のエネルギーは、電子によって直接的に吸収され、PN接合の界面にあらかじめ設けられた電界に導かれ、電力として太陽電池の外部へ出力される。結晶の粒径が数mm程度の多結晶シリコンを利用した太陽電池。変換効率の面では単結晶と比較して低いが、単結晶より製造工程が簡便であるため、効率とコストのバランスが良く、普及が進んでいる。	-	-	-	-	○	16.4	%	モジュール変換効率	標準規格による評価	JISC8914:2005	結晶系太陽電池モジュール出力測定方法	JISC8914:2005に準拠	JISC8914:2005	結晶系太陽電池モジュール出力測定方法	JISC8914:2005に準拠	

水準表 クラスNo.	区 分			クラス			トップ ランナー 制度 規定	認 証 対 象	LD-Tech 水準	指 標								
	技術分類	設備・機器等	概 要 原理・しくみ	条件	能力 (名称)	能力 (単位)				測定単位			計算方法			試験条件		
										単位	名称	評価方法の タイプ	準拠する 規格	規格の 名称	計算式	準拠する 規格	規格の 名称	説明
S-212001	太陽光発電	太陽電池（化合物系）	太陽電池は、光の持つエネルギーを、直接的に電力に変換する装置である。太陽電池内部に入射した光のエネルギーは、電子によって直接的に吸収され、PN接合の界面にあらかじめ設けられた電界に導かれ、電力として太陽電池の外部へ出力される。本項目では、主成分に銅(Cu)、インジウム(In)、ガリウム(Ga)、セレン(Se)を用いた化合物であるCIGS系について記載する。薄膜で省材料などの長所をもち、わずか2～3μmの厚さであっても光を十分吸収するため、薄膜太陽電池としては高い変換効率を得られる。	-	-	-	-	○	15.5	%	モジュール変換効率	標準規格による評価	JISC8960:2012	太陽光発電用語	JISC8960:2012に準拠	JISC8939:2013	薄膜太陽電池モジュール	JISC8939:2013に準拠
S-213001		太陽電池（薄膜シリコン）	太陽電池は、光の持つエネルギーを、直接的に電力に変換する装置である。太陽電池内部に入射した光のエネルギーは、電子によって直接的に吸収され、PN接合の界面にあらかじめ設けられた電界に導かれ、電力として太陽電池の外部へ出力される。薄膜系は、ガラス、金属箔、フィルムなどの上に2～3ミクロンの太陽電池の層を形成させるものである。	-	-	-	-	○	9.6	%	モジュール変換効率	標準規格による評価	JISC8960:2012	太陽光発電用語	JISC8960:2012に準拠	JISC8935:2005	アモルファス太陽電池モジュール出力測定方法	JISC8935:2005に準拠
S-214001		トランスレス方式パワーコンディショナ（太陽光発電用）	太陽光発電用パワーコンディショナは、直流電力を調整するコンバータ、直流電力を交流電力に変換するインバータ、事故時等に系統を保護する系統連系保護装置で構成される。トランスレス方式は、パワーコンディショナ内の直流電圧調整をコンバータのみで行う方式であり、高周波変圧器絶縁方式に比較し、高効率となるものの電力会社系統との連系には、別途変圧器が必要となる。	-	出力	10kW未満	-	○	98	%	定格負荷効率	標準規格による評価	JISC8961:2008	太陽光発電用パワーコンディショナの効率測定方法	$\eta R = P_0 / P_i \times 100$ 、 $\eta R$ : 定格負荷効率[%]、 $P_0$ : 定格負荷容量におけるパワーコンディショナの出力[kW]、 $P_i$ : 定格負荷容量におけるパワーコンディショナの入力[kW]	JISC8961:2008	太陽光発電用パワーコンディショナの効率測定方法	JISC8961:2008に準拠
S-214002						10kW以上	-	○	98.4									

水準表 クラスNo.	概要			クラス			トップ ランナー 制度 規定	認証対象	LD-Tech 水準	指標								
	区分 技術分類	設備・機器等	原理・しくみ	条件	能力 (名称)	能力 (単位)				測定単位		計算方法			試験条件			
										単位	名称	評価方法の タイプ	準拠する 規格	規格の 名称	計算式	準拠する 規格	規格の 名称	説明
S-215001	太陽光発電	高周波変圧器絶縁方式パワーコンディショナ（太陽光発電用）	太陽光発電用パワーコンディショナは、直流電力を交流電力に変換するインバータ、事故時等に系統を保護する系統連系保護装置で構成される。直流電力を交流電力に変換する際に損失が生じることから、変換効率（定格負荷効率）の高いパワーコンディショナの選定が重要となる。高周波変圧器絶縁方式は、パワーコンディショナ内の直流電圧調整をコンバータと変圧器の組み合わせで行う方式であり、トランスレス方式に比較し、電力変換効率は低下するが、パワーコンディショナから出力された電力はそのまま電力会社系統と連系可能となる。	-	-	-	-	○	96.5	%	定格負荷効率	標準規格による評価	JISC8961:2008	太陽光発電用パワーコンディショナの効率測定方法	$\eta R = P_0 / P_i \times 100$ 、 $\eta R$ : 定格負荷効率[%]、 $P_0$ : 定格負荷容量におけるパワーコンディショナの出力[kW]、 $P_i$ : 定格負荷容量におけるパワーコンディショナの入力[kW]	JISC8961:2008	太陽光発電用パワーコンディショナの効率測定方法	JISC8961:2008に準拠
S-222001	水力発電	プロペラ水車（小水力発電用）	水を取り込むケーシングから案内羽根を経て下向きの水流に変化させ、羽根車の軸方向に流れてこれを回転させる。落差と流量変化によって羽根の角度を自動的に調節できる可動羽根のものはカプラン水車として区別され、プロペラ水車は常に一定の角度の固定羽根のものを指す。	-	出力	200kW未満	-	○	80	%	水車効率	標準規格による評価	JEC4002:1992	水車およびポンプ水車の効率試験方法	$\eta = (1,000 \times P) \div (g \times \rho \times Q \times H)$ 、 $\eta$ : 水車効率[%]、 $P$ : 水車出力[kW]、 $g$ : 重力加速度[m/s <sup>2</sup> ]、 $\rho$ : 水の密度[kg/m <sup>3</sup> ]、 $Q$ : 流量[m <sup>3</sup> /s]、 $H$ : 有効落差[m]	JEC4002:1992	水車およびポンプ水車の効率試験方法	JEC4002:1992に準拠
S-223001		フランス水車（小水力発電用）	水を取り込むケーシングの中に羽根車（ランナー）を設置し、そこを流れる水の圧力により回転させる水車である。最も一般的な水車で、数10m～数100mの落差に広く使われている。	-	出力	200kW未満	-	○	85	%	水車効率	標準規格による評価	JEC4002:1992	水車およびポンプ水車の効率試験方法	$\eta = (1,000 \times P) \div (g \times \rho \times Q \times H)$ 、 $\eta$ : 水車効率[%]、 $P$ : 水車出力[kW]、 $g$ : 重力加速度[m/s <sup>2</sup> ]、 $\rho$ : 水の密度[kg/m <sup>3</sup> ]、 $Q$ : 流量[m <sup>3</sup> /s]、 $H$ : 有効落差[m]	JEC4002:1992	水車およびポンプ水車の効率試験方法	JEC4002:1992に準拠
S-227001	地熱発電	温水熱源小型バイナリー発電設備	バイナリー発電は、水よりも沸点の低い二次媒体を使うため、より低温の地熱流体での発電に適しており、地熱流体で温められた二次媒体の蒸気でタービンを回して発電する。生産井から地熱流体を取り出し、地熱流体で二次媒体を温め、蒸気化し、二次媒体の蒸気でタービンを回転させ発電する。二次媒体を温めた後の地熱流体は、還元井から地下に戻し、発電し終わった二次媒体は、凝縮器で液体に戻し、循環ポンプで再度、蒸発器に送る。熱源として温水を利用する。	100℃未満、200V/220V	出力	3.0kW未満	-	-	-	%	送電端発電効率	標準条件による評価	環境省により独自に設定された方法	-	$\eta = P/Q \times 100$ 、 $\eta$ : 送電端発電効率[%]、 $P$ : 送電端出力[kW]、 $Q$ : 入熱量(低位発熱量)[kW]送電端出力 = (発電端出力) - (作動媒体ポンプ、インバータ、(絶縁トランス)、ほかユニット内消費電力)	環境省により独自に設定された方法	-	送電端発電効率の算出にあたっては、温水入口温度、冷却水入口温度を次のとおり設定することを条件とする。温水入口温度: 95℃以下、冷却水入口温度: 20℃以上

水準表 クラスNo.	区分			クラス			トップ ランナー 制度 規定	認証対象	LD-Tech 水準	指標								
	技術分類	設備・機器等	概要 原理・しくみ	条件	能力 (名称)	能力 (単位)				測定単位		計算方法			試験条件			
										単位	名称	評価方法の タイプ	準拠する 規格	規格の 名称	計算式	準拠する 規格	規格の 名称	説明
S-227002	地熱発電	温水熱源小型バイ ナリー発電設備	バイナリー発電は、水よりも沸点の低い二 次媒体を使うため、より低温の地熱流体 での発電に適しており、地熱流体で温め られた二次媒体の蒸気でタービンを回し て発電する。生産井から地熱流体を取り 出し、地熱流体で二次媒体を温め、蒸 気化し、二次媒体の蒸気でタービンを回 転させ発電する。二次媒体を温めた後の 地熱流体は、還元井から地下に戻し、 発電し終わった二次媒体は、凝縮器で 液体に戻し、循環ポンプで再度、蒸発器 に送る。熱源として温水を利用する。	100℃未 満、 200V/220 V	出力	3.0kW以 上6.5kW 未満	-	-	-	%	送電端発電 効率	標準条件に よる評価	環境省によ り独自に設 定された方 法	-	$\eta = P/Q \times 100$ 、 $\eta$ ：送電端 発電効率[%]、P：送電端 出力[kW]、Q：入熱量(低 位発熱量)[kW]送電端出力 = (発電端出力) - (作動 媒体ポンプ、インバータ、(絶 縁トランス)、ほかユニット内 消費電力)	環境省によ り独自に設 定された方 法	-	送電端発電効率の算出にあ たっては、温水入口温度、冷 却水入口温度を次のとおり設 定することを条件とする。温水 入口温度：95℃以下、冷却 水入口温度：20℃以上
S-227003				6.5kW以 上45kW未 満		-	○	6.2	*									
S-227004				45kW以上 100kW未 満		-	○	6.2	*									
S-227005				100kW以 上200kW 未満		-	○	6.8	*									
S-227006				200kW以 上300kW 未満		-	-	-										
S-227007	地熱発電			100℃未 満、 400V/440 V	出力	3.0kW未 満	-	-	-	%	送電端発電 効率	標準条件に よる評価	環境省によ り独自に設 定された方 法	-	$\eta = P/Q \times 100$ 、 $\eta$ ：送電端 発電効率[%]、P：送電端 出力[kW]、Q：入熱量(低 位発熱量)[kW]送電端出力 = (発電端出力) - (作動 媒体ポンプ、インバータ、(絶 縁トランス)、ほかユニット内 消費電力)	環境省によ り独自に設 定された方 法	-	送電端発電効率の算出にあ たっては、温水入口温度、冷 却水入口温度を次のとおり設 定することを条件とする。温水 入口温度：95℃以下、冷却 水入口温度：20℃以上
S-227008				3.0kW以 上6.5kW 未満		-	-	-										
S-227009				6.5kW以 上45kW未 満		-	○	6.2	*									
S-227010				45kW以上 100kW未 満		-	○	6.8	*									
S-227011				100kW以 上200kW 未満		-	○	8.15	*									



水準表 クラスNo.	区分		概要		クラス			トップ ランナー 制度 規定	認証対象	LD-Tech 水準	指標							
	技術分類	設備・機器等	原理・しくみ	条件	能力 (名称)	能力 (単位)	測定単位				計算方法			試験条件				
							単位				名称	評価方法の タイプ	準拠する 規格	規格の 名称	計算式	準拠する 規格	規格の 名称	説明
S-227012	地熱発電	温水熱源小型バイナリー発電設備	バイナリー発電は、水よりも沸点の低い二次媒体を使うため、より低温の地熱流体での発電に適しており、地熱流体で温められた二次媒体の蒸気でタービンを回して発電する。生産井から地熱流体を取り出し、地熱流体で二次媒体を温め、蒸気化し、二次媒体の蒸気でタービンを回転させ発電する。二次媒体を温めた後の地熱流体は、還元井から地下に戻し、発電し終わった二次媒体は、凝縮器で液体に戻し、循環ポンプで再度、蒸発器に送る。熱源として温水を利用する。	100℃未満、 400V/440V	出力	200kW以上 300kW未満	-	-	-	%	送電端発電 効率	標準条件による評価	環境省により独自に設定された方法	-	$\eta = P/Q \times 100$ 、 $\eta$ ：送電端発電効率[%]、P：送電端出力[kW]、Q：入熱量(低位発熱量)[kW]送電端出力 = (発電端出力) - (作動媒体ポンプ、インバータ、(絶縁トランス)、ほかユニット内消費電力)	環境省により独自に設定された方法	-	送電端発電効率の算出にあたっては、温水入口温度、冷却水入口温度を次のとおり設定することを条件とする。温水入口温度：95℃以下、冷却水入口温度：20℃以上
S-227013				100℃以上 120℃未満、 200V/220V	出力	3.0kW未満	-	-	-	%	送電端発電 効率	標準条件による評価	環境省により独自に設定された方法	-	$\eta = P/Q \times 100$ 、 $\eta$ ：送電端発電効率[%]、P：送電端出力[kW]、Q：入熱量(低位発熱量)[kW]送電端出力 = (発電端出力) - (作動媒体ポンプ、インバータ、(絶縁トランス)、ほかユニット内消費電力)	環境省により独自に設定された方法	-	送電端発電効率の算出にあたっては、温水入口温度、冷却水入口温度を次のとおり設定することを条件とする。温水入口温度：95℃以下、冷却水入口温度：20℃以上
S-227014						3.0kW以上 6.5kW未満	-	-	-									
S-227015						6.5kW以上 45kW未満	-	-	-									
S-227016						45kW以上 100kW未満	-	-	-									
S-227017						100kW以上 200kW未満	-	-	-									
S-227018						200kW以上 300kW未満	-	-	-									
S-227019				100℃以上 120℃未満、 400V/440V	出力	3.0kW未満	-	-	-	%	送電端発電 効率	標準条件による評価	環境省により独自に設定された方法	-	$\eta = P/Q \times 100$ 、 $\eta$ ：送電端発電効率[%]、P：送電端出力[kW]、Q：入熱量(低位発熱量)[kW]送電端出力 = (発電端出力) - (作動媒体ポンプ、インバータ、(絶縁トランス)、ほかユニット内消費電力)	環境省により独自に設定された方法	-	送電端発電効率の算出にあたっては、温水入口温度、冷却水入口温度を次のとおり設定することを条件とする。温水入口温度：115℃以下、冷却水入口温度：20℃以上

水準表 クラスNo.	区分			クラス			トップ ランナー 制度 規定	認証対象	LD-Tech 水準	指標								
	技術分類	設備・機器等	概要 原理・しくみ	条件	能力 (名称)	能力 (単位)				測定単位		計算方法			試験条件			
										単位	名称	評価方法の タイプ	準拠する 規格	規格の 名称	計算式	準拠する 規格	規格の 名称	説明
S-227020	地熱発電	温水熱源小型バイ ナリー発電設備	バイナリー発電は、水よりも沸点の低い二 次媒体を使うため、より低温の地熱流体 での発電に適しており、地熱流体で温め られた二次媒体の蒸気でタービンを回し て発電する。生産井から地熱流体を取り 出し、地熱流体で二次媒体を温め、蒸 気化し、二次媒体の蒸気でタービンを回 転させ発電する。二次媒体を温めた後の 地熱流体は、還元井から地下に戻し、 発電し終わった二次媒体は、凝縮器で 液体に戻し、循環ポンプで再度、蒸発器 に送る。熱源として温水を利用する。	100℃以上 120℃未 満、 400V/440 V	出力	3.0kW以 上6.5kW 未満	-	-	-	%	送電端発電 効率	標準条件に よる評価	環境省によ り独自に設 定された方 法	-	$\eta = P/Q \times 100$ 、 $\eta$ ：送電端 発電効率[%]、P：送電端 出力[kW]、Q：入熱量(低 位発熱量)[kW]送電端出力 = (発電端出力) - (作動 媒体ポンプ、インバータ、(絶 縁トランス)、ほかユニット内 消費電力)	環境省によ り独自に設 定された方 法	-	送電端発電効率の算出にあ たっては、温水入口温度、冷 却水入口温度を次のとおり設 定することを条件とする。温水 入口温度：115℃以下、冷 却水入口温度：20℃以上
S-227021				6.5kW以 上45kW未 満		-	-	-										
S-227022				45kW以上 100kW未 満		-	●	7.8	*									
S-227023				100kW以 上200kW 未満		-	○	8.78	*									
S-227024				200kW以 上300kW 未満		-	-	-										
S-227025	地熱発電			120℃以上 250℃未 満、 200V/220 V	出力	3.0kW未 満	-	-	-	%	送電端発電 効率	標準条件に よる評価	環境省によ り独自に設 定された方 法	-	$\eta = P/Q \times 100$ 、 $\eta$ ：送電端 発電効率[%]、P：送電端 出力[kW]、Q：入熱量(低 位発熱量)[kW]送電端出力 = (発電端出力) - (作動 媒体ポンプ、インバータ、(絶 縁トランス)、ほかユニット内 消費電力)	環境省によ り独自に設 定された方 法	-	送電端発電効率の算出にあ たっては、温水入口温度、冷 却水入口温度を次のとおり設 定することを条件とする。温水 入口温度：245℃以下、冷 却水入口温度：20℃以上
S-227026				3.0kW以 上6.5kW 未満		-	-	-										
S-227027				6.5kW以 上45kW未 満		-	-	-										
S-227028				45kW以上 100kW未 満		-	-	-										

水準表 クラスNo.	区分			クラス			トップ ランナー 制度 規定	認証対象	LD-Tech 水準	指標											
	技術分類	設備・機器等	概要 原理・しくみ	条件	能力 (名称)	能力 (単位)				測定単位		計算方法			試験条件						
										単位	名称	評価方法の タイプ	準拠する 規格	規格の 名称	計算式	準拠する 規格	規格の 名称	説明			
S-227029	地熱発電	温水熱源小型バイ ナリー発電設備	バイナリー発電は、水よりも沸点の低い二 次媒体を使うため、より低温の地熱流体 での発電に適しており、地熱流体で温め られた二次媒体の蒸気でタービンを回し て発電する。生産井から地熱流体を取り 出し、地熱流体で二次媒体を温め、蒸 気化し、二次媒体の蒸気でタービンを回 転させ発電する。二次媒体を温めた後の 地熱流体は、還元井から地下に戻し、 発電し終わった二次媒体は、凝縮器で 液体に戻し、循環ポンプで再度、蒸発器 に送る。熱源として温水を利用する。	120℃以上 250℃未 満、 200V/220 V	出力	100kW以 上200kW 未満	-	-	-	%	送電端発電 効率	標準条件に よる評価	環境省によ り独自に設 定された方 法	-	$\eta = P/Q \times 100$ 、 $\eta$ ：送電端 発電効率[%]、P：送電端 出力[kW]、Q：入熱量(低 位発熱量)[kW]送電端出力 = (発電端出力) - (作動 媒体ポンプ、インバータ、(絶 縁トランス)、ほかユニット内 消費電力)	環境省によ り独自に設 定された方 法	-	送電端発電効率の算出にあ たっては、温水入口温度、冷 却水入口温度を次のとおり設 定することを条件とする。温水 入口温度：245℃以下、冷 却水入口温度：20℃以上			
S-227030								200kW以 上300kW 未満	-	-	-										
S-227031	地熱発電			120℃以上 250℃未 満、 400V/440 V	出力	3.0kW未 満	-	-	-	%	送電端発電 効率	標準条件に よる評価	環境省によ り独自に設 定された方 法	-	$\eta = P/Q \times 100$ 、 $\eta$ ：送電端 発電効率[%]、P：送電端 出力[kW]、Q：入熱量(低 位発熱量)[kW]送電端出力 = (発電端出力) - (作動 媒体ポンプ、インバータ、(絶 縁トランス)、ほかユニット内 消費電力)	環境省によ り独自に設 定された方 法	-	送電端発電効率の算出にあ たっては、温水入口温度、冷 却水入口温度を次のとおり設 定することを条件とする。温水 入口温度：245℃以下、冷 却水入口温度：20℃以上			
S-227032								3.0kW以 上6.5kW 未満	-	-	-										
S-227033									6.5kW以 上45kW未 満	-	-	-									
S-227034									45kW以上 100kW未 満	-	-	-									
S-227035									100kW以 上200kW 未満	-	-	-									
S-227036									200kW以 上300kW 未満	-	-	-									

水準表 クラスNo.	区分		概要		クラス			トップ ランナー 制度 規定	認証対象	LD-Tech 水準	指標							
	技術分類	設備・機器等	原理・しくみ	条件	能力 (名称)	能力 (単位)	測定単位				計算方法			試験条件				
							単位				名称	評価方法の タイプ	準拠する 規格	規格の 名称	計算式	準拠する 規格	規格の 名称	説明
S-228001	地熱発電	蒸気熱源小型バイ ナリー発電設備	バイナリー発電は、水よりも沸点の低い二 次媒体を使うため、より低温の地熱流体 での発電に適しており、地熱流体で温め られた二次媒体の蒸気でタービンを回し て発電する。生産井から地熱流体を取り 出し、地熱流体で二次媒体を温め、蒸 気化し、二次媒体の蒸気でタービンを回 転させ発電する。二次媒体を温めた後の 地熱流体は、還元井から地下に戻し、 発電し終わった二次媒体は、凝縮器で 液体に戻し、循環ポンプで再度、蒸発器 に送る。熱源として蒸気を利用する。	200V/220 V	出力	3.0kW未 満	-	-	-	%	送電端発電 効率	標準条件に よる評価	環境省によ り独自に設 定された方 法	-	$\eta = P/Q \times 100$ 、 $\eta$ : 送電端 発電効率[%]、P : 送電端 出力[kW]、Q : 入熱量(低 位発熱量)[kW]送電端出力 = (発電端出力) - (作動 媒体ポンプ、インバータ、(絶 縁トランス)、ほかユニット内 消費電力)	環境省によ り独自に設 定された方 法	-	蒸気送電端発電効率の算出 にあたっては、入口蒸気温度、 出口ドレン温度、冷却水入口 温度を次のとおり設定するこ とを条件とする。入口蒸気温 度 : 130℃以下、出口ドレ ン温度 : 36℃以上、冷却水入 口温度 : 20℃以上
S-228002						3.0kW以 上6.5kW 未満	-	-	-									
S-228003						6.5kW以 上45kW未 満	-	-	-									
S-228004						45kW以上 100kW未 満	-	-	-									
S-228005						100kW以 上200kW 未満	-	-	-									
S-228006						200kW以 上300kW 未満	-	-	-									
S-228007	地熱発電	蒸気熱源小型バイ ナリー発電設備	バイナリー発電は、水よりも沸点の低い二 次媒体を使うため、より低温の地熱流体 での発電に適しており、地熱流体で温め られた二次媒体の蒸気でタービンを回し て発電する。生産井から地熱流体を取り 出し、地熱流体で二次媒体を温め、蒸 気化し、二次媒体の蒸気でタービンを回 転させ発電する。二次媒体を温めた後の 地熱流体は、還元井から地下に戻し、 発電し終わった二次媒体は、凝縮器で 液体に戻し、循環ポンプで再度、蒸発器 に送る。熱源として蒸気を利用する。	400V/440 V	出力	3.0kW未 満	-	-	-	%	送電端発電 効率	標準条件に よる評価	環境省によ り独自に設 定された方 法	-	$\eta = P/Q \times 100$ 、 $\eta$ : 送電端 発電効率[%]、P : 送電端 出力[kW]、Q : 入熱量(低 位発熱量)[kW]送電端出力 = (発電端出力) - (作動 媒体ポンプ、インバータ、(絶 縁トランス)、ほかユニット内 消費電力)	環境省によ り独自に設 定された方 法	-	蒸気送電端発電効率の算出 にあたっては、入口蒸気温度、 出口ドレン温度、冷却水入口 温度を次のとおり設定するこ とを条件とする。入口蒸気温 度 : 130℃以下、出口ドレ ン温度 : 36℃以上、冷却水入 口温度 : 20℃以上
S-228008						3.0kW以 上6.5kW 未満	-	-	-									
S-228009						6.5kW以 上45kW未 満	-	-	-									

水準表 クラスNo.	区分		概要		クラス			トップ ランナー 制度 規定	認証対象	LD-Tech 水準	指標								
	技術分類	設備・機器等	原理・しくみ	条件	能力 (名称)	能力 (単位)	測定単位				計算方法			試験条件					
							単位				名称	評価方法の タイプ	準拠する 規格	規格の 名称	計算式	準拠する 規格	規格の 名称	説明	
S-228010	地熱発電	蒸気熱源小型バイナリー発電設備	バイナリー発電は、水よりも沸点の低い二次媒体を使うため、より低温の地熱流体での発電に適しており、地熱流体で温められた二次媒体の蒸気でタービンを回して発電する。生産井から地熱流体を取り出し、地熱流体で二次媒体を温め、蒸気化し、二次媒体の蒸気でタービンを回転させ発電する。二次媒体を温めた後の地熱流体は、還元井から地下に戻し、発電し終わった二次媒体は、凝縮器で液体に戻し、循環ポンプで再度、蒸発器に送る。熱源として蒸気を利用する。	400V/440V	出力	45kW以上 100kW未満	-	-	-	%	送電端発電 効率	標準条件による評価	環境省により独自に設定された方法	-	$\eta = P/Q \times 100$ 、 $\eta$ ：送電端発電効率[%]、P：送電端出力[kW]、Q：入熱量(低位発熱量)[kW]送電端出力 = (発電端出力) - (作動媒体ポンプ、インバータ、(絶縁トランス)、ほかユニット内消費電力)	環境省により独自に設定された方法	-	蒸気送電端発電効率の算出にあたっては、入口蒸気温度、出口ドレン温度、冷却水入口温度を次のとおり設定することを条件とする。入口蒸気温度：130℃以下、出口ドレン温度：36℃以上、冷却水入口温度：20℃以上	
S-228011						100kW以上 200kW未満	-	●	10.97	*									
S-228012						200kW以上 300kW未満	-	-	-										
S-231001	バイオマス発電	ガスエンジン発電設備(メタン発酵発電用)	バイオメタンガスを燃料にシリンダー内部で燃料の爆発(膨張)を発生させ、その圧力でピストンを往復動させ、その往復動を回転エネルギーに変える発電装置。ストイキオメトリ燃焼(理論空気で混合したガスが完全燃焼する方式)、リーンバーンと呼ばれる希薄燃焼の二つの方式があり、最近では予混合圧縮着火燃焼といわれる高圧縮による自然着火でシリンダー内全体をメラメラと燃える点火プラグを用いないものが環境面や高効率化で注目を集めている。	50Hz	出力	100kW未満	-	●	84	*	%	総合効率	標準規格による評価	JIS8122:2009	コージェネレーションユニットの性能試験方法	$\eta_{t.out} = \eta_{out} + \eta_h$ (発電端)、 $\eta_{t.out}$ ：発電端総合効率[%]、 $\eta_{out}$ ：発電効率[%]、 $\eta_h$ ：熱出力効率[%]	JIS8122:2009	コージェネレーションユニットの性能試験方法	JIS8122:2009に準拠、メタン濃度は60%を試験条件とする。
S-231002						100kW以上 1000kW未満	-	○	41.8	*									
S-231003					50Hz	出力	100kW未満	-	○	32	%	発電効率	標準規格による評価	JIS8122:2009	コージェネレーションユニットの性能試験方法	$\eta_{out} = (H_f \times F_f) \times 100$ $\eta_{out}$ : 発電効率[%] Pout: 発電出力(発電端) [kW] Hf: 燃料の低位発熱量[MJ/m3N] Ff: 燃料消費量[m3N/h]	JIS8122:2009	コージェネレーションユニットの性能試験方法	JIS8122:2009に準拠、メタン濃度は60%を試験条件とする。
S-231004						100kW以上 1000kW未満	-	○	38.8										

水準表 クラスNo.	区 分			概 要			ク ラ ス			トッ プラ ンナ ー 制 度 規 定	認 証 対 象	LD-Tech 水 準	指 標									
	技術分類	設備・機器等	原理・しくみ	条件	能力 (名称)	能力 (単位)	測定単位		計 算 方 法				試 験 条 件									
							単位	名称	評価方法の タイプ				準拠する 規格	規格の 名称	計算式	準拠する 規格	規格の 名称	説明				
S-231005	バイオマス発 電  (メタン発酵発 電用)	ガスエンジン発電設 備	バイオメタンガスを燃料にシリンダー内部で 燃料の爆発(膨張)を発生させ、その 圧力でピストンを往復動させ、その往復 動を回転エネルギーに変える発電装置。 ストイキオメトリ燃焼(理論空気で混合 したガスが完全燃焼する方式)、リーン バーンと呼ばれる希薄燃焼の二つの方式 があり、最近では予混合圧縮着火燃 焼といわれる高圧縮による自然着火でシ リンダー内全体をメラメと燃える点火プラグ を用いないものが環境面や高効率化で 注目を集めている。	60Hz	出力	100kW未 満	-	●	84	*	%	総合効率	標準規格に よる評価	JIS8122:2 009	コージエ レーションユ ニットの性能 試験方法	$\eta_{t.out} = \eta_{out} + \eta_h$ (発電 端)、 $\eta_{t.out}$ : 発電端総合 効率[%]、 $\eta_{out}$ : 発電効率 [%]、 $\eta_h$ : 熱出力効率[%]	JIS8122:2 009	コージエ レーションユ ニットの性能 試験方法	JIS8122:2009に準拠、メタ ン濃度は60%を試験条件と する。			
S-231006								100kW以 上1000kW 未満	-	-	-											
S-231007							60Hz	出力	100kW未 満	-	○	32		%	発電効率	標準規格に よる評価	JIS8122:2 009	コージエ レーションユ ニットの性能 試験方法	$\eta_{t.out} = \eta_{out} + \eta_h$ (発電 端)、 $\eta_{t.out}$ : 発電端総合 効率[%]、 $\eta_{out}$ : 発電効率 [%]、 $\eta_h$ : 熱出力効率[%]	JIS8122:2 009	コージエ レーションユ ニットの性能 試験方法	JIS8122:2009に準拠、メタ ン濃度は60%を試験条件と する。
S-231008									100kW以 上1000kW 未満	-	-	-										
S-232001	ディーゼル発電設 備(バイオディーゼ ル燃料専用)	ディーゼルエンジンを主機関とする発電機 であり、軽油や重油の代わりにバイオマス ディーゼル燃料を用いる。バイオマスディー ゼル燃料の使用によりCO2削減を実現 するほか、非常時のバックアップや電力消 費のピークカットに貢献する。	50Hz、燃 料の種類: バイオマス ディーゼル燃 料	出力	22kW未 満 (25kVA 未満)	-	○	33.1	*	%	発電効率	標準規格に よる評価	JIS8122:2 019	コージエ レーションユ ニットの性能 試験方法	$\eta_{out} = (3.6 \times P_{out}) \div$ $(H_f \times F_f) \times 100$ $\eta_{out}$ : 発 電効率[%]、 $P_{out}$ : 発電出 力(発電端)[kW]、 $H_f$ : 燃料の低位発熱量 [MJ/m <sup>3</sup> N]、 $F_f$ : 燃料消費 量[m <sup>3</sup> N/h]	JIS8122:2 019	コージエ レーションユ ニットの性能 試験方法	JIS8122:2019に準拠。使 用するバイオディーゼル燃料濃 度を100%とする				
S-232002							22kW以上 74kW未 満 (25kVA 以上 80kVA未 満)	-	○	48	*											

水準表 クラスNo.	区分			クラス			トップ ランナー 制度 規定	認証対象	LD-Tech 水準	指標												
	技術分類	設備・機器等	概要 原理・しくみ	条件	能力 (名称)	能力 (単位)				測定単位		計算方法			試験条件							
										単位	名称	評価方法の タイプ	準拠する 規格	規格の 名称	計算式	準拠する 規格	規格の 名称	説明				
S-232003	バイオマス発電 (バイオディーゼル燃料専用)	ディーゼル発電設備 (バイオディーゼル燃料専用)	ディーゼルエンジンを主機関とする発電機であり、軽油や重油の代わりにバイオマスディーゼル燃料を用いる。バイオマスディーゼル燃料の使用によりCO2削減を実現するほか、非常時のバックアップや電力消費のピークカットに貢献する。	50Hz、燃料の種類：バイオマスディーゼル燃料	出力	74kW以上 368kW未満 (80kVA以上 400kVA未満)	-	○	48.9	*	%	発電効率	標準規格による評価	JIS8122:2019	コージエレーションユニットの性能試験方法	$\eta_{out} = (3.6 \times P_{out}) \div (H_f \times F_f) \times 100$ $\eta_{out}$ : 発電効率[%]、 $P_{out}$ : 発電出力(発電端)[kW]、 $H_f$ : 燃料の低位発熱量[MJ/m3N]、 $F_f$ : 燃料消費量[m3N/h]	JIS8122:2019	コージエレーションユニットの性能試験方法	JIS8122:2019に準拠。使用するバイオディーゼル燃料濃度を100%とする			
						368kW以上 (400kVA以上)	-	○	46	*												
S-232004							60Hz、燃料の種類：バイオマスディーゼル燃料	出力	22kW未満 (25kVA未満)	-	○	32.3	*	%	発電効率	標準規格による評価	JIS8122:2019	コージエレーションユニットの性能試験方法	$\eta_{out} = (3.6 \times P_{out}) \div (H_f \times F_f) \times 100$ $\eta_{out}$ : 発電効率[%]、 $P_{out}$ : 発電出力(発電端)[kW]、 $H_f$ : 燃料の低位発熱量[MJ/m3N]、 $F_f$ : 燃料消費量[m3N/h]	JIS8122:2019	コージエレーションユニットの性能試験方法	JIS8122:2019に準拠。使用するバイオディーゼル燃料濃度を100%とする
S-232005							22kW以上 74kW未満 (25kVA以上 80kVA未満)	-	○	46.1	*											
S-232006							74kW以上 368kW未満 (80kVA以上 400kVA未満)	-	○	42.7	*											
S-232007				368kW以上 (400kVA以上)	-	○	45.9	*														
S-232008																						

水準表 クラスNo.	概要			クラス			トップ ランナー 制度 規定	認証対象	LD-Tech 水準	指標									
	区分 技術分類	設備・機器等	原理・しくみ	条件	能力 (名称)	能力 (単位)				測定単位		計算方法			試験条件				
										単位	名称	評価方法の タイプ	準拠する 規格	規格の 名称	計算式	準拠する 規格	規格の 名称	説明	
S-236001	熱輸送	潜熱蓄熱輸送設備	潜熱蓄熱材 (PCM:Phase Change Material) をコンテナに充填し、PCMの融解熱として高密度に熱エネルギーを蓄えて、車輛により広範囲に熱を供給する技術。	-	蓄熱容量、 排熱源温度	蓄熱容量 850kWh以上、 排熱源 温度130℃ 以上	-	●	11.2	*	[eq]	エネルギー効 率	標準条件に よる評価	環境省によ り独自に設 定された方 法	-	エネルギー効率[eq]=Qout /Qin、投入エネルギー量 [Qin]=熱回収に要するエネ ルギー量 (Qstorage)、+ 熱輸送に要するエネルギー量 (Qtransfer)、+熱供給 に要するエネルギー量 (Qsupply)、熱供給量 (Qout) = 需要先にて供給 した正味の熱供給量	環境省によ り独自に設 定された方 法	-	エネルギー効率の算出にあつ ては、供給距離、車両燃費、 供給温度を次のとおり設定す ることを条件とする。供給距 離：10km、車両燃費：蓄 熱容量850kWh以上 2.5km/l、蓄熱容量 850kWh未満 4.0km/l
S-236002					蓄熱容量 850kWh以 上、排熱源 温度130℃ 未満	-	●	8.8	*										
S-236003					蓄熱容量 850kWh未 満、排熱源 温度130℃ 以上	-	●	6.8	*										
S-236004					蓄熱容量 850kWh未 満、排熱源 温度130℃ 未満	-	●	4.8	*										
S-255001	リン回収設 備	リン回収設備HAP 法 (し尿・浄化槽 汚泥用)	りん酸を含む汚水の生物処理水に対し て、晶析槽においてカルシウム材を添加 し、pH調整することによりHAP(ヒドロキ シアパタイト、Ca10(PO4)6(OH)2)の 結晶を析出させる方法。回収したリンは 副産りん酸肥料として再利用可能。	-	-	-	-	○	80	*	%	PO4-P除去 率	標準条件に よる評価	環境省手引 き	リン回収・利 活用の手引 き	(晶析槽入口PO4-P濃度- 晶析槽出口PO4-P濃度) / 晶析槽入口PO4-P濃度	環境省大臣 官房廃棄 物・リサイ クル対策部 廃棄物対策課	リン回収・利 活用の手引 き	処理量の内訳 し尿：浄化 槽汚泥 = 4 : 6、し尿T-P 濃度：270mg/L、し尿 PO4-P濃度：189mg/L、 浄化槽汚泥T-P濃度： 150mg/L、浄化槽汚泥 PO4-P濃度：60mg/L、混 合T-P濃度：198mg/L、混 合PO4-P濃度：112mg/L
S-256001		リン回収設備MAP 法 (し尿・浄化槽 汚泥用)	りん酸を含む汚水に対して、晶析槽にお いてマグネシウム材を添加し、pH調整す ることによりMAP(リン酸マグネシウムアンモ ニウム、(MgNH4PO4)の結晶を析出さ せる方法。回収したリンは化成肥料として 再利用可能。	-	-	-	-	○	75	*	%	PO4-P除去 率	標準条件に よる評価	環境省手引 き	リン回収・利 活用の手引 き	(晶析槽入口PO4-P濃度- 晶析槽出口PO4-P濃度) / 晶析槽入口PO4-P濃度	環境省大臣 官房廃棄 物・リサイ クル対策部 廃棄物対策課	リン回収・利 活用の手引 き	処理量の内訳 し尿：浄化 槽汚泥 = 4 : 6、し尿T-P 濃度：270mg/L、し尿 PO4-P濃度：189mg/L、 浄化槽汚泥T-P濃度： 150mg/L、浄化槽汚泥 PO4-P濃度：60mg/L、混 合T-P濃度：198mg/L、混 合PO4-P濃度：112mg/L



水準表 クラスNo.	区分		概要		クラス			トップ ランナー 制度 規定	認証対象	LD-Tech 水準	指標								
	技術分類	設備・機器等	原理・しくみ	条件	能力 (名称)	能力 (単位)	測定単位				計算方法			試験条件					
							単位				名称	評価方法の タイプ	準拠する 規格	規格の 名称	計算式	準拠する 規格	規格の 名称	説明	
S-257001	リン回収設備	リン回収設備MAP法（下水汚泥用）	脱水の液からリン回収する従来事例に対し、よりリン含有量の高い下水汚泥からMAP（リン酸マグネシウムアンモニウム）として回収する「MAP法」が平成24/25年度国交省B-DASH採択事業で開発された。回収したリンは配合肥料（化成肥料）として再利用可能。	リン濃度低減の高度処理がおこなわれていること、汚泥は消化処理がおこなわれていること	-	-	-	○	90	*	%	PO4-P除去率	標準条件による評価	国土交通省ガイドライン	資料 No.805 B-DASHプロジェクト NO.6 2014年8月消化汚泥からのリン除去・回収技術導入ガイドライン（案）	(消化汚泥PO4-P濃度-リン処理PO4-P濃度) / 消化汚泥PO4-P濃度	国土交通省 国土技術政策総合研究所	資料 No.805 B-DASHプロジェクト NO.6 2014年8月消化汚泥からのリン除去・回収技術導入ガイドライン（案）	消化汚泥濃度（TS）：1.7%、消化汚泥T-P濃度：600mg/L、消化汚泥PO4-P濃度：200mg/L
S-259001	選別機	近赤外線樹脂選別機	プラスチックに近赤外線を照射すると材質により吸収される波長が異なることを利用し、特定の材質の選別を行う。コンベア先端のエアノズルで吹き落とし選別する。PVC、PVDC除去（サーマルリサイクル）やPP、PS、ABS選別（マテリアルリサイクル）に使用される。	-	-	-	-	○	3		種類	選別樹脂種類数	標準条件による評価	環境省交付規定	H27年度二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金（省CO2型リサイクル高度化設備導入促進事業）交付規定	選別樹脂種類数に残渣は含まない	環境省により独自に設定	-	選別純度：99%、（ベルトコンベア幅100mmあたりの樹脂の投入量が50kg/h以内の場合）

## 別紙

No.	設備・機器等	クラス		LD-Tech水準	備考
		条件	能力		
S-092001	BEMS（制御サービス・空調・熱源・中央方式）	空気熱源仕様	-	<p>下記の①～⑤の条件を満たすBEMSサービスであること。</p> <p>①冷水負荷熱量、冷水出口温度、外気温度、熱源機エネルギー消費量、冷水ポンプエネルギー消費量を計測できる機能を保有</p> <p>②上記①の計測粒度が1分単位以内であること</p> <p>③冷水負荷熱量、冷水出口温度、外気温度、を説明変数として、合計のエネルギー消費量（熱源機エネルギー消費量、冷水ポンプエネルギー消費量の合計）が最小となるような冷水出口温度を（過去の実績データに基づいて）自動で算出できる機能を保有</p> <p>④上記の算出結果に基づいて冷水出口温度を自動制御できる機能を保有</p> <p>⑤導入可能な施設が、限定されない</p>	<p>複数の設備・機器等及び事業者にまたがりサービスが提供されるケースが存在するため、「BEMSサービス」を認証単位とした。その上で、審査・認証の実現可能性の観点から「具備機能による評価」を行うこととした。</p> <p>事例調査の結果、BEMSサービスには、情報提供サービス及び制御サービスが存在するが、中でも提供件数の最も多い中央方式の空調機を対象とした制御サービスを認証対象として設定した。</p> <p>文献調査及び企業・有識者へのヒアリングに基づき、サービスにおいて求められる機能要件は、下記の通りとし、本リストでは下記の「要件0」及び「要件1」に基づいて水準を設定している。</p> <p>要件0（必須）：導入可能な施設が限定されない</p> <p>要件1：セントラル空調システム全体のエネルギー消費量が最小となる負荷熱量を自動で算出し、それに基づいて自動的にシステムを制御可能</p>
S-092002	BEMS（制御サービス・空調・熱源・中央方式）	水熱源仕様	-	<p>下記の①～⑤の条件を満たすBEMSサービスであること。</p> <p>①冷水負荷熱量、冷水出口温度、冷却水入口温度、外気温度、熱源機エネルギー消費量、熱源補機エネルギー消費量、冷水ポンプエネルギー消費量、冷却水ポンプエネルギー消費量を計測できる機能を保有</p> <p>②上記①の計測粒度が1分単位以内であること</p> <p>③冷水負荷熱量、冷水出口温度、冷却水入口温度、外気温度を説明変数として、合計のエネルギー消費量（熱源機エネルギー消費量、熱源補機エネルギー消費量、冷水ポンプエネルギー消費量、冷却水ポンプエネルギー消費量の合計）が最小となるような冷水出口温度を（過去の実績データに基づいて）自動で算出できる機能を保有</p> <p>④上記③の算出結果に基づいて冷水出口温度を自動制御できる機能を保有</p> <p>⑤導入可能な施設が、限定されない</p>	<p>複数の設備・機器等及び事業者にまたがりサービスが提供されるケースが存在するため、「BEMSサービス」を認証単位とした。その上で、審査・認証の実現可能性の観点から「具備機能による評価」を行うこととした。</p> <p>事例調査の結果、BEMSサービスには、情報提供サービス及び制御サービスが存在するが、中でも提供件数の最も多い中央方式の空調機を対象とした制御サービスを認証対象として設定した。</p> <p>文献調査及び企業・有識者へのヒアリングに基づき、サービスにおいて求められる機能要件は、下記の通りとし、本リストでは下記の「要件0」及び「要件1」に基づいて水準を設定している。</p> <p>要件0（必須）：導入可能な施設が限定されない</p> <p>要件1：セントラル空調システム全体のエネルギー消費量が最小となる負荷熱量を自動で算出し、それに基づいて自動的にシステムを制御可能</p>
S-126001	内部熱交換最適化蒸留システム	蒸留塔が高圧部（濃縮部）と低圧部（回収部）とで物理的に分離しており一体でないもの	-	<p>下記の①および②の条件を満たす蒸留システムであること。</p> <p>①高圧部と低圧部とで熱交換できる機能を保有</p> <p>②蒸留塔内部の熱分布を調整し熱交換率を最適化できる機能を保有</p>	<p>本設備・機器等は、個別受注設計生産されるため標準条件（試験条件、計算方法）を設定し、定量評価する方法はそわないと判断し、審査・認証の実現可能性の観点から「具備機能による評価」を行うこととした。</p> <p>文献調査及び企業・有識者へのヒアリングに基づき、本設備・機器等として求められる機能要件をLD-Tech水準とした。</p>
S-186001	HEMS（情報提供サービス・家電全般）	-	-	<p>下記の①～⑤の条件を満たすHEMSサービスであること。</p> <p>①対象住宅全体の電力消費量を、30分単位以内で計測できる機能を保有</p> <p>②上記①において計測したエネルギー消費量と、他住宅で計測したエネルギー消費量を比較し、対象住宅全体のエネルギー消費量のランキング情報を表示できる機能を保有</p> <p>③上記②のランキング情報を、対象住宅におけるユーザー属性別※に表示できる機能を保有 ※地域別、間取別、家族構成別の3種いずれも</p> <p>④導入可能な住宅が、単一の住宅メーカーが供給する住宅に限定されない</p> <p>⑤導入の際にインターネット接続サービスへの加入が必要な場合、集合住宅向け全戸一括契約型へのサービス加入を前提としない</p>	<p>複数の設備・機器等及び事業者にまたがりサービスが提供されるケースが存在するため、「HEMSサービス」を認証単位とした。その上で、審査・認証の実現可能性の観点から「具備機能による評価」を行うこととした。</p> <p>事例調査の結果、HEMSサービスには、情報提供サービス及び制御サービスが存在するが、中でも提供件数の最も多い家電全般を対象とした情報提供サービスを認証対象として設定した。</p> <p>文献調査及び企業・有識者へのヒアリングに基づき、サービスにおいて求められる機能要件は、下記のいずれかとし、本リストでは「要件0」および「要件3」を対象とし水準を設定している。</p> <p>要件0（必須）：導入可能な住宅が限定的されていない</p> <p>要件1：現状のエネルギー消費量に応じて省エネアドバイス、および目標の省エネ量が提供可能</p> <p>要件2：現状の光熱水道費に応じて節約アドバイス、および目標の節約額を提供可能</p> <p>要件3：エネルギー消費量が類似している世帯との比較情報の提供が可能</p> <p>要件4：過去のサービス利用履歴の情報に基づいて、より興味・関心の強い情報の提供が可能</p> <p>要件5：現状のエネルギー消費量が自身の平均的な消費量と比較して多くなったタイミングで、消費量が多いことを閲覧頻度が多い媒体へPush配信可能</p>